



研究開発実施報告書

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第1年次

平成28年3月

学校法人 創価学園



関西創価高等学校

SGH 研究開発成果集発刊にあたって

関西創価高等学校校長 中西 均

本校では 1973 年の開校以来、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との信条を持ち、積極的に世界の平和と人類の幸福に寄与する「世界市民」の育成に取り組んでまいりました。

「健康な英才主義」「人間性豊かな実力主義」を掲げ、校訓にも「進取の気性に富み、栄光ある日本の指導者、世界の指導者に育て」と謳っています。

本校の SGH への挑戦は 2013 年の秋。職員会議で先生方に呼びかけると、瞬く間に 21 名の SGH 委員が集まりました。保健体育科の教員も併設の中学校の教員もいて、そこには SGH の取り組みを通して、新たな学校を自分たちの手で作ろうとの情熱があふれていました。これまでの世界市民教育の伝統の上に、21 世紀にふさわしいプログラムを皆で考え、まさに不眠不休で作り上げた構想調書をもって、2014 年 2 月、SGH に申請。結果はアソシエイトでした。予算がつかず、考えていた構想を実現するには無理があり、SGH 委員会で皆の意見を聞きました。これ以上、委員の負担をかけることに躊躇していた私に、「中西先生、予算がなくなつて、出来ることからやりましょう！」と皆が言ってくれたときの感動は忘れられません。

そうして SGHA として取り組んだグローバルリーダー育成プログラム。全くの手作りのプログラムでしたが、生徒の反応は上々で、大いに意識を向上させました。それは同時に教職員の意識も変革させたのです。SGHA での 1 年間の取り組みこそは、本校にとっては、新しい「世界市民教育」のための貴重なトレーニングであったと感謝しています。

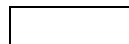
本校の研究開発構想名は、「TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」。その概要は、「Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する」というものです。

他人任せではなく自ら立ち上がり、他者の幸福に寄与したいとの使命感に満ちた人を、どんなに離れた国や地域の出来事にも興味関心をもち、当事者意識を持つ共感力ある人を、そして異文化の人々とも連帯し、地球的課題の解決に取り組む創造力ある人を、私たちは育てたい。その思いで取り組んだ最初の 1 年間の挑戦をまとめました。皆様よりご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、運営指導委員である梶田叡一先生、米田伸次先生、朝野富三先生、また提携していただいております大学、国際機関、研究機関の皆様、そして多くの SGH(A)校の皆様にも深く感謝申し上げます。

報告書 目次

I	平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要	4
II	実施報告書	6
1	研究開発の概要	6
2	各研究の取り組み	7
2-1	GRIT (Global Research and Inquiry Time)	
2-2	Global Citizenship Seminar	
2-3	FW (Field Work 東京・広島・アメリカ・東北)	
2-4	LC (Learning Cluster)	
2-5	UP (University Partnership)	
2-6	Active Learning	
2-7	NIE (Newspaper in Education)	
3	成果と分析	126
III	関係資料	131
1	SGH中間研究発表会・第一回運営指導委員会議事録	
2	SGH最終研究発表会・第二回運営指導委員会議事録	



平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	かんさいそうかこうとうがっこう					②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	関西創価高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	普通科 生徒数 1075 名 (2014 年度)		
	普通科	359	357	359		1075	同キャンパスに中学校を併設	
⑥研究開発構想名	TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム							
⑦研究開発の概要	<u>Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する。</u>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	(1) 目的・目標 1600 年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野。21 世紀はこの交野より世界へ飛び立ち、 <u>地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的とする。</u> SGHA として 2014 年度に取り組んだプログラムをさらに発展させ、創価大学・アメリカ創価大学・オタゴ大学等の高大連携を強力に推進し、UNDP 等国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げる。						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 最近 5 年間における海外大学進学者数の累計は 53 名であり、本校から創価大学に進学した者の 40%は留学等海外経験を行うなど意識は高いが、さらなる語学力の向上や主体的な学びの姿勢を育む授業改革が必要であり、高大連携しての Active Learning、ICT 教育に取り組むことで大きく改善が期待できる。 生徒自ら地球的課題に挑み解決しようとする「使命感」は、第一に世界の現状を知り、苦しみを分かち合う「共感力」の向上の中で培われるものであると信じる。 <u>世界が課題とする「環境・開発・人権・平和」の 4 分野について、大学、国際機関、企業と提携し、国連が具体的に提起している諸問題を探究し、生徒たちがチームとして新たな視点からその解決を目指すプロセスを確立することとする。</u> そのため、教育の根幹たる授業において、友と協力し自ら学ぶ学習スタイルを確立することが今後のグローバルリーダー育成の取り組みの土台となるので、Active Learning を全教科にわたり積極的に導入するべきである。その基礎の上に、全員で取り組む探究型総合学習 GRIT での「環境・開発・人権・平和」の 4 分野の学びはより進むものと確信する。さらに興味関心を抱く希望者には、高大連携プログラムとして、SP (SOKA Progress) クラスと呼ばれるグローバルイシューの基礎講座を実施。そこで学びを深めた生徒からさらに選抜して、国際機関と提携しての LC (Learning Cluster) プログラムを行う。						
		(3) 成果の普及 専用 WEB サイトでの発信とともに、他の指定校と連携しながら、SGH 教育報告会を開催。またオープンキャンパスにおいて、内外に向けた取り組み成果の報告を行う。新たに開発した教材はデジタル化し、広く公開していく。						

⑧ -2 課 題 研 究	(1) 課題研究内容 グローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力の育成を図るため、「<u>環境・開発・人権・平和</u>」の4分野について国連が具体的に提起している諸問題を探究し、チームとして解決方法を目指すプロセスを確立する。 ※コアとなるグローバルイシューは、「ポスト 2015 開発アジェンダ」の検討内容を中心として各チームがテーマを設定し探求する。 (2) 実施方法・検証評価 ①探究型総合学習 GRIT (Global Research and Inquiry Time) ○土曜日に実施 ○全校生徒を対象 ○「環境・開発・人権・平和」の4分野について大学・国際機関・企業と提携し探究活動 ○大学院生を各クラスに TA として配置 ○1 年生「環境・開発」 2 年生「人権・平和」 3 年生では模擬国連と論文作成 ○GRIT 講演会 Global Citizenship Seminar を学期毎に開催 ○全員が EarthKAM を体験し、宇宙から地球を見つめる視点を育成 ○「天の川ホテル復活プロジェクト」で自然との共生の心を育む ②高大連携プログラム SP (SOKA Progress) Class ○希望者を対象 ○グローバルリーダーの資質向上に資する連続講座 ○提携大学・国際機関から講師を招き実施する UP(University Partnership)Class ○2016 年度から単位を付与 ○GRIT を推進し、LC へつなぐ ③国際機関と提携して行う先進的な特設プログラム LC (Learning Cluster) ○2・3 年生の希望者から最大 32 名 (2015 年度は 20 名を予定) を選抜 ○4 名 1 チームで 4 分野からコアとなるテーマを設定 ○活動の全ては英語 ○創価大学と提携した東京・アジアフィールドワーク ○アメリカ創価大学と提携したカリフォルニア環境人権平和フィールドワーク ○UNDP と提携した開発フィールドワーク ④高大連携で授業改善 — 友と協力し自ら学ぶ Active Learning を強力に展開 ○全ての課題研究の推進の土台として、主体性あふれる学びの姿勢を築く ○ICT 教育も同時に研究、推進 ○創価大学教育学部と提携し全教科で導入 検証評価 学年・学期毎に SGH 委員会が作成したルーブリック評価を導入し、生徒の変容を評価するとともに、提携大学関係者を交えた評価委員会により行う。 (3) 必要となる教育課程の特例等 なし
⑧ -3 上 記 以 外	(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ①留学生と地球的課題を語るプログラム Global Camp ②語学力向上の取り組みを強化 ○Critical Writing Center の設置 外国人講師が face to face で添削指導他 ③世界に、社会に目を向ける NIE (Newspaper in Education) ④日本人としての identity を育成する Feel Japan Program ○海外高校生徒との共同生活体験 ○留学生への古都案内 ○国語の授業、図書館、クラブでの「日本文化」の深化など 検証評価 教養とリーダーとしての資質向上を期し、授業連携や読書教育をさらに進める。各種コンテストの参加数、生徒へのアンケートをもって検証評価を行う。 (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。 (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ①校長を長とする SGH 委員会等教職員体制の整備、強化 ②保護者の意識変革 ③専用 WEB サイトの開設 ④図書館に「環境・開発・平和・人権」「グローバルビジネス」専用書架の設置 ⑤SGH カリキュラムを含め研究開発計画に沿って実施
⑨その他 特記事項	提携校の創価大学は SGU であり、本校の研究開発を効果的に進めることができる。

研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

関西創価高校がSGHを通して生徒に身につけさせたい力は、国連の提起する地球的課題についての探究活動を通し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」の3つである。Active Learningの土台の上に全校生徒を対象とした「環境・開発・人権・平和」の4分野について学ぶ探究型総合学習GRIT(Global Research and Inquiry Time)やGlobal Citizenship Seminar、希望者を対象とした高大連携プログラムのUP(University Partnership)Class、希望者から選抜された生徒がオールイングリッシュで徹底した探究を行うLC(Learning Cluster)で、「世界市民」を育成する教育課程を研究開発する。

【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要を参照)

(2) 本年度の研究開発の経緯

本校の最近5年間における海外大学進学者数の累計は53名であり、本校から創価大学に進学した者の40%は留学等海外経験を行うなど世界に対する意識は高い。併せて本校生徒の90%がクラブ活動や諸活動の団体に所属し、自ら望んでアクティブに活動する気風がある。学校の行事運営や集会の運営など生徒中心にリーダーシップを取って行う。全校生徒の約四分の一の生徒が校内のボランティア奉仕団体に所属し、奉仕の精神を学ぶなど、グローバルリーダーとしての素養をもともと持ち合わせていた。

SGHAとして2014年度に取り組んだGRITプログラムをさらに発展させ、アクティブラーニングを中心とした課題の発見・解決を目的とした課題研究型の学習方法も模索した。創価大学・アメリカ創価大学・京都大学等の高大連携を強力に推進し、UNDP等国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げることに着手した。また、国内・海外のフィールドワーク先の開拓や交流協定締結などもおこなった。加えて、生徒意識調査を2回行い、生徒の基本情報を把握することで、意識の変化による今年度の取り組みの分析及び次年度以降の取り組みの方向性の検討を実施した。

(3) 本年度の具体的な取り組み内容

①GRIT

- ・アクティブラーニングを中心に、本校SGHのテーマである「環境・開発・人権・平和」の4分野について全校生徒で探究し、3学期に生徒による成果発表会を行った。

②Global Citizenship Seminar

- ・国内外の国際機関や大学等の学術機関、社会で活躍する著名人から直接講演を受講。

③LC (Learning Cluster)

- ・希望者から選抜し、オールイングリッシュによる探究・調査・提言作成を行った。

④UP(University Partnership)Class

- ・希望者を対象にした高大連携プログラム。国内外の大学教授などによる地球的課題の基礎講座を受講。

⑤Field Work (東京・広島・アメリカ・東北)

⑥NIE (Newspaper in Education)

GRIT (Global Research and Inquiry Time)

1 GRIT 概要

2014年度に SGHA として採択されてから、登校する土曜日を利用し、総合学習 GRIT の授業を行っている。GRIT では、関西創価高校の SGH テーマ「環境・開発・人権・平和」の4分野についての基礎知識をビデオやプリントで学び、フィールドワーク、体験学習を行ってきた。GRIT は全員が4分野について学ぶ、本校の SGH プログラムの根幹となるものである。

2015年度の報告書ではあるが、2014年度からの継続の流れもあるので、2014年度の内容も簡単に記す。

2014年度は、1～3学年まで同じプログラムを行い、「環境・開発・人権・平和」の4分野すべての基礎を学んだ。1・2学期に様々な授業を行い、3学期はグループを作成し、自分たちで4分野の中からテーマを決め、調査を行い、発表をおこなった。

2014年度をふまえ、2015年度は1年生が「環境・開発」分野、2・3年生が「人権・平和」分野を学ぶことにした。これは2014年度に学んだ4分野の学びについて、もっと深く1分野ごとに学んだ方がいいのではという意見から変更した。

GRIT では毎回ワークシートを作成し、感想、意見、学んだことを書いてまとめるようにした。それをすべてファイルにとっておくようにし、自分が学んだことを記録として残した。

2 GRIT 授業までの流れ

GRIT は土曜日に全学年同時に開催する。そのため、授業の担当は担任もしくは学年担当の教員が行う。授業考案者や専門の教員が実施するのではないので、準備に時間をかけた。

流れは、授業内容を考案した教員が SGH 委員会に諮り、そこで意見を得て修正を行い、その後職員会議（学年ごとに内容が違うときには週1回行われる学年会）で、授業実施をする教員に説明し、質問を受けた。その際、授業の内容をまとめ、流れがわかるような指導案も作成した。

その指導案の中で授業を行う中で、担当者がこうしたらいいのではないかと改良をし、フィードバックをすることにより、よりよい授業になっていっている。

3 GRIT リーダー

GRIT の授業において、フィールドワーク、ディスカッション、体験学習などを行う際には、授業担当者の教員のみではなく、生徒に進行役をさせることがある。この役割を担うのが GRIT リーダーと呼ばれるメンバーである。GRIT リーダーが必要な授業の前に、クラスで募集をし、事前に授業内容に関する研修を受け、生徒が進行を行う。

4 プレゼンテーション

各学年ともに3学期の GRIT では、1年間で学んだことの中からテーマを選び、内容を深め、6名程度のグループで発表を行った。この活動は SGH として GRIT を行う前から、総合学習で学んだ内容をまとめて発表をしていた内容であり、2014年度より GRIT で学んだことを発表するようにしている。

1年生はパソコンをつかわず、2・3年生ではパソコンを使った発表を行った。特に2年生は6月に行っている創価大学での研修の際に、1年生に学んだ GRIT の内容をいかし、グループで調査をし、大学の教員の前で発表を行い、質疑応答、コメントをいただくなどし、内容を深めた。

また、関西の大学院生も10名弱来校してもらい、内容に関してアドバイスをもらうようにした。

1・2年生は、2月末の土曜日に保護者に来校していただいて、各クラスで1グループあたり10分の発表を行った。3年生は、4分野それぞれの優秀グループを1グループ選出し、2月に行った「2015年度 SGH 最終報告会」で発表を行った。

5 2014年度 GRIT

2014年度は全学年で「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野をテーマとして、学習を行った。年間の授業内容は以下の表のとおりである。その後概要を示す。2014年度の内容は概要のみ記載する。

日付	回	内容(テーマ)	詳細
2014/4/12	1	GRITガイダンス	
	2	環境	環境概要
2014/4/26	3	環境	校内環境フィールドワーク
2014/5/10	4	環境	アースカム説明
	5	環境	アースカム体験
2014/5/31	6	開発	貿易ゲーム
2014/6/21	7	開発	藤原講演
2014/7/12	8	インタビュー方法	
	9	インタビュー相手テーマ決め	
2014/9/13	10	インタビューフィールドワーク発表	
2014/10/11	11	平和	ビデオ
2014/11/15	12	平和	ビデオ・研究発表
2014/11/22	13	平和	核
	14	人権	いじめディスカッション
2014/12/13	15	人権	人権問題ジグソー
	16	人権	人権問題ジグソー
	17	プレゼングループ決め	
2015/1/10	18	プレゼン講座ビデオ	
	19	プレゼン準備	
	20	プレゼン準備	
2015/1/24	21	プレゼン準備	
2015/2/7	22	プレゼン準備	
	23	プレゼン準備	
	24	プレゼン準備	
2015/2/14	25	プレゼン準備	
	26	プレゼン準備	
	27	プレゼン準備	
2015/2/21	28	プレゼン準備	
	29	プレゼン発表会	
	30	プレゼン発表会	

① 2014/4/12 GRIT ガイダンス

SGHA 校に採択されたこと、関西創価高校としてのテーマ、なぜ世界市民教育を行うのかを様々な文献を通し説明を行った。全クラスに対し、ビデオ放映システムを使い、副校長の説明、SGH 委員会の説明などを行った。

② 2014/4/12 テーマ：環境 「環境概要講座」

世界で起きている環境問題を学び、今自分ができることを考えることを目的に環境概要講座を行った。世界での異常気象に関するビデオの視聴、セヴァン・スズキのスピーチのビデオ視聴、「学校の自然を守るには」と題したグループディスカッションを行い、その内容をグループごとに発表した。

③ 2014/4/26 テーマ：環境 「学校内フィールドワーク」

身近な環境問題や、環境の実態を学校内の自然を観察、実験することで学ぶために、「エコスタンプラリー&ミニクイズ」を実施。クラスを8グループに分け、校内16ポイントをまわり、スタンプを集め、その場所に関する環境クイズに答える。

- ・(校内に)桜は何本生えているでしょうか？
- ・マムシが活動する時間帯はいつでしょう。
- ・空に浮かんでいる雲の種類は何でしょう？
- ・どれか1つ野草を選んで、名前を調べてみよう
- ・パックテスト等を使用し、白鳥の池の水質を調べてみよう
- ・メタセコイアの幹回りを、道具を使わずに測定するには？
- ・土砂災害の兆候として、考えられるものは何でしょう？
- ・テニスコートで見つけたことがある、特定外来生物は？
- ・雷が光った後、5秒後に音が聞こえました。雷の距離は？
- ・ケヤキは常緑樹？落葉樹？

などの問題に答えた。授業終了5分前に教室に戻り、クイズの答え合わせを行った。

④ 2014/5/10 テーマ：環境 「EarthKAM 説明」

関西創価高校で参加してきたアースカムプロジェクトに関して理解する授業。

内容：EarthKAM プロジェクトに関して、取材されまとめられたケーブルテレビの番組ビデオの視聴。説明を受け、実際にEarthKAM プロジェクトで撮影した写真を見て、クイズを考えた。

⑤ 2014/5/10 テーマ：環境 「EarthKAM プロジェクト体験」

アースカムプロジェクトのミッションの体験を行った。英語で書かれた、マニュアルを見ながら、自分が撮影したいと思った場所が撮影可能かどうか、そして、撮影をどうやって行うかを考えた。

⑥ 2014/5/31 テーマ：開発 「貿易ゲーム」

2015年度に詳細を記載。

⑦ 2014/6/21 テーマ：開発 「藤原さん講演会」

グローバルシチズンシップセミナーとして、GOOD EARTH 株式会社代表取締役 藤原宏宣さんに講演をしていただいた（グローバルシチズンシップセミナーの項で詳細）

⑧ 2014/7/12 「フィールドワーク説明・インタビュー講座」

⑨ 「インタビュー企画」

GRITのテーマである「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野に関する仕事、活動をしている身近な人にインタビューを行うというフィールドワークを企画し、生徒に説明。そのために、インタビューについて説明されたNHK 高校講座を聞いた。また、グループでロールプレイを行い、インタビューをし、さらに誰にインタビューをしようか、テーマはどうするかを企画をたてた。

⑩ 2014/9/13 「インタビュー発表」

夏休みにインタビューを行いまとめたポスターについてグループ内で発表を行い、グループ内でもっともよかった発表について、クラス内で発表を行い、クラス最優秀作品を決定した。

⑪ 2014/10/11 テーマ：平和 「日米の意識差を考える」

広島・長崎への原爆投下に対する日米での意識差を考えるため、NHK の番組「悪魔の火球」、「アメリカの中の原爆論争 スミソニアン展示の波紋」を見て、ディスカッションを行った。

ディスカッションのテーマは、ビデオの中で原爆資料館を訪れたアメリカ人女性が「日本が行った非道な行為についての内容がなく怒りがわいた」と話したことに対して、「長崎の原爆資料館を訪れた女性の考え方に対して、どう思いますか。原爆を落としたことを正しいと思っている人々に対して、原爆について、どう伝えたらいいと思いますか。」とのテーマで考えた。

⑫ 2014/11/15 テーマ：平和 「核兵器に対する自分の意見を考える」

自分がどれだけ核兵器について知っているかのアンケートに答え、アメリカの高校生がディベートをしている映像、核が拡散している状況の映像を見て、世界の現状について知っていることを考えた。また、次回の GRIT でロールプレイを行うことを伝え、グループ内で核保有国の現状について以下の内容を調べてくるように指示した。

- ・核兵器をいつから保有しているか
- ・核弾頭をいくつ保有しているか
- ・核兵器を持つにいたった経緯（歴史的背景、政治状況など）
- ・（国名）が核軍縮、核廃絶に向かっていくためにはどうしていったらいいと思うか。

⑬ 2014/11/22 テーマ：平和 「核保有国ディスカッション」

調べてきた各国の内容の発表・共有、核保有マーシャル諸島が核保有国を提訴したニュースとニュース映像を見たあと、グループを半分に分け、マーシャル諸島側と保有国側にわかれ、核軍縮交渉の大使となり「核軍縮はできるのか」という模擬ディスカッションを行った。

⑭ 2014/11/22 テーマ：人権 「いじめディスカッション」

身近な人権問題について考えるために、「いじめ」について考える1時間とした。大阪教育大学の戸田教授の監修のもと、授業開始と最後にアンケートを行い、変容を見た。クラスにより2つの動画の中から1つを選択し、ディスカッションを行った。

⑮・⑯ 2014/12/13 テーマ：人権 「世界の人権問題」

世界の人権問題を学ぶために、マララ・ユスフザイさんのノーベル賞授賞式のビデオ、彼女を紹介するビデオを見て学び、アムネスティ日本のWebサイトに書かれている10種類の世界の人権問題をグループごとに学び、ジグソー法を使い、グループを混ぜて、共有を行った。

⑰～⑳ プレゼンテーション

4分野について学んだことからテーマを見つけ、グループごとに調査をし、まとめたものについてのプレゼンテーションを行った。1・2年生は保護者の前で、3年生はクラスの中とクラスを混ぜた中での発表を行った。

発表のために大切なことを考えるために、NHK「プレゼン白熱教室」のビデオを見て、発表を待つ人の態度なども考えた。

6 2015年度 GRIT

2015年度のGRITでは、1年生は「環境」「開発」の2分野について2014年度より深く学ぶようにした。2・3年生は「人権」「平和」のテーマについて学んだ。ただし、時によってまた、2年生はグループを組み、6月の創価大学での研修で4分野についての発表を行った。2015年度については、感想・ワークシートなども掲載する。

6.1 1年生 テーマ：「環境」「開発」

日付	回	内容(テーマ)	詳細
2015/4/11	1	GRITガイダンス	
2015/4/25	2	環境	校内環境フィールドワーク
	3	環境	校内環境フィールドワーク
2015/5/9	4	環境	環境概要
	5	環境	ホテル育成プロジェクト
2015/5/30	6	環境	アースカム説明
	7	環境	アースカム体験
2015/7/11	8	インタビュー相手テーマ決め	
2015/9/12	9	インタビューフィールドワーク発表	
2015/10/10	10	開発	GOODEARTH講演会
	11	開発	GOODEARTH講演会
2015/10/31	12	開発	SDGs概要学習
2015/11/14	13	開発	SDGs学習
2015/11/21	14	開発	貿易ゲーム
	15	開発	貿易ゲーム・まとめ
2015/12/12	16	プレゼン講座ビデオ	
	17	プレゼングループ決め	
2016/1/9	18	プレゼン準備	
	19	プレゼン準備	
	20	プレゼン準備	
2016/1/23	21	プレゼン準備	
2016/2/6	22	プレゼン準備	
	23	プレゼン準備	
	24	プレゼン準備	
2016/2/13	25	プレゼン準備	
	26	プレゼン準備	
	27	プレゼン準備	
2016/2/20	28	プレゼン準備	
	29	プレゼン発表会	
	30	プレゼン発表会	

① 2015/4/11 GRIT ガイダンス

2015年度SGH校に採択されたことを受け、関西創価高校のSGH構想の説明と、GRITの意義、4テーマの概略を放送システムで説明した。

内容は、校長の話、SGH委員長からの説明、LC（Learning Cluster）からのアピールを

行った。

○GRIT 生徒用プリント1：GRIT ガイダンス説明

SGH (Super Global High school) の取り組み

関西創価高校のみなさま、SGH 採択おめでとうございます！！グローバルリーダー目指して、学園全体で頑張っていきたいと思います。

ただ、「SGH！SGH！」と盛り上がっているけど、「SGH って何？」と思っている人もいられるかもしれません。そこで、関西創価高校が掲げる SGH への取り組みを説明します。

そもそも「SGH (Super Global High school)」とは、文部科学省が募集している「将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に関する教育課程等の研究開発を行う高等学校」(引用) のことです。そこに、関西創価高校が応募し、認められたものです。

関西校のテーマ：

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」

1600 年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野より、世界へ飛び立ち、地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的としています。

SGH の実践を通して、みなさんに着けてほしいと思っている力が3つ。

○使命感 ○共感力 ○問題解決への創造力 です。

そして、みなさんが取り組むべき地球的課題は4テーマ。

○環境 ○開発 ○人権 ○平和 です。

その他、新たな
取り組みもたく
さん企画中！

この4テーマを SGH で学んでいき、課題の解決策を考えていきます。

4テーマを学ぶ方法が3つ ○GRIT ○SP ○Learning Cluster です。

1. GRIT：全員で土曜日に学ぶ総合学習。(詳しくは別紙 GRIT ガイダンスと予定表参照)
2. SP：大学の先生方による地球的課題に関する授業(希望者)(14日放課後に説明会を行います)と、英語・数学の放課後授業(1年生には別途説明があります)
3. Learning Cluster：2・3年生の選抜メンバーによるオールイングリッシュの特別講座(1年生で2・3年になって入りたいと希望する人は別途 SP の説明会にいらしてください)

○SGH 校になった関西創価高校で、この1年、自分が取り組んでいこうと思う内容を書き残しておこう！

年 組 名前：

②③ 4/25 校内環境フィールドワーク

2014 年度同様、校内の自然に触れる環境クイズに答えながら、校内をめぐりスタンプラリーを行った。クラスで説明ののち、55 分間グループごとにまわり、最後に教室で答え合わせを行った。

4 月当初に行うことにより、グループごとの交流もできたが、この日は気温が高くなってしまったため、広い校内を歩くことが大変だったようだ。

生徒の感想：

- ・学園には森があって、きれいということがわかりました。やっぱり自然のある学園はいいなと思いました。
- ・思っていたより広がった。
- ・自然環境を学ぶ上で、自分の学校でフィールドワークができるのはめったにないと思うので、貴重な体験だった。

○GRIT 生徒用プリント 2：スタンプラリー枠

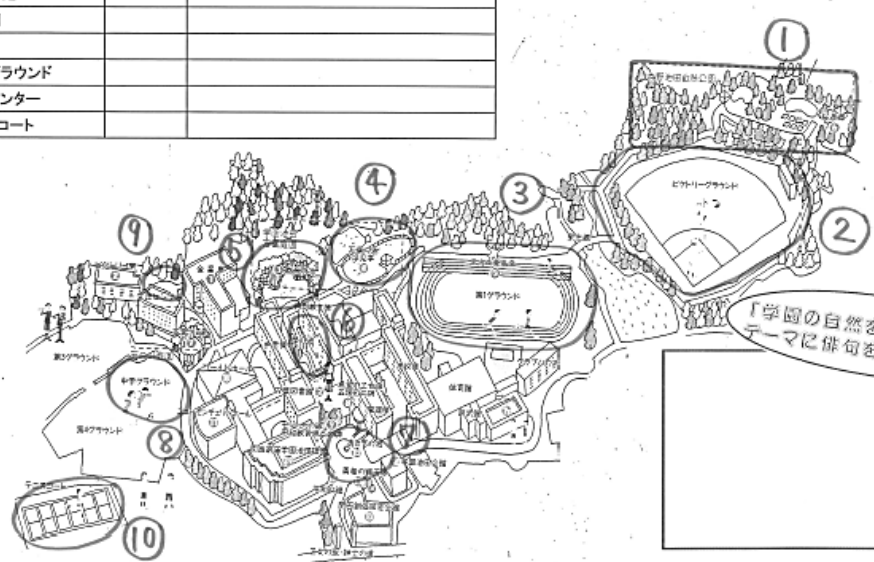
エコスタンプラリー & ミニクイズ

場所	行った場所	ミニクイズの答え
①校源郷		
②ビクトリーグラウンド		
③第1グラウンド		
④万葉の池		
⑤白鳥の池		
⑥堂の川		
⑦講堂		
⑧中学グラウンド		
⑨生徒センター		
⑩テニスコート		

GRIT(環境)ワークシート②
2014. 4. 26(土) 限日

()年()組()番 名前()

番号	スタンプ
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	



「学園の自然を守るために」をテーマに俳句を詠んでみよう！

環境① 校内フィールドワーク 感想・アンケート用紙

校内フィールドワークお疲れ様でした！！

さまざまなものを発見したり、学んだりすることができたのではないのでしょうか。

感想・アンケート用紙に今日の感想を記入して、記録しておこう。

1. いくつかのポイントを回れましたか？

15ポイント中 ____ ポイント

2. 環境クイズはいくつ正解しましたか？

10問中 ____ 問

3. フィールドワークで見つけたこと、学んだことを記入してください。

4. あなたはフィールドワークに積極的に取り組みましたか？

1. 取り組めた 2. どちらかといえば取り組めた 3. どちらかといえば取り組めなかった 4. 取り組めなかった

5. フィールドワークは楽しかったですか？

1. 楽しかった 2. どちらかといえば楽しかった 3. どちらかといえば楽しくなかった 4. 楽しくなかった

6. 感想を記入してください。

____ 組 ____ 番 名前：_____

④ 5/9 テーマ：環境

「環境入門—人・自然・宇宙のつながりと私たちの生活」

環境問題というのは「人間の健康や生存に直接関わる問題」ではあるが、少しずつの変化には気づかないので、それを「見える」化することが大切であり、そのための前回のフィールドワークだったことを確認した。そして、今、環境問題として何を知っているのか、世界中の子どもたちの意識などを考え、今できることを考えていきたいと思い、企画した。

自分が知っている気象災害を書きだした後、動画「地球温暖化 加速する気象災害」、
「1992年のセヴァンスズキさんのスピーチ」を視聴したあと、自分にできることは何かを考えるようにした。

○GRIT 生徒用プリント4：環境②ワークシート内容

GRIT 環境② ワークシート

前回、GRIT 環境①校内フィールドワークを行い、学園の環境を感じてもらいました。学園の中だけでも、様々な植生、水などがあり、その一つ一つから自然、環境を学ぶことができます。身近な環境と世界の環境と両面で考えていくGRITにしたいと思います。

- 1：あなたが知っている気象災害を書いてみよう
- 2：ビデオを見てわかったことをメモをとろう
- 3：セヴァンスズキさんのスピーチの感想を書こう
- 4：環境提言を読んで（また、今日のGRITを通して）今、私にできることは何か考えてみよう

生徒の感想：

- ・恵まれた生活をしている私たちは欲が深いけど、貧しい子供たちの方が「みんなのために～してあげたい」と言っていて、その心をもった人たちが増えたら、地球もよい方向に行くのではないかと思った。
- ・同じ年齢なのに、どうしてこうも考え方が違うのだろうと思う。今、自分にできることはきっと地球のことをよく知り、何をしていくべきかをよく考え、実行していくことだと思う。
- ・今、しっかり勉強することで、自分たちが大人になった時に、世界を変えていけると思った。
- ・現状を知り学ぶ事、争いをしないこと、対話で問題を解決すること、物を大事にする、無駄遣いをしない。
- ・「どうやって直すのかわからないものを、壊し続けるのはもう止めてください」この部分がすごく心に残りました。人のことを考えない大人になんてなりたくないと思っていたのに、知らないうちに私もかかわっているかもしれないとハッとした。

⑤ 5/9 テーマ：環境 「天の川ホタル復活プロジェクト」

関西創価高校には蛍保存会があり、開校当初より校内で蛍を飛ばそうという挑戦の歴史がある。現在6月には蛍が飛び、地域の方が見学する会も開催している。蛍が生息するためには、さまざまな環境に対する考え方を構築しなければならない。そのことを通し、創立者は「ホタルは平和のシンボル」とおっしゃられているがそれはなぜなのかなどを考えていきたい。

授業は、「ゲンジボタルの生態」のビデオを視聴し、学園の蛍保存会として活動をしてきた杉本創価教育センターの関西センター長がお話をしてくださったあと、ディスカッションを行った。

○GRIT 生徒用プリント：環境③ワークシート内容

GRIT 環境③ ワークシート内容

1：杉本先生のお話を聞きながらメモをとろう

2：「蛍は平和の象徴」というとらえ方は、創立者独自の視点です。

創立者はなぜそのように言われているのか、理由を話し合ってみよう

3：この時間の感想を書こう

生徒の感想：

- ・「自然と人間の両方の豊かさと清らかさがとけあったところに、蛍は飛ぶのかもしれませんが」とあるので、私たち人間が、自分たちが汚してしまった革をきれいにしていって、自分たちの心もきれいにしていけたらいいなと思いました。
- ・蛍はよい自然の中でしか育たないデリケートな虫なので、平和な場所でないと飼育ができない。自然（蛍）を保護することで平和な心をはぐくんでいきたい。
- ・私の小さいころは、家の近くでよく蛍を見ました。でも、最近はあまり見なくなっていました。もっと蛍が住めるような環境をつくっていかなくてはいいと思います。
- ・蛍はただきれいなだけだと思っていたけど、成虫になるまでにたくさんの危険があると、その中を生き残ったものにだけが輝けるんだと知りました。

⑥⑦ 5/22 テーマ：環境 「EarthKAM プロジェクト体験」

関西創価高校は NASA が主催する教育プログラム EarthKAM に 48 回連続 48 回参加という世界記録を打ち立てている。ISS のデジタルカメラを地上から操作し、地球を撮影しその写真から地球について考えるプロジェクトである。その EarthKAM を疑似体験する授業を行うことで、地球の今を考える授業を行った。

事前に GRIT リーダー会を開催し、各クラス 4 名の GRIT リーダーに内容を説明し、シナリオを配り、映像の再生も含めて、進行は GRIT リーダーが行った。

EarthKAM とは何かの説明があり、EarthKAM のミッション・ISS についてのビデオを見た後、実際に EarthKAM プロジェクトが撮影した写真をもとにクイズを行った。例えば琵琶湖が上下逆に映った写真があり、場所をあてるクイズがあったのだが、北が上という固定観念があるだけで、写真の形がわからなくなるということも学んだ。

さらに、自分の撮影したい場所を新たなミッションとして撮影しようという疑似体験を行った。自分の取りたい場所は ISS の軌道と撮影可能時間とずれていたため、撮影できないなどうまくいかないことがわかり、撮影の困難も確認された。その中で、関西創価高校の EarthKAM チームが撮影可能な場所を特定し、研究に利用していることの素晴らしさも実感した。

そして、あらかじめ撮影されて用意されていた写真をもとに、解析を行い、インターネットなどを使い調査を行い、自分たちでクイズを作成した。

その中で宇宙から地球を見る視点を学び、地球全体のためにできる行動を考えた。

○GRIT 生徒用プリント：環境③ワークシート内容

GRIT 環境④ ワークシート内容

1：アースカムクイズをやってみて&作ってみての感想

2：関西創価学園アースカムプロジェクトの取り組みについて、どのような感想を持ちましたか。

3：「宇宙からの視点」の大切さについて、どのような感想を持ちましたか。

生徒の感想：

- ・宇宙には行ったことはないし、地球を見たことはないのに、CO₂ が増えているとかを感じたことはなかったが、EarthKAM のカメラを通し、CO₂ が増えていることが目に見える形でわかることが「宇宙の視点」で大切だと思った。
- ・アマゾン川の写真を見て、びっくりした。あれだけ森林崩壊がすすんでいて驚いた。
- ・宇宙からの映像を見ていると、自分の悩みが小さく思えてきた。客観的に地球を見つめてみると、地球はすごく壮大であり、私たちは小さな小さな存在です。しかし、地球民の 1 人として、宇宙に思いをはせ、地球の未来を考えるということがとても素敵だと思いま

した。

私たちの心には、「小宇宙」があり、この地球で、何十億もの人と、無数の植物や動物と共生しているんだということを、改めて感じました。

○GRIT 教員用指導案：EarthKAM（GRIT リーダーもこの資料をもとに授業を行った）

GRIT 学習指導案					
教科 GRIT					
実施年月日 ①2015/5/22 1,2限目					
単元名 EarthKAM					
本時の目標		・アースカムの作業過程・内容について学ぶ ・アースカムで撮影された画像を通して、環境問題への関心を高める			
1 時間 目	項目	GRITリーダーの活動	生徒の活動	時間	留意点・準備・その他
	導入	※GRITリーダーのうち1名が展開A教室へ行き、iPad8台を受け取る。 ・挨拶 ・ワークシート、ターゲットシート配布	・宿題の撮影候補地シートを準備する。 ・ワークシートを受け取り、記名する。 ・ターゲットシートに、撮影候補地シートから、撮影希望地名・緯度・経度・希望理由を転記する。	5分	・iPad配布準備 【事前の宿題】 ・撮影候補地用紙に撮影希望地名、緯度、経度、理由を英語で記入しておく。 ・配布物 ワークシート(1人1枚) ターゲットシート(1人1枚)
2 時間 目	展開	・シナリオに沿って進行(30分) アースカムとは？ アースカムクイズ ・ターゲットの実行 iPad、User Guideの配布	・ワークシートにメモを取りながら説明を聞く。 ・VTRを見る。 ・クイズを考える。 ・グループ(5～8人×8G)に分かれる。 User Guideを見ながら、iPadを使用してターゲットをおこなう。 ・撮影可能な地点の場合は、ターゲットシートにOrbit、GMTを転記する。 ※撮れても撮れなくても、1巡したところで終了。	45分	・TVの映像と音声を確認 ・配布物 iPad(Gに1台) User Guide(Gに1セット) クイズ用シート(Gに1枚) ※GRITリーダー1人が2Gずつを担当
2 時間 目	展開	・アースカムクイズの作り方 根拠台地の写真 解説を読む ・オリジナルクイズの作成 (ここまでの27分) 【V】高校生環境活動発表会(8分) ・「アースカムの挑戦」「宇宙的視野の開拓目指して」(5分)	・iPadのマップアプリで根拠台地を拡大表示 ・解説を聞く ・GALLERYにある過去の撮影画像から1枚を選び、クイズ用シートに記入する。 ・Gで1題のオリジナルクイズを作成する。 ・VTRを見る。 ・GRITリーダーの話聞く。	40分	・写っている範囲は、標準レンズ…200×120km 望遠レンズ…25×15km
	まとめ		・ワークシートに感想を記入し、提出する。	10分	・iPad、User Guide、ワークシートの回収

⑧⑨ 7/11 9/12 フィールドワーク（インタビュー）

アクティブラーニングの一貫として、高校1年生全員が課題として夏休みに取り組んだ。

フィールドワークリサーチとして、「環境、開発、人権、平和」の4分野の中からテーマを選び、身近でその分野で働く人々にインタビューを行うことにより、現実の中でどんな活動が行われているのかを学ぶことを目的とした。そして、インタビューの内容を、B4のポスター（新聞）としてまとめた。

事前学習として、「インタビュースキル講座」として、同志社女子大学講師の吉村誠先生をお招きし、インタビューするときに大切なことなどを学んだ。また、GRITの時間に、インタビューのロールプレイをグループで行い、良かった点や、悪かった点をコメントし合った。そして、4分野に関わる職業として、どんな人へのインタビューが考えられるかを話し合い、各人が、テーマやインタビューする人を決めた。

2学期のGRITの時間には、ポスター発表会として、グループで自分のポスターを見せ、内容を発表していき、優秀作品をグループでひとつ決め、代表はクラスみんなの前で発表。更に、クラスで最優秀作品も決め、全作品を廊下に掲示した。



⑩⑪ 10/10 テーマ：開発 「GOODEARTH 講演」

昨年度に続き、GOOD EARTH 株式会社代表取締役 藤原宏宣さんに「貧困を克服するために！行動が世界を変える！」との題で講演をしていただいた（グローバルシチズンシップセミナーの項に詳細）

⑫ 10/31 テーマ：開発 「SDGs 学習」

本年 9 月に国連で採択された SDGs「持続可能な開発目標」の概要を学んだ。新たな国連による指標を学び、その目標を達成させゆくために自分たちがもっとも重要視すること、そのためにできることを考えるキックオフの授業とした。

○GRIT 開発 SDGs 教員用指導案：

10/31 2 限目（20 分）SDGs を学ぶ 教員用 ○目的：今年9月に国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）を全員で学び、世界市民としてとしての指標にするため <u>○準備</u> PowerPoint（ライブラリ）：ビデオも含まれています。 <u>○配布物</u> <u>1. 概要プリント1 （2. 3 限目用感想用紙）</u> （2 は回収して、井上机上においてもらえればと思います。PDF とって返却します） <u>○内容（合計20分）</u> 1. PowerPoint（SDGs とは）3分 プリント配布 PowerPoint を読み上げていただいて、今、国連が目標としているものについて説明してください。 2. ビデオ 15分 国連広報のビデオとクローズアップ現代（NHK）の映像を15分にまとめたものを PowerPoint につけておきます。再生してください。 3. まとめ 2分 プリントに一覧表がついているので、SDGs の一覧があるので、どれが大切だと思うか、読んで考えてみてごらんとして投げかけてください。 （2年生）11/14,21 の GRIT で調べて発表してもらう件をお伝えください。 2～3 限目の GCS の感想用紙も配ってください。（会場に持参の必要はありません） 資料の裏面のメモも回収の必要性はありません
--

⑬ 11/14 テーマ：開発 「SDGs 学習 2」

SDGs についてももう少し深く学ぶことを意識し、特徴である「二本柱＝「極度の貧困解消」＋「持続可能な世界」の実現、ユニバーサリティ＝日本を含む先進国、途上国等全ての国が達成する目標」を意識できるように、17 項目を「極度の貧困解消」、「持続可能な世界」、「共通項目」の categories に分けることをグループごとに行った。このことにより、国連がどのような方向へ向かっているのかを全員が理解することができた。

この際、ジグソー法を取り入れ、3 categories ごとにどのような内容があるかをまとめた。そして、グループをチェンジし、それぞれのグループで話し合ったことを発表した。ジグソー法により、2 つ目のグループで全員が前のグループで学んだことを発表しなければならなかったため、1 つ目のグループの学びが深くなる。

また、今回はどのようなグループ活動をしてほしいかをルーブリックにして、あらかじめ提示した。そこでどのような活動を教員が望んでいるのかをあらかじめ生徒に伝えることができた。そして、生徒もその項目を意識して、よりよい評価になるような行動を心がけることができた。

○GRIT 開発 SDGs 2 ルーブリック評価プリント：

開発 GRIT ルーブリック評価 グループのメンバーと話し合い、自分で表に直接○をつけよう。				
	A:とても良い	B:良い	C:まあまあ	D:がんばろう
自分の意見を持つ	自ら発言して、自分なりに意見を深めていることが、グループメンバーにもよく伝わった。	自ら発言して、意見を述べることができた。	発言を求められて、自分の意見を言うことができた。	発言を求められても、一回も発言することが無かった。
協調して課題に取り組む	課題に対して自ら積極的に課題に取り組み、みんなをまとめようと努力していた。	課題に対して、自ら積極的に課題に取り組むことができた。	課題に対して、グループメンバーに促されて、協力することができた。	課題に対して、グループで協力することができなかった。
多様性に寛容である	相手の意見に対して趣旨を理解し、その意見の本質的な長所を見つけ出すことができた。	相手の意見を聞いてうなずくなど、相手に対して共感する姿勢を示した。	相手の意見を一応聞いたが、特に何も反応しなかった。	相手の意見を全く受け付けなかった。または相手の意見を聞いていなかった。

○GRIT 開発 SDGs 2 ワークシート 1 A グループ用内容：

A：極度の貧困解消 (エキスパートプリント) SDGs の特徴として	組 番 名 前：
(1) 二本柱＝「極度の貧困解消」＋「持続可能な世界」の実現 (2) ユニバーサリティ＝日本を含む先進国、途上国等全ての国が達成する目標 の 2 つがあるという解釈があります。こちらのグループでは「極度の貧困解消」について考えてみましょう。 前回配られた 17 の目標は「極度の貧困解消」、「持続可能な世界」、「共通項目」と立て分けることができます。予想を下図に、SDGs 目標の数字で書き入れましょう。特に「極度の貧困解消」は頑張って当てていきましょう。(ヒント：6 つの目標が「極度の貧困解消」に当てはまります)	
3 つのカテゴリーに分けたと思いますが、あなたはなぜ「極度の貧困解消」に上記 6 つの目標が当てはまると思いましたか。あなたの意見をそれぞれの目標に対して書いてください。(最低 2 つは理由を書きましょう)	
番号	理由

○GRIT 開発 SDGs 2 ワークシート 2 内容：

GRIT 開発①「SDGs」をもう少し深く学ぼう

今日の 1 時間は開発について考えるきっかけの GRIT です。前回概要を学んだ SDGs について、もう少し深く学んでみましょう。(意見集約ワークシート)

1：グループごとに配られた SDGs の課題に取り組もう (別紙)

(全員が発表できるようにしよう)

(グループチェンジ)

2：他グループのメンバーの発表を聞いて、内容をメモしよう

ちなみに私は授業開始時には _____ グループです。

3：どうすれば、国内の問題が解決できると思いますか？

最低 1 つの目標については記入しましょう。

⑭⑮ 11/21 テーマ：開発 「貿易ゲーム」

SGH 中間発表会であるこの日は貿易ゲームを通して、フェアトレードについて学ぶ時間とした。この日の進行は GRIT リーダーに依頼した。

「フェアトレード」とは、公正な国際貿易のこと。途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的な購入を通じて、立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指す取り組みであることを理解するとともに、現実の国際社会では、経済的に豊かな力の強い国に有利な不公平・不公正な貿易が行われており、貿易ゲームを通じて、世界の不公平な貿易の状況を学んだ。

さらに、これからウルグアイのムヒカ元大統領のスピーチ動画を視聴した。このビデオは「世界で最も貧しい大統領」として知られており、資産の 80%を寄付、個人資産は約 18 万円の車のみ、月に約 10 万円強で生活をされており、そのビデオを見て、開発の必要性、などを考えた。

○GRIT 開発 貿易ゲーム ワークシート内容：

開発② ワークシート () 組 () 番 名前 ()

私のグループは () グループでした。

私のグループは () 円稼ぎ、第 () 位でした。

他グループとどう交渉をして、お金を稼ぐためにどのような努力をしましたか？

貿易ゲームをしてみた感想

ウルグアイ大統領スピーチ視聴

○GRIT 開発 貿易ゲーム 学習指導案：

学 習 指 導 案				
教 科	GRIT2(開発②③)	担当教員	各担任	
実施年月日	2015年11月21日	(80分授業)	生徒在籍数	各クラス在籍数
単 元 名		本時の目標	ゲームによる疑似体験を通して「貿易」が人々の暮らしにどのような影響を与えているか。また世界の国家間の諸問題について解決方法を考えていくこと	
本時の題目	開発について			
項 目	項目	授業の進行内容(発問も)	時間(分)	留意点・準備・その他
導 入	移動・準備	席をくっつけたり、道具の準備をしっかりとさせる。	3	11:08からDVD開始のため、素早く行う。
	開発について	開発についての概要を説明する。	2	担任に事前に説明文を渡す。
	貿易ゲーム	貿易ゲームの目的、内容の説明。 グループに分かれる。 各Gの持ち物、貿易ゲーム用ワークシートを配布(GRITリーダーと共に) GRITリーダーの机を教卓の左右に並べ、換金役をする。(裏面参照)	5	十分にゲームの内容を理解してもらう。
展 開	貿易ゲーム開始	与えられた道具などで製品を作成する	10	交渉するグループは自由にさせるが、暴力の禁止は強く訴える。また教員が積極的に訴える必要もない。さらに、役割分担をして、製品を作成すると良いことなどは程よく伝える。
	貿易の状況変化1	半月が暴落。正三角形と円が高騰(全員) シール付の製品は価格が2倍 (情報のみA.B.C、物はG.H.Iに配布) ↑ 該当Gに封筒①を配布	10	状況の変化により、生徒がどのように動きが変わったかを十分確認する。
	貿易の状況変化2	上質紙で作った製品は3倍 (情報のみB、物はG.H.Iに配布) 廊下側の世界銀行が2枚1組で換金する 情報を教える(Aのみ情報提供) ↑ 該当Gに封筒②を配布	10	状況の変化により、生徒がどのように動きが変わったかを十分確認する。
	結果発表・まとめ1	DVD終了 実際の順位発表 貿易ゲームの総括 貿易ゲームワークシートのまとめ ループリック評価 ウルグアイ大統領スピーチ視聴ワークシート配布	10	順位を担任に報告し、その発表を基本として、貿易ゲームの感想を特に1位と最下位には必ず言ってもらう。
	ビデオ視聴	ウルグアイ大統領のスピーチ視聴 各担任で	11	ワークシートと共に大統領のスピーチを視聴。ワークシート記入に集中させる。
ま と め	まとめ2・総括	ビデオ視聴感想グループ討議 ビデオ視聴ワークシートまとめ ループリック評価 ワークシート回収	19	ビデオ視聴後にグループで討議をした上で、貿易ゲームも通じてのワークシートにまとめていく。GRITリーダーは前のグループと混ぜて討議する。
課 題	・GRITリーダーは説明会の時に先にゲームを経験してもらい、ゲームの趣旨を担任と共に事前に理解しておく。 ・グループ分けは前日までに決めておく。そして分度器以外の筆記具は各グループで用意してもらう。 ・担任は国連役(進行)として、世界銀行役(製品を換金する役)をクラスのGRITリーダーにしてもらう。 ・進度を統一するために、ビデオを制作 ・こちらから指定したもの以外は使用禁止。自前のシールや上質紙(封筒も含む)での製品作成は慎ませる。			
講 評				

⑩～⑳ 12/12～2016/2/20 プレゼンテーション準備・発表

6人グループを作成し、1年間学んできたことをまとめ、学園生からの提言という形でまとめて、保護者の前で発表した。

6.2 2年生 テーマ：「人権」「平和」

日付	回	内容(テーマ)	詳細
2015/4/11	1	GRITガイダンス	
2015/4/25	2	4分野リサーチ	
	3	4分野リサーチ	
2015/5/2	4	4分野リサーチ	
2015/5/9	5	4分野リサーチ	
	6	4分野リサーチ	
2015/5/30	7	4分野リサーチ	
	8	4分野リサーチ	
2015/6/20	9	平和	平和のためにできること(映像)
2015/7/11	10	平和	核軍縮条約
	11	インタビュー講座	
2015/9/19	12	人権	弁護士講座
2015/10/10	13	人権	世界人権宣言
	14	人権	TED視聴
2015/10/31	15	開発	SDGs
2015/11/14	16	開発	SDGs調査
2015/11/21	17	開発	SDGsポスターツアー
	18	開発	SDGsポスターツアー
2015/12/12	19	人権	いじめディスカッション
	20	プレゼン準備	
2016/1/9	21	プレゼン準備	
	22	プレゼン準備	
	23	プレゼン準備	
2016/1/23	24	プレゼン準備	
2016/2/6	25	プレゼン準備	
	26	プレゼン準備	
	27	プレゼン準備	
2016/2/13	28	プレゼン準備	
	29	プレゼン準備	
	30	プレゼン準備	
2016/2/20	31	プレゼン準備	
	32	プレゼン発表会	
	33	プレゼン発表会	

① 2015/4/11 GRIT ガイダンス（1年生①と同内容）

② ～⑧ 4/25～5/30 4分野リサーチ

6月に行われた創価大学研修において、グループごとにプレゼンテーションを行った。そのための調査・発表準備を行った。

創価大学研修において、大学教員の前でプレゼンテーションを行い、質疑を受け、内容を深めた。

⑨ 2015/6/20 テーマ：平和 「平和のためにできること」

1 年生の平和の回で学び、実際に今自分ができることはないのか、NHK「クローズアップ現代：いま“世界”のためにできること 紛争地 それぞれの眼差し」の回を見て考えた。

この回はジャーナリストやNGOの方々が紛争地域で何ができるか、どこまで踏み込むかを悩み考えることと、その行動を見た回である。

まずは、昨年度 GRIT で平和について考えたあと、実際に自分が行動したことがあるのかを確認し、ビデオを視聴。そもそも平和とはどういうことなのかを考え、ディスカッションを行った。最後に、自分ができることは何かを書きだした。

平和とはと考える中で、今できることは何かを考えたいと思った生徒もいるとともに、遠い世界のことであり、他人事のように感じた生徒もいた。

生徒の感想：

- ・自分の周りから幸福を築きたい。友を励まし、悲しみを取り除くことをしていく。
- ・平和は、全世界の人々が誰かによって殺されることなく、またその不安がなく生活できること。さらに、人によって、貧富の差が激しくなく、いじめなど差別がなくなる世界のことだと思う。紛争を指揮している人と対話し、それから、軍にかかわっている人を憎み殺したいと思っている人と対話して、心を変えられたら戦争は少しずつ減っていくのではないかな。
- ・「今」は徹して学ぶ事。知らないと何もできないし、何かをしたい、これをしたいと思うものがあっても、力がないと何もできない。本当に平和に貢献できているのかということは見えづらいのですが、高校生である立場の私たちにできる一番のことは学ぶ事ではないかと思う。
- ・対話が大切なのはよくわかっているけど、対話をしてくれそうにない相手にはどうすればいいのかと思う。
- ・平和に生きてる日本人からしたら他人事になる、すぐ忘れてしまう。

○GRIT 平和 ワークシート内容（実際の A～D の質問項目は PowerPoint で表示）：

GRIT 平和① ワークシート

今年 2015 年は、戦後 70 年の節目の年。テレビ、新聞などではたくさんの特集が組まれたり、さまざまな行事が行われたりします。今このときに「私たちが平和のためにできること」を考える GRIT 平和にしたいと思います。

このワークシートの問いはプロジェクトに表示されます。その問いと答えを記入してください（書ききれないときは裏面に書いてください）

- A：前回の平和の授業から何か心がけたこと、実行したことありますか？
- B：ビデオ感想
- C：平和ってどういうことか書いてみよう・平和に対する疑問を書きだそう
- D：平和のために自分にできることをあげてみよう
- E：今日の GRIT に意欲的に取り込めましたか
- F：今日の GRIT の感想

6/20 2 限目（平和①）について

平和①の内容です。昨年度に学んだ内容を発展させていきます。

○配布物

①用：1. 個人用ワークシート（②でも使います）

1. 「個人用ワークシート」（①用）：授業開始時に配布 問題も記入されていません。
（1は回収して、井上机上においてもらえればと思います。PDF として返却します）

○教員準備（PowerPoint）

教員ライブラリ GRIT→平和にあります。データ700MB 近くあります。
ビデオも含まれています：最初に動画を開くときは時間がかかります。教室では、休み時間に一度スライドショーにして、動画が動くのを確認してから、最初に戻った方がいいと思います。
もし、動かないときは、画面の下に再生ボタンが出ます。
PowerPoint にやることが記入されているので、時間を見て、進めていってください。

○平和①内容

プリント1 配布 説明 記入 （発表）5分
（プリント1 A 前回の平和の授業から何か心がけたこと、実行したことありますか？）

ビデオ「クローズアップ現代：いま“世界”のためにできること 紛争地 それぞれの眼差し」
ビデオも各教室でスタートしてください。 25分

プリント記入（プリント1 B ビデオ感想） 4分

プリント記入 5分（プリント1 C 平和ってどういうことか書いてみよう・平和に対する疑問を書きだそう 1 D 平和のために自分にできることをあげてみよう）

⑩ 2015/7/11 テーマ：平和 「核軍縮条約を学ぶ」

現在の世界状況、特に核兵器（核軍縮条約）の状況を知るために、ジグソー法を使い、3つのカテゴリーのグループにわけ、それぞれが学んだ内容をもちよって発表をした。3つのカテゴリーは「核兵器の削減（戦略兵器削減条約（START 条約）、新戦略兵器削減条約（新 START 条約）、核兵器の削減に関する今後の課題）」について、「核兵器の不拡散（核兵器不拡散条約（NPT）、加盟国、今後の課題）」について、「核実験の禁止（部分的核実験禁止条約（PTBT）とは、包括的核実験禁止条約（CTBT）」でわけた。

また、外務省ホームページ：わかる国際状況より、核兵器の現在の状況を配布し、現状を確認した。

それぞれのグループでわかったことを発表し、わかりづらい複雑な世界情勢を一生懸命学ぼうとした。

○GRIT 平和2 ワークシート内容

GRIT 平和② 核軍縮の現状をまとめよう

今年2015年、NPT 再検討会議が行われました。ですが、今回は合意文章をとりまとめることができませんでした。

そこで今日は、核軍縮に関するさまざまな条約を知っておきたいと思います。このプリントの裏面には核兵器の現状が印刷されています。それを参考にして、グループごとの資料をもとに内容をまとめよう。そして、それぞれが学んだことを別のグループで発表してください。

1：グループごとに配られた資料を1分で全員が発表できるようにまとめよう

(1分を超えないように頑張ろう)

テーマ：_____

(グループチェンジ)

2：他グループのメンバーの発表を聞いて、内容をメモしよう

テーマ：_____

3：今日の授業で学んだこと・考えたことをまとめよう

○GRIT 平和2 教員用資料

7/11 1 限目（平和②）について （45分）

○配布物

②用： 1. 核軍縮の現状をまとめよう 2. 核軍縮交渉について

1. 「核軍縮の現状をまとめよう」(②用)：②授業開始時配布です。
2. 「核軍縮内容」(②用)：グループごとに別プリントです。
(1は回収して、井上机上においてもらえればと思います。PDF として返却します)

○平和②内容

授業前：グループ（3（～4）人1組）分けをお願いします。

全員にプリント1 配布・説明・グループ移動 5分

作業（プリント1－1 核兵器の条約についてまとめる） 15分

グループチェンジ 5分

(A・B・Cのグループについている人にそれぞれ1番から番号つけていって、その番号でわかれるなど)

作業（プリント1－2 A・B・Cグループごとに調べた内容を発表・メモ）・対話 15分

プリント記入（プリント1－3 感想など） 5分

⑪ 2015/7/11 インタビュー講座（1年生同様）

⑫ 2015/9/19 テーマ：人権 「弁護士講座」

本校卒業生を中心に10名以上の弁護士が来校し、人権講座を開催しました。2年生の各クラスに1人1人に「男女の権利の違い」。様々な場面における男女の権利の違いなどを話

して、ディスカッションをしながら、当たり前だと思っていたことも見直すきっかけとなった。

⑬⑭ 2015/10/10 テーマ：人権 「世界人権宣言・TED 視聴」

1 学期、平和について考えてきたが、平和を考えるためにも紛争地域にいる人の人権、その人権を守るために、自分の身の回りの人の人権を守ることを考えられる授業を目標に内容を構築した。

まずは、世界の人権に対する考え方の共通理解を持つために、世界人権宣言について学んだ。全員で世界人権宣言の内容、基礎思想を読み、その後グループにわかれ、各グループに 3 条ずつ配布し、条文そのものの意味を考え、内容を理解し、具体的にどういうことか説明できるように考えた。さらに、その条項が日本や世界で守られているかを考え、守られていなければどういう地域で守られていないかを考えた。

その後、ジグソー法でグループを再構成し、各グループが学んだ内容を発表し、お互いのグループの内容を共有した。

次の時間は、まず何かしらの共通点を持つ 6 人を見つけ、全員が新たなグループを作成するよう指示をし、一斉に動いた。簡単に「チームめがね」「チーム B 型」など見つけられた人たちもいれば、なかなか見つからず残った人たちもいた。しかし、その残った人たちにも共通点を出していけば、必ず共通点があり、それで全員が何かしらのグループに所属するようになった。楽しみながら、誰にも必ず共通点はある、また、その共通したメンバーの中にも全員に違いがあるということをゲームを通して認識した。

さらに、TED「テロリストの息子に生まれて」を視聴し、スピーカーのザック・エブラヒムさんがもし自分の友人だったら、どう声をかけるのか、彼のことをどう考えるかをディスカッションした。

誰の中にも差異はあり、共通点があることを実感した 2 時間の授業になった。

生徒の感想：

- ・他人を忌み嫌うのに疲れたという言葉聞いて、僕は嫌いな人が多いので、たしかに、無駄に莫大なエネルギーを使い、時にはそれによってとても疲れるのでやめようと思う。
- ・自分と敵対と思っていた組織（団体）の人間が、友人にいたら自分は変わらずにいられるだろうか
- ・人権問題をなくすためには、偏見の目で人のことをみない
- ・現実的に言うと、世界中の人々は地域によって「平和」というものに対しての考え方が違うから、一つの考えに統一しない限り、人権問題はなくならないと思う。その上で、世界人権宣言はよい基準になると思う。
- ・こういう人が背負ってきた苦しみは僕らが同情したって絶対にわからないものだと感じました。だから、まるですべてをわかっているようにふるまうのではなく、支えられるよ

うになりたいと思いました。

- ・もし自分がこの人の立場だったとき、フォローされすぎても逆にはらが立つのではない
か。とても難しい問題。

○GRIT 人権 1 教員用資料 1

10/10 2・3 限目（人権①②） 教員用

○GRIT 人権テーマ：

「『他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない』を考え、実践する」

○準備

PowerPoint（ライブラリ）：ビデオも含まれています。あらかじめ起動しておいて、スライドショーにしてください。動画を開くときに時間がかかることがあります。進行内容は PowerPoint に入っています。

○配布物

①用： 1. 評価項目用紙 2. ワークシート 3. 世界人権宣言

（1・2は回収して、井上机上においてもらえればと思います。PDF とって返却します）

○平和①（2限）内容：テーマ「世界人権宣言」を学ぶ

1. ルーブリック・評価項目（10分） 説明 配布 記入

評価項目用紙配布

あらかじめどういう風にかんがってほしいかをしめしている一覧表です

それぞれの項目を ABCD 評価にしてあるので、まずは配布し、これから数回の GRIT 人権をどのように望みたいのか、目標欄（一番左の欄）に記入してもらってください。

オール A でももちろんかまいません。今の自分の状況を見ながら、無理のない目標にしようとして伝えてください。

2. 世界人権宣言を学ぶ（ジグソー）（40分）

授業説明・ワークシート1配布・グループ作成（6人程度（各クラス裁量））

世界人権宣言のプリントを配布→「世界人権宣言とは」を読み合わせ（5分）

世界人権宣言30条の条約文（グループごと）を見て、何条かごとに各グループに割り当てたプリントを配布する。

（割り当ての案はあらためて作成します）

条約がどういうものか理解、日本で守られているか（世界で守られているか、守られていない国はないか、どうしてこういう条約ができた）を検討し、説明できるようにする。（10分）

ジグソーで移動

新グループで1人2分ずつ内容を発表し、内容のシェアをする（15分）

人権宣言が1条ごとにまとめられたプリントを配り、自分たちの理解が正しかったのかを確認する。

○GRIT 人権 1 教員用資料 2

② (3限)

1. グループを作ろう (15分)

何らかの共通点をもった6人組 (5人も可、最低5人以上になるように指示)。

ただし、学校生活に関係することは不可。 (「クラブや元のクラスなど」)

(例えば、めがね、血液型、〇〇が好きなど。例はあまり言わない。グループで残っている子たちの中で、共通点を探せばよい。)

グループができたところから、着席。

クラスがうまくグループ分けできたら、成功。

どこか一つでもうまくいかなければ失敗になるので、自分のグループができて、全員で他のグループを完成できるように話しあいをしながら作ろう。

教員は完成するまで、できるだけ指示はしない。

全グループが着席で着たらグループ名 (共通点) を発表する。

なかなかグループが組めない子たちがいても、集まったメンバーでの共通点を探そうと促す。

(オプション 時間があったら)

グループの中で、さらにそのメンバーの共通点を10個探す。

さらに、グループメンバー全員の違い (全員違うこと) を見つけよう。

3. ビデオ (10分) 「テロリストの息子に生まれて」

世界貿易センター爆破テロの簡単な説明 PowerPoint を見てから、ビデオ視聴

ビデオは PowerPoint のスライドショーをすすめれば、再生されます。

4. 感想をワークシートに記入 (5分)

5. 感想発表・対話 (10分)

テーマ: ビデオの感想

価値観の違い (具体例) をどう対応する

もし、学校に彼が高校生のとくに同級生にいたら、受け入れられる?

何て声をかける? 本当にできる?

彼の立場だったらどう思う?

友達と価値観の違いを感じたことがある?

友達と話したときの価値観の違いはどう受け入れる?

相容れられない人がクラスメイトだったときにどうする?

クラスによって発表をさせたり、してもよい。

6. 感想記入・評価記入・回収 (5分)

一番最初に記入した評価用紙に今日の授業を受けての A~D 評価を記入。

ワークシートに感想を書く

○GRIT 人権 1 ワークシート内容

GRIT 人権①「世界人権宣言」・②ビデオ

今日の2時間は人権について考えるきっかけのGRITです。昨年、マララさんのスピーチを聞いたり、世界で起きている人権問題について学んだり、いじめについて考えたりとさまざまなことを学びました。今年もまた、新たな角度で人権を考えていきたいと思います。

①ー1: グループごとに配られた世界人権宣言の条文をまとめよう (別紙)

(全員が発表できるようにしよう)

(グループチェンジ)

2: 他グループのメンバーの発表を聞いて、内容をメモしよう

3: 自分たちにはできることは何だと思いますか? どうすれば、人権問題はなくなっていくと思いますか?

②-1: 新しいグループをつくろう

TEAM

チーム全員の共通点をあげよう (できるだけたくさん)

チーム全員の違いを探そう (全員が違っていること)

2: ビデオを見ての感想

あなたは彼の友人です。話の内容はスピーチを聞いて初めて知りました。スピーチを終えた彼に、どう声をかけますか?

「

」

3: 他の人と話をしてみて感じたこと、疑問に思ったことをメモしよう

⑮ 2015/10/31 テーマ: 開発 「SDGs」(1年生⑫と同内容)

⑯～⑰ 2015/11/14・21 テーマ: 開発 「SDGs ポスターツアー」

2015年9月に国連で発表されたSDGsをより学ぼうと企画した。

14日の授業ではグループを作成し、グループごとにSDGsの17の目標から自分たちが大切だと思う1つの目標を選び(クラスの中で同じ目標を選ばないように調整)、調査を行う。それぞれの目標ごとに、ユネスコの解説と原文の訳文を配布。なぜその項目が大切なのか、その項目の目標はどういうものなのか、現状はどういう状態なのか、解決のための方法はどのようなものがあるか、解決させる際の障害は何かという観点で調査、検討を行った。

21日はまずポスターを20分で作成する。ポスターといっても、きれいなものではなく、前回調べた観点ごとにまとめ、分析、意見を付箋に書いていく。それを観点ごとにグルーピングし、A2用紙に貼ってまとめる。そして、その内容を全員が発表できるようにした。

そして、ジグソー法と同様にグループをばらけさせ、新しいグループを作成。新しいグループには旧グループ員が誰もいない状態をつくった。その新しいグループで旧グループが作成したポスターの周りに集まり、順に発表を2分ずつ行った。発表後には必ず直前に発表した前の生徒が質問を行うことにし、質疑応答を義務付けた。1つの発表が終わったら、グループを移動し次のポスターの発表を行った。もし、新グループに誰もいないポスターの前にいっても、そのポスターを読んで内容の理解を行った。

全グループのポスター見学が終わったら、そのグループでディスカッションを行い、SDGsを達成するために自分たちにはできること、「○○」すれば目標は達成できる、との内容をまとめ、発表を行った。

事前にGRITリーダーに説明を行い、進行はGRITリーダーが行った。グループの組み換えや、移動の指示などもすべてGRITリーダーが行った。

また、すべて調査には学校のiPadをグループ1台貸し出しを行った(グループによっては、コンピュータ室のMacも可とした)。

生徒の感想：

- ・すばらしいし、実現した世界を見てみたいと思うが 2030 年までに可能かはわからないと思う。でも、実現のために全人類で協力はできないのだろうか。
- ・自分でまとめたりすることで、聞くだけの授業より、もっと考えることができると思った。
- ・目標が壮大過ぎて、自分ひとりができることは小さなものだけど、この問題について知っていかうとする志を持っていきたい。
- ・どの問題も人が起こしているものだから、しっかり考えていかないとと思いました。

○GRIT SDGs ポスターツアー ワークシート内容

GRIT SDGs③ ワークシート

- ① 自分のグループの発表内容をまとめておこう
- ② 他のグループの発表内容をメモしよう
- ③：SDGs をどう思いますか
- ④：今日の授業の感想（以前の評価表も記入してください）

○GRIT SDGs ポスターツアー グループ発表用シート

SDGs 目標達成のために 組 班

すれば、目標は達成できる！

11/14 H2GRIT SDGs② 教員用

※iPad、プリントは2時間目の前までに机上に用意します。申し訳ありませんが、1限後、職員室へお戻りください。

○ポスターツアー

ジグソー法のようにグループをばらばらにして、自分たちが調べてきたことを発表します。その際、自分たちがつくったポスターを前にして発表をしてもらいます(1グループ3分)。グループ全員が一人で発表できなければなりません。

ポスターは付箋や紙に簡単にまとめたもので、きれいに作る必要性はありません。

必ず全員が質問をするようにするようにします。

○14日内容

準備: iPad グループ1台(学級委員・LCに貸与されている分はそのまま利用)

(14日は教員が進行・21日は教員とGRITリーダーで進行します)

プリント: ワークシート

0. GRITリーダーが決まっていなければ、まず決める(できるだけ事前に)

1. プリント配布、授業テーマ・内容説明(PowerPoint)(5分)

PowerPointを見て、順番に説明してください。

2. グループ作成(5分):

各クラス8グループ。決め方・人数はクラス裁量。14日、21日公欠メンバーの把握。GRITリーダーはばらけるようにグループ分けしてください。

(GRITリーダーは1人で2チーム担当して、ポスター作成のアドバイスをを行う予定)

3. SDGs内容の確認(プリント)・17項目から1つ選択(5分)

各グループで内容がかぶらないようにしたいので、第2希望・第3希望を考えておくようにも指示してください。

4. どの項目を調べ、発表するかを決める(5分)

かぶっていたときなどの決め方は各クラスできめてください。

5. 発表内容が決まり次第、調査(25分)

調べる内容はPowerPointで示しています。

ユネスコの解説と、原文を訳したもののプリントを各グループに配布。

- ・なぜその項目が大切なのか
- ・その項目の目標はどういうものなのか
- ・現状はどういう状態なのか
- ・解決のための方法はどういうものがあるか
- ・解決させる際の障害は何か

という観点で調べ、考える

6. ポスターの写真をPowerPointに貼っておくので、例として見せてください。(5分)

○作り方の詳細はGRITリーダー会で説明します。

11/21 H2GRIT SDGs③ 教員用 (配布用)

○GRIT リーダーの役割 (基本的には進行は GRIT リーダーが行います)

・ポスター作成法の説明・アドバイス ・グループ変更、ポスターツアーの進行 ・発表の司会

うまく進行できるように、そっと応援してあげてください (あらかじめ役割分担を話しておいていただけると GRIT リーダーは安心すると思います)

○21 日内容

0. 準備 各グループに iPad 1 台

11:05 チャイム スタートのタイミングは教員をお願いします。

1. 説明 (PowerPoint) (5 分)

ポスターの作り方など、全体に説明 (GRIT リーダー)

2. ポスター作成 (20 分)

GRIT リーダーは自分のグループともう 1 人グループを担当。

ポスターは各グループ、A2 用紙 1 枚。付箋も準備。

(ポスター掲示 教室の前後左右に 2 枚ずつ貼る。)

3. 新グループ作成 (5 分)

今度は各グループに 1 人ずつ、できうる限り全グループがいるように配置する。今回は同じグループ員がいないようにする。48 人であれば、8 人×6 グループ。

全グループ 6~7 人で統一できるのなら、それも可。別紙参照。

PowerPoint に分かれやすいように、一覧表があるので、それを当日加工すると、わかりやすいと思います。

欠席者を確認して、分配をしてください。指示をしてポスターの周りに集まるようにしてください。どの順番で回るのかを前に指示。GRIT リーダーと相談してください。

4. ポスターツアー (35 分)

1 グループ発表 3 分、質疑応答 1 分、移動 30 秒。

この時間のカウントは担当教員 (PowerPoint のスライドショーにしておけば、自動でカウント予定)。回った時に、そのグループ員がいなければ、ポスターを見学。

質疑応答を行う (直前に発表したメンバーが必ず質問を行う。最初のグループは最後に発表する人)

5. ディスカッション (10 分)

グループはポスターで回ったグループ。

テーマ 「SDGs を達成するために、学園生ができること」

「_____すれば、問題は解決できる！」の、下線部に入る言葉を考える (各グループに記入用紙配布。紙に書いて、前のホワイトボードに貼る)

ここは GRIT リーダーがうまくスタートできるように教員が誘導してください。

6. 発表 (5 分)

全グループ前の空欄の言葉と、どういう意味かを発表してもらってください。(各グループ 30 秒程度) (GRIT リーダー司会)

○GRIT SDGs ポスターツアー (21 日) 教員用 2

○ポスターの作り方

一人一人が思いつくことをどんどん付箋に書いていって、貼っていく。

1 枚 1 枚の付箋がポスターになるので、大きくきれいに書くこと。

順番を変更しながら、伝えたい内容が入っているものにする。貼りすぎ注意。

優先順位が少ないものはどんどんはがす。

最後に A2 用紙にグループ名、どの項目についてなのか、など見出しをボスカなどで書く。
きれいなポスターを作ろうとしなくてよい。発表 3 分ができるようにする。

テーマは 14 日の授業で示したものの。カッコの中の単語を書いて、そこに貼っていくとよい。

- ・ その項目の目標はどういうものなのか (内容)
- ・ なぜその項目が大切なのか (重要性)
- ・ 現状はどういう状態なのか (現状)
- ・ 解決のための方法はどういうものがあるか (方法)
- ・ 解決させる際の障害は何か (障害)

○配布物 (予定)

・ A2 用紙 (グループ 1 枚) 多めに各クラス配布するので、窓側に貼った時に見づらい時などは重ねて使ってください。

・ ふせん (グループ 1 ブロック) 色にはあまりこだわらないように伝えてください。

・ ワークシート (1 人 1 枚) 他のグループの説明のときのメモ・感想用

⑩ 2015/12/12 テーマ：人権 「いじめディスカッション」

日々当たり前前に使っているあだ名もエスカレートし、本人が嫌がるといういじめにつながる。「いじり」と「いじめ」の境界線を考え、今近くにいる友達の人権を考えるためにディスカッションを行った。

まずは、NHK「いじめをノックアウト」あだ名は禁止するべきですか？の回を視聴し、あだ名を嫌がっている子、あだ名は禁止すべきであるという意見を紹介した。その後まずは個人でメリット・デメリット・あだ名がいじめにならないための解決策 3 か条を考え、グループごとにディスカッションし、グループごとに解決策を考える、それをクラスで発表し、またグループでディスカッションし、クラスのルールを 1 つつくる。

できる限り全員一致のルールがつくれるように、GRIT リーダーに進行役を依頼した。

生徒の感想：

- ・ ビデオを見て、いじめにもさまざまあることがわかった。また言っている側がいじめと
思っていなくても言われている人がいじめと思う場合もあるから難しいと思う。
- ・ 下宿ではあだ名が禁止だけど、それでもみんな仲がすごくよいので、いじめにつながる
くらいならなくてもいいのかなと思っていた。だけど、こういうルールがあるのなら楽し

く呼べるかもしれない。

- ・「いじり」というところに観点を置くのは初めてで改めていじめって幅広いと思いました。

○GRIT 人権 いじめディスカッション GRIT リーダー用

12/12 GRIT について（2年 GRIT リーダー用）

○テーマ 人権③「いじめ」解決策ディスカッション

「あだなを禁止すべき」と思っている人を説得するために、あだながいじめにならないためのルール3か条を考える。（クラス全員が賛同でき、実践できるルールをつくる）

内容（すべて PowerPoint）：

1. 説明・ワークシート配布（1分）（教員）
2. ビデオ（10分）（教員） PowerPoint
3. 個人でワークシート記入（3分）（教員）
この時間に GRIT リーダーはグループをどう作るかの指示をホワイトボードに書くなどしておいてください（どういうグループにするかは、あらかじめ担任の先生と相談してください）。
4. グループ移動（1分）（GRIT リーダー）
グループに移動をさせてください。グループは4人～6人程度がいいと思います。
5. グループ内で発表（3分）（GRIT リーダー）
1人30秒ずつくらいで、どういうことを考えたか、案などの発表をさせてください。
6. ディスカッション・ルール策定（25分）（GRIT リーダー）
クラスとしてあだなに反対している人への提案をまとめます。
発表後、25分間で決定できるか、時間内でどこまでまとめられるかを頑張ってみましょう（話し合いの練習でもあります）。何分までだよということは担当の教員の先生と相談してください。
7. まとめ PowerPoint（3分）（教員）→ワークシート記入（4分）

ディスカッション例

基本的にクラスの GRIT リーダーに進行はお任せします。

クラス全員が納得できて、よりわかりやすい提案を目指してみましょう。もっといい案はないか、いいまとめはないかを短い時間で考えてみてください。1つの案にできればベストですが、少なくとも3つくらいの案には集約してみてください。
（時間はとてもかなり短いです。25分では難しいかもしれませんが、素晴らしい提案ができることを期待しています）

例：グループ内で発表後→

- ・グループで1つの案を作成する（5分）。前に書かせる（紙に書いて貼ってもらうもあり）。
- ・発表する（2分）
- ・全体でコメントをいう（3分）（これには賛成できる。これは賛成できない、これとこれは一緒）。
- ・一度、グループでもう一度話し合い、新たな提案を前に貼っていく（順次5分）
この間、他のグループの内容を見て、○グループと同じとするのもあり。当然、他グループと相談するのもあり（1番目と2番目は一緒だけど、3番目だけ違うっていう紙をはってもよい）
- ・もう一度全体に戻り、どの案をみんなが指示しているかを手を挙げて確認する。
その案に対する反対意見とか賛成できない、こうしてほしいという意見があれば、発表させる（5分）。
- ・その案に対して、修正を各グループ考える。（3分）
- ・全体に発表し、その案に賛成できるかできないかを手を挙げてもらい、全員が手を挙げたものがあれば、よりよいのはどちらか多数決を取る（2分）
（かなりどんどんやっていかないと、1つにまとめるのは難しいです。時間はアレンジしてみてください）

○GRIT いじめディスカッションワークシート内容：

GRIT 人権③「いじめ」解決策ディスカッション

今日の GRIT では身近な人権について考えていきたいと思います。どうすれば「いじめ」にならないようにすることができるか、あるテーマについての解決策 3 か条をクラスで考えてみてください。

- A メリット
- B デメリット
- C 解決策 3 か条（自分の案）
- D 今日の授業の感想

②⑩～③③ 12/12～ 2016/2/20 GRIT プレゼンテーション

創価大学で発表した内容をさらに深め、保護者の前でプレゼンテーションを行った。

テーマ例：

- 「発展途上国の水不足」
- 「地球温暖化・・・生態系の破壊」
- 「世界の貧困問題について」
- 「ジェンダー問題について」
- 「マンデラ・・・人種差別」
- 「医療差別・障がい者差別」
- 「継続している戦争・紛争」
- 「アフリカの奇跡」
- 「子どもの教育」

6.3 3年生 テーマ：「人権」「平和」

基本的には2年生と同内容。

日付	回	内容(テーマ)	詳細
2015/4/11	1	GRITガイダンス	
2015/4/25	2	平和	平和のためにできること(映像)
	3	平和	核軍縮条約
2015/5/9	5	平和	核軍縮シミュレーション
	6	平和	核軍縮シミュレーション
2015/5/30	7	平和	核軍縮シミュレーション
2015/7/11	11	インタビュー講座	
2015/9/19	12	人権	セミナー
2015/10/10	13	人権	世界人権宣言
	14	人権	TED視聴
2015/10/31	15	開発	SDGs
2015/11/14	16	人権	いじめディベート
2015/11/21	17	人権	いじめディベート
	18	人権	いじめディベート
2015/12/12	19	人権	DVD視聴
	20	プレゼン準備	
2016/1/23	24	プレゼン準備	
2016/2/6	25	プレゼン準備	
	26	プレゼン準備	
	27	プレゼン準備	
2016/2/13	31	プレゼン準備	
	32	プレゼン発表会	
	33	プレゼン発表会	

① 2015/4/11 GRIT ガイダンス（1年生①と同内容）

② 4/25 テーマ：平和「平和のためにできること」（2年生⑨と同内容）

③ 4/25 テーマ：平和「核軍縮条約を学ぶ」（2年生⑩と同内容）

④～⑥ 5/9・5/30 テーマ：平和「核軍縮交渉シミュレーション」

生徒を各クラス12のグループにわけ、架空の国という設定で、模擬国連風の核軍縮交渉シミュレーションを行った。

広島女学院高等学校の教材を教えていただき、時間数などにアレンジを加え、授業をさせていただいた。

12のグループにはそれぞれの立場と指令が配られ、自分たちが果たしたい目的が示される。それを利用し、交渉と作戦をたてて交渉していく。

クラスによっては、1国の力が強く、交渉をリードするところもあれば、同盟を組んで、

交渉を行ったクラスもあった。

これを通して、その前に学んだ核軍縮条約が進まない理由や、交渉の難しさを感じていた。

生徒の感想：

- ・交渉ではお金をうまく使って、自国の都合の良い方にもっていかなければならなかった。それでも、全然決まらなくて進まなかった。
- ・実際の国際会議が何も決まらず残念だと思うが、仕方がないのかなとも思った。
- ・自国の利益だけでなく、他国のことも考えることが大切だと思った。
- ・他国の核開発を認めてしまった。相手が何を求めているのかしっかりと見定めることが大切だった。
- ・実際の国際会議だと、国民の命を背負って話し合うので、もっとピリピリもしていると思う。

○GRIT 核軍縮シミュレーション生徒用マニュアル 1：

GRIT 平和③～⑤「核軍縮交渉シミュレーション」マニュアル

平和③～⑤を使って、「核軍縮交渉シミュレーション」を行います。さまざまな国の立場にたって、交渉を行ってみましょう。

○目 的

多様化する世界でのコミュニケーション能力・立場の違う国の主張に耳を傾ける・自らの考え方を確固たるものにする・目標の達成に向け粘り強く努力する力などを身につけよう

◎交渉について

交渉とは、喧嘩や意見のぶつけ合いではなく、主張の異なる相手と「合意」を形成することです。一方的に自己主張するだけではなく、双方向のコミュニケーションが重要です。

今回は、各国の「特命全権大使」に任命されたみなさんに指令がでます。

指令には、

1. 「絶対に譲れないこと(妥協できないこと)」

2. 「成功のために譲ってもいいこと(妥協できること)」

があります。

この交渉シミュレーションではすべてのことを達成しないといけないわけではありません。様々な交渉内容の中から、最善の結果を生むことが求められます。相手にどんな情報を伝え、どんな情報を伝えないかの判断も重要です。

「交渉で達成したい目標・理想」と、「交渉で絶対に譲れない最低ライン」の区別をしっかりとつけ、作戦を練ったうえで交渉にあたる必要があります。

○GRIT 核軍縮シミュレーション生徒用マニュアル2：

◎条約の種類	テーマ：核軍縮
この交渉の会議には出席している国は12か国。何らかの条約を提案し、自国に有利な合意形成に持ち込んでください。 今回話し合える条約は2つです。 ①核実験禁止条約 ・成立条件：核兵器保有国2か国かつ非核兵器保有国6か国の参加 ・内容：いずれか、もしくはすべての核実験の禁止。核実験には、大気圏内(地上)の核実験、地下核実験、海中核実験、爆発を伴わない核実験がある。どの部分を禁止するかは、交渉の余地がある。 ②核兵器拡散防止条約 ・成立条件：核兵器保有国2か国を含む9か国以上の参加 ・内容：新たに核兵器を開発すること、核兵器技術を輸出することを禁止。すでに核兵器を持っている国の保有は認められる。核保有国に将来核兵器を削減、もしくは全廃する義務を課すかどうか、また、核開発を疑われる国をどう扱うかは、交渉の余地がある。 会議の円滑な進行のために、2つの条約以外の提案はできません。ただし、条約の内容をアレンジすることは自由です。 あなたは、各国の「特命全権大使」として核軍縮会議に出席します。この会議では、それぞれの大使が自由に話せる時間がとられています。大使の交渉によって、成果を出すことが求められます。 成果とは、 ①核実験禁止条約 ②核兵器拡散防止条約 の2つをなんらかの形で成立（あるいは成立阻止）という成果を残すこと。 例：①核実験禁止条約の成立は阻止しつつも、自国の利益（指令書）に準じて②核兵器拡散防止条約の成立を目指す。	

○GRIT 核軍縮シミュレーション生徒用マニュアル3：

◎交渉の進め方
喧嘩や意見のぶつけ合いではなく、主張の異なる相手と「合意」を形成することです。一方的に自己主張するだけではなく、双方向のコミュニケーションが重要です。 また、力ある国による支配がされないためにルールが存在します。必ず守ってください。 1. 各国に配られた指令書は他国に見せてはならない。 ※ただし、交渉の中で必要な情報は提示し、自国の利益に結びつくよう他国との交渉に臨んでよい。 2. 核兵器を1000発以上保有している国は、「核兵器を保有している」ということを必ず公表すること（保有数については、具体的に公表しなくてもよい） ※ただし、秘密裏に核兵器を開発している国や開発を進めている国については、交渉に応じて公表するかしないかを判断すればよい。 3. 交渉中、うその情報を流すことは禁止する。 ※ただし、指令書にかかれている事実をすべて公表する必要はない。含みを持たせつつ交渉を進めるのも一つの方法。 条約案を提案する際には、「交渉内容ペーパー」に記入し、国連事務局（先生）へ<u>随時</u>提出してください。他国と共同で提出することも可能です。 提出された条約が成立するかどうかの条件は、条約によって異なります。参加国が増え条件を満たすことができるよう、交渉してください。平和⑤（5/30）の時間に決議します。

5/9 1 (平和③)・2 限目 (平和④) について

平和③～⑤を使って、「核軍縮交渉」シミュレーション」というミニ模擬国連を行います。さまざまな国の立場にたって、議論していきます。

○核軍縮シミュレーションとは？

交渉ゲームと呼ばれ、模擬国連を主宰する「グローバルクラスルーム」が開発したものです。それを広島女学院の先生方が核兵器というテーマで作ってくださったものを、簡単にアレンジしたものです。

○配布物

③用： 1. 核軍縮交渉シミュレーション (マニュアル) 2. 各国用指令シート

3. 交渉シート (1 国に 1 枚) 4. 情報整理プリント

④用： 5. 振り返りシート (3. 交渉シートは随時)

プリント 2 は他のグループに絶対に見せないように伝えてください。

○平和③概要

グループ分け、移動、プリント 1・4 配布 5 分

プリント 1 説明 10 分

各国用指令シート (プリント 2) 配布 読み込み 10 分

交渉シート作成 5 分・発表 10 分・交渉 1 10 分

○平和④概要

作戦タイム・交渉シート作成 5 分

交渉内容発表 5 分・交渉 2 10 分・作戦タイム・交渉発表 5 分

交渉 3 15 分・振り返りシート 10 分

○平和⑤予定

作戦・交渉作成・発表 5 分 交渉 4 10 分 決議 10 分

振り返り 10 分 まとめ 15 分

○詳細

0. 準備 (グループ分け)

プリントを持参してください。

PowerPoint は教室 PC デスクトップの「教材ライブラリ」の「GRIT」の中に入っています。

12 グループにわけてください (人数は 12 グループにあわせてください)

ねずみ・うし・とら・うさぎ・りゅう・へび・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・いのししとグループの名前をつけてください。

(番号順・座席順、何でも構いません。できれば、戦力が均衡するといいいかなと思います。また、さらにできれば、とりは少し強力なチームにしていた方がよいです。強力というのは、交渉力、コミュニケーション力が高いということ)

グループ分けは HR 後、1 限開始前に発表していただけると時間短縮できてありがたいです

○GRIT 核軍縮シミュレーション教員用資料 2 :

1. 平和③		
時間(時)	内容	備考
8:55	グループ分け発表・PowerPoint 起動・プリント配布	
9:00	授業開始・グループ移動	
9:05	マニュアル説明 PowerPoint 1つ1つ丁寧に確認をしてください。条約の詳細は自分たちで確認。 ・めざすのは、条約の締結が阻止（条約は2つのみ。内容はアレンジ可能） ・次回の GRIT で決議を行います。 交渉の進め方 1～3 のルールをしっかりと確認	
9:15	各国ごとの指令書配布 国ごとに読み合わせなどをして、状況を確認	
9:20	交渉シート配布・作成 見本を見せて説明 まずは、全体にこういう交渉をしたいですと発表をさせるため、大まかに考えさせてください。 ルール 2: 核兵器保有国はここで宣言するように指示 ルール 3: 嘘は禁止 掲示用交渉ペーパーを記入させる	★特に指令書を他の国に見せないことは徹底。 他国に情報が漏れないように注意させる
9:30	交渉内容発表 どんな順番でもいいので、全部の国に発表させてください。 詳細は交渉ペーパーに記入させ、発表は簡単に。 他の国の情報を情報整理プリントにまとめる	
9:40	第 1 回交渉開始（時間は 10 分） 交渉ペーパーを、ホワイトボードに掲示させる。 この交渉は自由にまかせる まずはお試しのつもりで、いろいろやってみよう 国のメンバーで動いてもよい 分散して数カ国と交渉してもよい	マグネットかテープがある とよい
9:50	チャイムで終了	5 分だけでも交渉させたい
2. 平和④		
時間(時)	内容	備考
10:00	グループごとに着席 グループで第 1 回交渉の内容を検討。第 2 回交渉の作戦会議 交渉ペーパーを 1 枚ずつ配布。再度内容の検討 「交渉時間中に変更があった場合は、教卓に取りに来てください。書き直したら、前に貼ってください。共同提出も可能です。」	変更なしも可 交渉ペーパーを取りに来た国には渡してください。
10:05	交渉内容発表 「交渉ペーパーの内容に変更があった国は、発表してください」	
10:10	第 2 回交渉開始（10 分） PowerPoint にタイマーがついてます	
10:20	一度、国ごとに分かれて作戦会議 「交渉ペーパーについて、発表したい国があれば、発表してください」	
10:25	第 3 回交渉開始（15 分） PowerPoint にタイマーがついてます	
10:40	振り返り用紙記入 次回 5/30 に決議を取ります。残り交渉時間は 10 分です。 他国に指令書を見せないように注意	もし時間が足りなければ、短縮してもかまいません
10:50	振り返り用紙回収・チャイムで終了	

平和⑤ (5/30 2 限目) について

「核軍縮交渉」シミュレーション」の最終回と、平和のまとめを行います。よろしくお願いします。

○配布物

1. 状況確認シート (各国のおかれていた状況が書かれています)。

※決議後に配布のこと

2. (参考資料) NPT の条約について

○平和⑤概要

グループ分け、移動、各グループ復習、作戦タイム 10分

最終交渉 10分

議決 5分

振り返り記入 10分

まとめ 15分

○詳細 平和⑤

時間 (段)	内容	備考
10 : 00	グループ移動・各グループ復習・作戦タイム・交渉内容ペーパー記入	
10 : 05	あらためて説明 - めざすのは、条約の締結か阻止 (条約は2つのみ。内容はアレンジ可能) - 交渉内容を発表したい国があれば、発表 (交渉内容の発表のみ、スピーチ不可)	★再度特に指令書を他の国に見せないことは徹底。
10 : 10 頃	最終交渉開始 (時間 10 分～15 分) 交渉ペーパーを、ホワイトボードに掲示させる。 「積極的に他国を取り込まないと、条約の締結は難しい」 「付帯事項に関して、他国との認識をしっかりとすり合わせよう」	他国に情報が漏れないように注意させる
10 : 25	交渉終了 決議 (クラスの状況に合わせて、お任せします) 1. それぞれの条約に付帯事項をつける提案があるかどうかを問う (付帯事項といってもお金のやりとりとかそういうものは必要ない) 2. 付帯事項があれば、付帯条項なしの条約を提案したい国があるかを問い、なければ、その付帯事項つきの案を案として決議を行う。 3. 付帯事項が数種類あるときは、A 案か B 案かどちらかを選ぶかすべて反対かを選ぶ。 (各国順番に賛否を述べる) 締結したかどうかを判断し、結果を伝える。	
10 : 35	状況確認シートを配布。「各国の状況はこうになっていました」 「とり国が一番難しい交渉を迫られました。お疲れ様でした！そして、他の国もお疲れ様でした！！」	
10 : 40	振り返りシート記入	
10 : 45	まとめ：先生方の感想・NPT 交渉があったよねという話題 大きな平和というテーマから、人に焦点をあてる人権に続くという観点	
	振り返りシート回収→井上に提出	

⑦ 7/11 インタビュー講座（１年生と同内容）

⑧ 9/19 テーマ：人権 セミナー「１万キロを身近に感じられる友情の形」

この日は、アフリカ、ベナン共和国に青年海外協力隊で行かれていた方に来ていただいて、高校３年生にセミナーを行っていただいた。どんな場所においても感じられる友情があると聞いて、遠い世界だったアフリカを身近に感じた生徒もいるようだった。

⑨⑩ 10/10 テーマ：人権 世界人権宣言・TED 視聴（２年⑬⑭と同内容）

⑪ 10/31 テーマ：開発 SDGs（１年⑫と同内容）

⑫～⑭ 11/14・11/21 テーマ：人権

「いじめに関するディベート風ディスカッション」

題材はほぼ２年生⑬と同様「あだ名は禁止すべきである」。大きな違いはより議論が深まるようにディベート風ディスカッションにしたこと。ディベートの形式を取り入れ立論・反駁まで行い、そこからディスカッションにした。テーマが「いじめ」のため、ジャッジをするのがふさわしくないのではという意見からである。

シナリオディベートを GRIT リーダーが読み上げ、ディベートについて確認したあと、ビデオを見て、グループでメリット・デメリットをたくさんあげて、あだ名について考えた。

21 日はまずグループ内でディベートを行い、順序を確認したのち、グループを分け、ディベートを行った。ディベート後、対戦相手とディスカッションを行い、あだ名の可否、さらにあだ名をつけるルールを考えた。そのことを通じて、友人の人権について考えるきっかけにした。

生徒の感想：

- ・いじめは絶対的に人を嫌な気持ちにさせる。見極めが大切。何か１つのルール（校内で問題になっていることなど）で、同じことをしてみると、両方の立場で考えられるので、何か新しい発見ができると思う。
- ・いじめも戦争も同じ。当事者がマナーを守って相手のことを考えないとどんなルールをつくっても同じ。「本人が強くならなければ仕方ない」という結論では少しさびしいと思う。
- ・「いじり」と「いじめ」の違いはとても微妙で、すぐに一線を越えてしまうので、みんなそれぞれが意識していくことが大事だと思いました。
- ・最後の各班のまとめた意見についての話し合いが楽しかった。普通の話し合いがディベートっぽくなっていた。

○GRIT 人権 GRIT リーダー用 1 (11/14 用) :

11/14, 21 H3GRIT人権③ GRIT リーダー用

テーマ:「いじめ」と「いじり」を見直す ディベート風ディスカッション

○スケジュール

11/13 16時 GRIT リーダー会 3年@会議 A ※各クラス 4名

11/14 (2限) GRIT

11/21 GRIT (80分): SGH 中間報告会 (外部校の授業見学あり)

○授業概要: ディベート風ディスカッション

14日: グループ作成、ディベートの方法の理解、「いじめについて」導入ビデオ

21日: 準備、ディベート、ディスカッション、提案発表

○今回の授業の目的

ディベート風の肯定・否定の立場を明確にして、自分の意見とは違っても賛否を考える中で、意識を高め、問題に対する解決策を考える。テーマは「いじめ」と「いじり」です。どこまでが「いじり」になるのか、具体的な例を使って、ディスカッションを行い、「いじり」を考えます。

ディベートの方法の一部を導入するのは、そのことにより、メリット・デメリットをはっきりさせ、それを否定して、議論を深めるために導入したいと思います。

○GRIT リーダーの役割

授業進行 (PowerPoint) (授業担当の先生と相談)

ディベート風ディスカッション進行

シナリオディベート

グループ作成 担任と相談をしてください

21日に公欠がないかをクラスに確認

各グループ6~8人になるようにしてください・グループ数は自由

各グループにリーダーを決めてください (GRIT リーダー以外)

GRIT リーダーは全員別グループになるようにしてください

○ディベート風ディスカッション方法

ディベートの手順を用いたディスカッションを行います。 ディベートではありません。

★今回の流れ

肯定側立論 (2分)

否定側立論 (2分)

相談タイム (グループ内で反駁を考える) (2分)

否定側反駁 (2分)

肯定側反駁 (2分)

ディスカッション (互いの立論・反駁についてどう思うか話し合う) (5分)

★ディベートとの違い

ジャッジをしない、定義など細かい設定はしない、

肯定・否定の反駁のあと、すぐにディスカッションに入ります

質疑・第2反駁はありません また肯定の反駁で否定するのは立論のみです

立論・反駁時にしゃべるのは1人でなくても構いません ただし全員一度は発言をしなければなりません

★立論の流れ

◇メリット/デメリットを示す

論題から起こる「良いこと」がメリット、「悪いこと」がデメリットです。

議論のたたき台として、立論中では、肯定側はメリットを、否定側はデメリットを示します。

メリット (デメリット) の証明には、以下の3つの要素を示せばよい、とされています。

○GRIT 人権 GRIT リーダー用 2 (11/14 用) :

◇肯定側

- ・現状に何か問題があることを指摘
- ・それをプランによって、解決させるシナリオ
- ・最後にその問題を解決できることがいかに重要か

◇否定側

- ・現状に特に問題がない、あるいは現状が比較的良好なことを指摘
- ・その現状がプランによってどう悪化するのかシナリオ
- ・最後に新たに生まれた問題がいかに深刻か

★反駁の流れ

相手の議論に対して反対意見を述べていきます。

- ① 引用・・・「肯定側（否定側）はメリットの発生過程（重要性）で○○といました。」
- ② 主張・・・「しかし、それは違います（発生しません）。」
- ③ 根拠・・・「なぜなら、××××だからです。」
- ④ 結論・・・「ですから○○は発生しません。（重要ではありません。）」

21 日用ワークシートを準備します（今日配布しているものは案→修正して19日配布予定）

○14日 内容

準備： 授業担当者と GRIT リーダーとの打ち合わせ（役割分担）。授業担当者が行うことは下線

プリント： ワークシート

1. プリント配布（○枚）、授業テーマ説明（PowerPoint）（5分）
2. ディベート説明、今回のディベート方法など説明（PowerPoint）（GRIT リーダー）（5分）
3. シナリオディベート（GRIT リーダー）（10分）
4. ディベート
4. グループ分け（5分）：決め方はクラス裁量。公欠メンバーの把握
5. テーマ発表（PowerPoint）（2分）
6. ビデオ（PowerPoint）（10分）
7. グループ内で相談（残り時間（約10分））
グループ内を2つに分けるように指示（肯定・否定）、
グループごとにワークシート配布（論題を実行するメリット・デメリットをあげる）

○GRIT 人権 GRIT リーダー用 3 (11/21 用) :

11/21 H3GRIT 人権④ GRIT リーダー用

※誰が担当の先生になるか、担任の先生に聞いて確認して、しっかり打合せをしてください。

※わからないことはあらかじめ井上に質問・相談をしてください。

※みなさんの力が重要です。頼りにしていますので、よろしくお願いします！

○GRIT リーダーの役割（基本的には進行は GRIT リーダーが行います）

・各グループの進行 ・グループ変更 ・次やることの指示 ・発表の司会

GRIT リーダーという生徒主体で進んでいくところも見ていただく予定です。うまく進行できるように担当の教員と相談をしてください。一度シミュレーションをしてみて、わからないところは井上に相談しにきてください。

1 つずつ次のことを行うときに、「○○をしてください」と説明してください。PowerPoint があります。

○21日 内容

0. 大掃除後、グループで打合せ（20分）

立論・反駁のためのワークシートはここで配ってあげてください。見本を見ながら、つくるように話してください。PowerPoint のグループ内で考えること参照してください。PowerPoint の内容は別紙参照。

ワークシートの流れで話せばいいよと伝えてください。

チャイム——（ここから見学）——（チャイムのタイミングは相談中）

授業開始の合図は教員がします。ここであいさつして始めます（学級委員に伝えてください）

1. グループ内打合せ（10分）

今日のディベートの流れを話してください（これはチャイムが鳴ってからお願いします）。説明終わってから10分後にグループ内ディベートを行うことを伝えて、グループ内打合せスタート。

2. グループ内ディベート（10分）

PowerPoint をタイマー代わりに使います。最初の立論開始「よい、スタート」の時にクリックしてもらってください。次のスライドに進めば、あとは、自動で切り替わります（教員におこなってもらってください）。攻守交代は15秒で行います。

相談タイムはとりません

3. グループ内反省会（10分）

グループ内で対戦してみたの感想、反省点を話し合いながら、他グループとの対戦に備えます。

4. グループ移動（3分）（ここがポイント）

各グループ否定組が移動する。どのグループとの対戦かはここで発表（他のチームがどんな話し合いをしているか偵察するのを防ぐため）。

どう移動すればいいかをホワイトボードに書くなど説明をしてあげてください。教員とあらかじめ相談しておくといいと思います。（例：各グループ否定が2番後ろのグループに移動。1→3、2→4など）。

うまく机をくっつけてディスカッションができるように、工夫してください。

○GRIT 人権 GRIT リーダー用 4（11/21 用）：

5. ディベート風ディスカッション（22分）

流れは別項目参照。ディベート後の内容検討ディスカッションが終わり次第、元のグループに戻るよう指示してください。「よい、スタート」のタイミングで次のスライドに移動してください。

ここに時間の余裕があります。もしかすると時間がおしている可能性があります。そのときは最後の提案発表を短めにしてもかまいません。次のディスカッション15分はできるだけ確保してください（このあたりその場で先生と相談）。

6. ディスカッション（15分）

テーマ：あだ名が“いじめ”につながらないようにするための具体的なルール

自分の「いじり」の一言が「いじめ」にならないためにどうすればよいか、ということを考えながら、ディスカッションをさせてください。「あだ名禁止」が本当によければ、それもあります。

A3の紙を配るので、そこに大きくルールを書かせて、ホワイトボードに貼らせてください。

できるだけ具体的に書いてほしい、今すぐにでも実践できるようなものを書いてほしいと伝えてください。

7. 提案発表（10分）

各グループ前に貼ったA3用紙を読み上げさせてください。時間があまったら、教員から一言や、また、他のグループの意見を見て、感想を話し合わせてもかまいません。

チャイム・あいさつをして終了（お疲れ様でした。ありがとうございました）

8. 振り返り・感想プリント記入

○GRIT 人権ワークシート内容：

GRIT 人権④ ディスカッションワークシート

① グループ内ディベート用メモ

（グループチェンジ）

② メモ

③：今日の ディスカッションを通してわかったこと

④：ディベート風 ディスカッションの感想

⑤：「いじめ」と「いじり」の違いをどう思いますか。

⑥：今日の授業の感想（以前の評価表も記入してください）

⑮ 12/12 テーマ：人権 DVD「Walkers」

難病の遠位性ミオパチーの患者であり、車椅子ウォーカー代表、NPO 法人 PADM 遠位型ミオパチー患者会代表の織田友理子さんのビデオ Walkers を見て、“心のバリアフリー”を考えた。

○GRIT 人権 Walkers ワークシート内容：

GRIT 人権⑤ビデオ「Walker「私」の道」 ワークシート

今日の GRIT ではビデオ「Walker「私」の道」を視聴します。織田友理子さんが、遠位型ミオパチーという病気にかかってからのドキュメンタリーです。

ビデオを見て、感想を書いてください。

① ビデオの感想

・ 人権 GRIT まとめ

人権の GRIT 5回を受けて、まとめとして、下の内容を書いてください。

「 」すれば、人権を守ることができる。

生徒の感想：

- ・これからどう進んでいくのか、希望しか感じませんでした。前を向いて希望をもって進んでいきます。
- ・「病気を治してから人生を切り開くのではなく、今生きている中で自分の人生を切り開くことが大事」という言葉に感銘を受けました。
- ・「明日でも昨日でもなく、今この瞬間」を大切にします。
- ・すごく明るくて楽しそうな表情をしておられたのが、自分が最初に思った印象と違いすぎてびっくりしました。

人権を守るため：

- ・「人を幸せにすれば」、人権を守ることができる。
- ・「自分も他者も大事にすれば」、人権を守ることができる。
- ・「共感すれば」、人権を守ることができる。
- ・「思い込みや偏見をなくすことを意識すれば」、人権を守ることができる。
- ・「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことをしないことをすれば」、人権を守ることができる。

⑩～㉓ 12/12～2/13 GRIT プレゼン発表会

3年生は1・2年生より、2週間少ない中、プレゼンテーションを一生懸命作成し、発表をクラス内で行った。4テーマでよかったものを、最終発表会で見ていただいた。

7 GRIT 全般に関する生徒の感想・GRITを通して学んだこと

(1年)

- 一つ一つの GRIT の授業を理解するためにもう少し時間があればと思います。
- 話を聞くだけでなく、貿易ゲームなど体験型のものをもっとしたいです。
- 自分がよいと思ってやってることや、自分にとって利益となることは別の角度から見ると、誰かが嫌な思いをしたり、不利益となっていることを常に忘れず、極力多くの人がつらい思いをしないように考えて行動したいです。
- 勉強だけでなく、タイムリーな社会問題に関心を持つように新聞を毎日読むようにしている。
- 内容が難しい。

- 一人一人が自分の利益を追求しているような世の中じゃ、いつまでたっても経済格差や貧困問題は解決しないんだとわかった。今はそういう世の中だから、このままじゃだめだと思った。
- 世界情勢についてもっと知りたい。
- 難しい内容でもみんなで楽しく考えられるプログラムがいいです。
- 何かするのをこの環境だから仕方ないと諦めるのではなく、今この環境でできることは何だろうと考える力が必要。
- 環境のために学校で取り組めることや世界中の貧困で苦しんでいる方のために、もっと学校全体として取り組んでいきたいです。
- GRIT の主旨をわかっていない生徒が結構多いと思う。もったいない。
- 自分ひとりの勇気が他の人の命を救うことがあるということ。
- アクティブラーニングをもっと導入してほしい。
- 環境に興味があるので、自分の住んでる市の環境の取り組みに参加したいと思います。
- もっと身近なことについて学びたかった。
- 自分がニュースや新聞で見たり聞いたりしている情報が必ず正しいとは限らないこと。
- もうちょっと工夫してほしい。
- もっと世界のことを知りたい。
- 目的意識をもつようになった。
- どうして世界は平和にならないのか。
- 英語圏だけでなく、アジアについても学びたい。

(2年)

- 私たち1人1人の行動でいろんなことが動き、世界平和のために全員で動けばいつか世界はつながっていくと思いました。
- 目の前の1人を大切にする。だれ一人置き去りにしない。
- 積極性が大事だなと思いました。
- SDGs の17項目を全部考えない限り、世界は平和にならない。
- SDGs について本当にできるのか？と思う人も多いだろうが、やらなければ人類は生き残れない。
- 生徒全員で取り組むというところに GRIT の意義があると実感しました。
- どれだけ意識が高くても、なかなか忙しい毎日の中で自分で地球的課題について学ぼうと調べたり本を読んだりするのは難しいと思う。だからこそ、授業としてこのような機会をもうけてもらえるのは本当に幸せなことだと思いました。
- 何か学んだ後にワークシートに感想を書くには生徒側にはあまり意味がないと思う。

そのために、話し合いの時間が終わってしまうことがよくあった。

- 「人権」「平和」「環境」「開発」の4項目はそれぞれの問題に感じることもあったけど、1つの項目を調べて深く追求していくと、根底では4つすべての項目が絡んできていくことを知って、どれか1つだけ改善しよう、伸ばしていこうとしてもダメなんだと思った。
- いくつかの項目から興味があることを選択して、それぞれ分かれて授業を受けるということがあってもよいのでは。
- いろいろな角度からものごとを見る大切さ必要性を感じた。
- プレゼンの授業は1～10まですべてを自分たちで取り決めなければいけない状況だったので、自分で考え、調べ、わかりやすく説明するということを学ぶことができたと思います。

(3年)

- 座学が多い。知識を得ることは大切だが、実際に外に出ないとわからないこともある。特に環境分野では学校に豊かな自然があるのだから、学校内のフィールドワークを行って、自分の身の回りの生き物などを肌で感じるべき。
- 一番難しいけど、生徒の意識を変えるのが先決、そうすれば自発的に学びだすと思います。
- どんなことも他人事と思わないようにしたい。
- GRIT でとりあげた内容の根本的な解決にたまるまで何かをしようと思います。
- 生徒一人一人がすごい存在であるとわかった。
- プレゼンの質を追い求めていく中で、段々と個人の得意な部分が見えてきて、意味のあるグループ学習の経験ができた。それに気づくためにはもっと準備時間を増やしていくべきだったと思う。
- 平和の形と平和の定義を考えた
- 平和への第一歩はまず友達を大切にすることだと思った。
- まず何も知識をもっていないことを痛感した。今、世界で起こっている問題について、もっと知って理解していくためにはどうすればいいのか、考えました。まずは本を読んでみようと思います。私の見えていない世界を知ろうと思います。
- 資料をどう探すのがよいのかという講義があればよいと思った。
- 今の私たちにできることもある。
- 日本では普段命を脅かされる状況はないけれど、同じ地球上で他国では私より小さな子供が戦っていることがあることが衝撃でした。
- 私は宇宙開発に携わりたいと思っているので、宇宙開発によって世界規模の視野を身に着け、世界平和につなげたいと考えました。
- GRIT をしなければ知ることなかったようなことを学べた。

グローバルシチズンシップセミナー

関西創価高校では、グローバルリーダーの育成を目指して、全校生徒を対象に、国内外より講師をお招きして、グローバルシチズンシップセミナーを実施しており、2014年から2015年度末までに、9回行った。毎回の講演では、最後に質疑応答の時間を取る。生徒からは質問が続々と飛び出すなど、大きな触発を与える機会となっている。

【第1回 2014年3月11日 岩崎 武宏氏】

東日本大震災より3年の節目となる3月11日、宮城県仙台市より岩崎武宏氏をお迎えした。

講演では、パソコン画家の長男：健一さんが描いた「四季の花」と詩人の次男：稔さんが詠んだ「五行詩」を通して、進行性筋ジストロフィーと闘う健一さんと稔さんが、ベッドの上から、世界中の人々に勇気の風を送っている様子を紹介。岩崎さんご夫婦が40年以上、健一さんと稔さんを支え、歩んでこられた人生を通して、苦難に負けない生き方や「生きる」とは何かを学ぶ機会となった。



【第2回 2014年6月21日 藤原 宏宣氏】

GOOD EARTH 株式会社 代表取締役社長の藤原宏宣氏（本校卒業生）をお迎えした。中国での有機農産物宅配サービスや、ギニアでの氷販売事業を手掛けておられ、海外で事業を展開する上での困難や、今後の展望を語ってくださり、生徒からの質問が続々と寄せられた。

＜感想＞

- ・世界では私たちの想像を越える程の格差や貧困があり、自分の目を疑うほどでした。でも私達にはその現実を変えていく使命が必ずあると感じました。自分自身も今は勉学に励み、将来世界を幸せに出来る人材へと成長していきたいです。
- ・“貧困の連鎖”を断ち切れるように、日本人としてではなく、地球の上の一人の人間として、皆が平等で幸せな社会をつくらなければと思いました。



【第3回 2014年10月11日 青木 豊彦氏】

株式会社アオキ 会長の青木豊彦氏をお迎えした。青木氏は、2009年1月に打ち上げられた民間人工衛星「まいど1号」のプロジェクト発起人であり、株式会社アオキは製作面で大きな役割を担った。東大阪を元気にしたいと立ち上がった「モノづくり」の職人達の奮闘を熱く語って頂いた。

<感想>

・青木さんが今までやってこられたこと、仕事に対しての思いや誇りは本当にすごいと思います。講演中、“自分があきらめたら終わり”と言っておられました。本当にその通りだと思います。

・“社会に出ても、気配りができなかつたら、絶対アカン”というメッセージは、僕の心に深いメッセージとして響きました。「そう生きていかなアカンな」とすごく考えさせられました。



【第4回 2014年11月1日 近藤 哲生氏】

国連開発計画 駐日代表の近藤哲生氏をお迎えした。近藤氏は、外務省からニューヨークの国連開発計画（UNDP）本部に出向していた2001年9月11日のアメリカ同時多発テロに遭遇したことが転機となり、UNDPへ。2010年から2013年末までUNDPチャド事務所長を務め、2014年1月からはUNDP駐日代表。

講演では、2015年を達成期限とした“ミレニアム開発目標”（MDGs）の達成状況を踏まえて、2015年に新しく制定される“持続可能な開発のための2030アジェンダ”（SDGs）の紹介があった。未来を担う高校生達に、「2030年の世界は“どうなる？”ではなく、“どうする？”のか。2030年を目指して、SDGsを一緒に達成していこう」と呼びかけてくださった。

<感想>

・現在の地球的課題の多くは、貧困と密接に関わっていることがわかりました。より深く学び、自分ができることに取り組んでいきます。

・近藤代表にお会いするまで、国連は自分とは程遠い存在だと思っていました。今日お話を聞いて、国連やUNDPが世界平和のために具体的に活動している様子を知り、今いる場所で、人々の幸せのために学んでいこうと決意しました。



【第5回 2015年5月2日 今井 夏子氏】

国連大学サステナビリティ高等研究所で大学院プログラムアシスタントを務める、今井夏子氏（本校卒業生）をお迎えした。今井氏は中学生の時に、アフリカのソマリアで起きた内戦の映像を見て衝撃を受け、“世界の平和に役立つ人材に”と決意。国連職員として、戦争や貧困、差別がない世界を目指し、シエラレオネ等で活動されてきた様子を語ってくださった。

<感想>

・「世界で人のために尽くす」という夢ができました。今回の講演で、世界の現状の厳しさを、より現地に近い目線で知ることができました。今この瞬間も苦しんでいる、多くの人々の存在に背を向けず、その状況を打開できる人になろうと決意しました。



【第6回 2015年6月8日 岩崎 武宏氏】 ※高校1年生・2年生対象

岩崎氏は、第1回グローバルシチズンシップセミナーでお迎えした講師。石巻市で大盛況を博した、岩崎健一さん、稔さん（ペンネームは、岩崎航さん）のコラボ展示「負けじ魂で歩む兄弟展」を本校で特別開催。今回は、展示のオープニングに合わせて来校された際に、講演を行って頂いた。

<感想>

・岩崎さんご兄弟から、精いっぱい生きる強さがとても伝わってきて勇気をもらいました。私もこれからは、周りの人に勇気を与え、笑顔になってもらえるように自分自身から明るく、人生を楽しんでいきたいです。

【第7回 2015年10月10日 藤原 宏宣氏】 ※高校1年生対象

藤原氏は、第2回グローバルシチズンシップセミナーでお迎えした講師。前回の講演で学校の設立構想を語っておられたが、2014年9月には、貧困国における女性の地位向上、経済的基盤を確立することを目的とした、HIMAWARI 学校を開校。地球的課題解決のために教育が果たす役割の重要性を語ってくださった。

<感想>

・今、世界で起きている様々な問題の根底を探し、それが自分たちの生活が原因であると思い、他人事ではなく、世界市民として考えていこうと思いました。今、私たちが出来ることは、“知る”ことだと思いました。

・どうすれば世界の格差をなくし、人として豊かになれるのかを考えてみようと思った。

【第8回 2015年10月31日 エド・フィーゼル氏】 ※高校1年生・2年生対象

アメリカ創価大学のエド・フィーゼル教務部長をお迎えした。経済的に厳しい状況で努力を重ね、大学進学を果たしたことを通し、人生において「夢を持つことの大切さ」と、良き出会いによって素晴らしい人生が開けていくことを語ってくださった。

＜感想＞

- ・どんなに困難に思えても、信じて努力を続ければ、可能性は開けていくんだなと思いました。
- ・自分の今の環境がどうであれ、自分のためにも勉強や人間性なども鍛えていきたいです。
- ・小さい頃はいろんな夢を持っていたけど、最近はずっと夢を持っていないなと思いました。とにかく1つ目標・夢を決めて、どこまでも走っていこうと思いました。



【第9回 2015年11月9日 EUがやってくる】

EU代表部の広報部部長 セーラ・ウテン参事官をお迎えした。駐日欧州連合では2007年以来、大使や外交官が高校を訪問し、EU及び各出身国について説明する出張授業「EUがやってくる」を開催しており、本校では2回目となる。

講演では、平和な世界を構築するために、EUが行っている具体的な取り組みを教えてくださいました。EUについて、はじめて詳しく聞く生徒も多く、貴重な機会となった。

＜感想＞

- ・場所は違えど、平和への思いは同じなんだと感じました。どんなに大きな行動を起こす前にも必ず小さなことから成し遂げていくことで目標を達成していけるんだと思いました。
- ・EUはヨーロッパの中で活動しているのだと思っていましたが、ここまで世界で活動しているとは初めて知りました。また、日本とも深く交流し、たくさんのお話をしていることを知りました。



(※講師の所属・役職は講演当時)

東京 FW 講義概要

講義 1: 地球温暖化の現状と課題

国立環境研究所、茨城県つくば市

地球環境研究センター室長、町田敏暢

平成 27 年 7 月 21 日

温室効果ガスによって私たちは地球上に心地よく生きることが出来ています、しかしまたそれによって私たちは地球温暖化問題に苦しむことになっています。たくさんの国々が温室効果ガスへの対策を講じていますが、温室効果ガスは依然として増えています。町田さんは様々な方法を用いて CO₂ の観測を行っていて、その一つは旅客機による観測です。それによって私たちは私たちが温室効果ガスを減らしていく上で理解すべきである炭素循環についてより深く理解することが出来ました。将来的には、町田さんは CO₂ だけでなく他の成分についても観測を行いたいと願っており、それは温暖化問題を解決する大きな一歩になると町田さんは考えています。

(高校 3 年、男子)

東京フィールドワークの一日目、私たちは地球環境研究センターへ行きました。コントレイルプロジェクトのリーダーを務められている町田敏暢さんに、地球温暖化や研究内容についてのプレゼンテーションをしていただきました。最も印象に残っていることは、コントレイルについてです。私は技術の進歩を競うのではなく、日本が自国の技術を他の国ともっと共有すべきだと思います。なぜなら技術の進歩を競えば戦争などの不幸をまねく事になると思うからです。この観点から考えると、私はコントレイルは他の国と情報を共有する良い機会となるので感銘を受けました。

(高校 2 年、女子)



講義 2: アジアの環境問題と国際協力

筑波宇宙センター、茨城県つくば市

宇宙利用統括、石田 中

平成 27 年 7 月 21 日

石田さんは JAXA の衛星のプログラム・宇宙から見えるアジアの環境問題・アジアの国際協力の 3 つのことについて話されました。JAXA は ALOS-2 などの地球観測衛星を使って、地球の環境や災害を観察しています。アジアには、森林破壊や大気汚染、洪水などの、宇宙から見える問題がたくさんあります。JAXA の衛星は、それらの問題について宇宙から見た時間ごとの画像を記録しています。それによって地球にいる人たちは、宇宙から見ているように問題を見ることができ、問題の分析に役立ちます。アジアのそれぞれの国・機関は観測データを共有しあい、問題の解決に活かしています。

(高校 3 年、女子)

私は自然災害はただ人間の命を奪うものだと思っていました。しかし、自然災害を宇宙技術の開発によって世界平和を実現するために利用できるという事を知って驚きました。私は宇宙から見ると全ての人間は一つの地球に住む生き物なのだから皆が幸せになるために協力して、自然と共生していかなければならないということを自然災害が気づかせてくれるということを学びました。そうするために物事を宇宙から見るということがとても大切だと思いました。

(高校 3 年、女子)



講義3：人間の安全保障／ 恐怖・欠乏からの自由

国連大学、東京都渋谷区

国連大学サステナビリティ高等研究所、今井夏子

平成 27 年 7 月 22 日

関西創価高校出身で、現在国連大学で働いておられる今井夏子さんが、私たちに「人間の安全保障」について講義をしてくださいました。「人間の安全保障」とは、人間一人ひとりに焦点を当て、人々を貧困、病気、紛争などのあらゆる脅威から守るという考え方です。この、「人間の安全保障」という概念を初めて公に取り上げたのは、国連開発計画（UNDP）の 1994 年版人間開発報告でした。今、多くの国で政府と反政府勢力の対立が見られます。また、人々にとって脅威となりうる地球的課題は、ますます大きな問題となり、複雑さをましています。もはや政府が国民を守ることはできず、時には政府の存在が国民にとって脅威になるという事態が起こっています。したがって、人間の安全保障と言う考え方を広めることが重要なのです。

私は今井さんの授業を受けるまで人間の安全保障については全く知りませんでした。だから、今井さんのプレゼンテーションはとても私にとって印象的でした。今井さんの授業から、人間開発の基本は一人一人を助け、彼らの安全を守り、そして彼らの可能性を実現することから始まるべきだと思いました。また、それらの活動は何か特別なものではなく、ただシンプルであるだけでいいと思います。例えば、苦しんでいる人がいるところの生活状況を調べたり、一般人の本当の気持ちを吸い上げたりするこ

とです。私は世界平和に貢献するために、世界市民になろうとする LC の毎回の授業を一生懸命頑張ることが私たちがそのような活動に参加できる方法だと思いました。

（高校 3 年、女子）



講義 4: 平和と開発のための UNDP

国連大学、東京都渋谷区

国連開発計画（UNDP）駐日代表、近藤哲生

平成 27 年 7 月 22 日

講義の中で、私は 3 つのことを学んだと思います。1 つ目は MDGs の目標は達成され、また UNDP は MDGs を通して、女性が中心となる計画は 100 パーセント達成するなどといった、よりよく目標を達成するためのアイデアを発見した、ということです。2 つ目は、「誰も後ろに残さない」という言葉が、目標達成の際大きな力を持ち、機関同士のつながりを作るときに大切である、ということです。3 つ目は、SDGs の目標達成のため、UNDP は個人に焦点を当てなければならない、ということです。また、貧困層の人たちをビジネスに巻き込むべきであり、さらに、個人同士の連帯による知識やアイデアの共有によって、MDGs より達成が難しい SDGs を達成することになると話しておられました。

（高校 2 年、女子）

私は、その地域の人々が自分たちの力で行っていけるプロジェクトが大切だと思います。MDGs はたくさんの進展を生みだしましたが、十分ではありません。すべての人は、誰も置き去りにしない開発を必要としています。講義の中で私は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントがもたらす、すばらしい効果に感動しました。このことも大事だと思います。近藤さんは、すべての人が持続可能な開発目標のどれかにはたらいっているといえるような状況をつくりたいとおっしゃっていました。私は、もっとたくさんの人に自分たちが持っている平和な世界をつくる力を知ってもらいたいです。私も、平和な世界をつくるために自分にできることを常にさがしていきたいです。

（高校 2 年、女子）



講義 5: グローバルリーダーで生き行くための条件

創価大学、東京都八王子市

経済学部学部長、マリコ・J・ホンマ

平成 27 年 7 月 22 日

教授は国際化とは自由貿易など、相互に強く依存し合うことと言われました。しかし、いまのこうした経済の中では一つの道を選択するためにもう一つの道が無視してしまっているという状況になってしまっています。例えば、経済の発展やお金を儲けることなど自国の利益を優先しているために、そのことが他の国に悪影響を及ぼしたり不平等に繋がっています。ホンマ教授は経済には冷静な頭脳を持つ一方で温かい心が必要ということと、自分の視野にとらわれるのではなく自分の立場を相手の立場に置き換えてみるのが大切だと言われました。しかし、経済を変えるだけではなく、私たちの経済に対する価値観も変えていかなければなりません。経済の発展が第一という考え方ではなく経済発展だけが幸福ではないという価値観に私たちが変わっていかなければなりません。

(高校 2 年、男子)

講義を聞いて、“同情するだけでなく、提案し実践していくこと”という考え方が今必要とされているのだと思いました。経済学の視点から見て、私たちは限られた資源の中で、どれだけの限りないアイデアを創造するか、頭を使わなければいけません。これは経済学だけでなく、他のすべての事に言えると思います。私たちは日々すべての事を何とかやり抜いています。また戦争などの失敗から学ばないでいれば、おそらく同じような事を再び繰り返します。これを避けるためには、何に対しても無関心はいけないと思いました。行動を起こす前に、調査や分析をベースにして、私たちは深く考え様々な面から見るべきだと思います。

(高校 2 年、女子)



講義 6: 日本の平和主義

創価大学、東京都八王子市

元イラク、ノルウェー大使、山口寿男

平成 27 年 7 月 22 日

私たちは山口元大使から日本の平和主義について学びました。まず、戦後日本の平和主義がどのように生まれたのか、そしてその平和主義がどのように日本政府の国家安全保障政策に反映されたのかを学びました。私たちは山口元大使から日米同盟は日本が軍事的自制を旨とする国家安全保障政策をとることを可能にし、また、その政策が東アジアの人々の、戦後日本が再び軍事大国になるのではないかと脅威感を抑制したことを学びました。そして、最後に従来の安全保障政策では自衛のための抑止力が十分に働かないことから、集団的自衛権を容認するという憲法解釈が行われたということを知り、日本の平和主義についての授業を終えました。

(高校 2 年、女子)

私はこの講義を受けるまで、日本がなぜ集団的自衛権についての解釈を変えたのか、理解することが出来ませんでした。また、私はこの変更は必要の無い事だと思っていました。しかし、この講義を受けて、私の意見は変わりました。私は日本の安全保障についての問題は日本国内だけで解決できるものではないこと、戦争が起こりそうな状況を抑止することが大切だということを知りました。私たちは他国に攻撃をされないような努力をすべきだと思いました。今、日本では集団的自衛権について様々な議論がありますが、私たちは何が真実なのかを見極める必要があると強く感じました。

(高校 2 年、女子)



7月広島フィールドワーク実施報告

■目的 「平和の世紀へ いざ学ばん！」とのテーマのもと、被爆70年を迎える広島を実際に訪問し、広島で何があったのかを学び、平和のために自分たちができることを考える研修とする。

■期間 2015年7月21日（火）～7月23日（木）

■参加者 高校1年生16名、高校2年生10名、高校3年生4名 計30名

■事前学習・準備

- ・大久野島についての学習
- ・DVD「ヒロシマナガサキ」を視聴（広島平和記念資料館より貸出して頂く）
- ・全校生徒で、折り鶴の作成と核廃絶の署名を行う。

■行程

<1日目>

7:45に新大阪駅に集合し、8:24に出発。福山駅で新幹線乗り換え、10:08に三原駅に到着。三原駅からバスに乗り込み、11:00に忠海港に到着し、フェリーで大久野島に渡った。

大久野島は周囲約4kmの島で、戦時中は毒ガスを製造する工場があったため、地図から消されていた島。現在は、ウサギが数多く生息している。大久野島では、最初に「大久野島毒ガス資料館」の見学を行った。大久野島で製造されていた毒ガスは、中国で実際に使用されていた、そして、従業員にも多くの被害を与えていたことや、投棄した毒ガスが今なお残っていることを、映像や展示を通して、学んだ。「大久野島毒ガス資料館」見学後は、昼食および自由時間とした。大久野島に残る製造施設の見学などを通し、戦争の恐ろしさを深く胸に刻んだ。

フェリーで忠海港に戻り、再びバスに乗り込み、16:00に宿泊先のホテルに到着。その後、班ごとに広島市内の戦跡や施設のフィールドワークを行った。1班→広島城、2班→平和公園、3班→本川小学校平和資料館、4班→袋町小学校平和資料館、5班→広島城を中心に、フィールドワークを行った。班ごとに夕食を取った後、20:00～21:30まで、「まちづくり市民交流プラザ」でResearch&Discussionの時間を取り、班ごとに、1日目に学習した内容のまとめを行った。

【生徒の感想】

私は戦争を教科書やテレビなどでしか感じたことがないので、実際に広島で見たたり聞いたりしてとてもよい学習になりました。二度と戦争を起こさないようにするために、

より多くの人に今日学んだことを語り広めていきたいです。



大久野島毒ガス資料館にて



大久野島毒ガス製造工場跡



広島城



原爆ドーム

<2日目>

9:00 から国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にて、被爆体験記朗読会に参加した。全員が原爆詩の朗読も行い、被爆された方に思いを馳せた。その後、全校生徒で作成した折り鶴を「原爆の子の像」に奉納し、原爆死没者慰霊碑に献花を行った。10:00 から広島平和記念資料館を見学。その後、班ごとに平和記念公園に来られている方へのインタビューを行った。昼食時間に、旧日本銀行と袋町小学校平和資料館の見学を行った。14:30 から国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にて、広島女学院の方と共に、被爆体験講話をお聞きした。15:50 から広島女学院の方に、平和公園の「碑めぐり案内」を行って頂き、それぞれの碑に込められた思いを学んだ。17:10 には広島女学院に移動し、交流会を行った。広島女学院や本校の学校紹介を行い、全校生徒で行った核廃絶の署名をお渡しした。

班ごとに夕食を取った後、20:00~21:30 まで、「まちづくり市民交流プラザ」で Research&Discussion の時間を取り、班ごとに、2日目に学習した内容のまとめと、3日目

に訪問するホロコースト記念館に関する内容の学習を行った。班ごとに別のテーマについて調べた後、ジグソー法で情報を共有した。Research&Discussion の時間にまとめた内容や写真・動画は、Google ドライブ上にあげ、参加者で共有できるようにした。

【生徒の感想】

学校や家の机の上で平和学習するのとは違い、爆心地である広島でしか感じられない、戦争の恐ろしさ、痛ましさ、苦しさを体感しました。実際に、語り部の方々からお話を聞けるのは、私たちの世代が最後です。大阪に帰り、友達・家族へ、広島で感じたことを伝えようと思います。高校生の時期に、貴重な体験ができて、少し成長できた気がします。



被爆体験記朗読会



原爆死没者慰霊碑に献花



平和記念公園でインタビュー



被爆体験講話



広島女学院の方による碑めぐり案内



広島女学院の方による碑めぐり案内

<3日目>

10:00 から広島平和記念会館にて展示を見学。平和委員会とのディスカッションを行った。12:35 に広島駅を出発し、福山駅にて下車。タクシーで「ホロコースト記念館」に向かい、展示物の紹介を聞きながら、見学を行った。15:40 に福山駅を出発し、17:00 に新大阪駅で解散した。



広島平和記念会館の展示見学



ホロコースト記念館の展示見学

■平和の誓い

- 一、いかなる状況であっても、核兵器の使用を許しません。
- 一、広島で学んだことを、語り広めていきます。
- 一、世界という規模で平和について考え、地域社会で行動していきます。

■3日間の生徒の感想

・私はヒロシマは世界中の人々が必ず訪れなければならないと思います。世界の権力者も一般の人々もみんな訪れ、ここで起きたことについて学ぶべきです。ヒロシマを知るべきです。二度とこんな過ちを繰り返さないために。今回ヒロシマに行った30名で先陣を切って世界平和への第一歩を踏み出します。絶対に核兵器を許しません。ヒロシマで得たものはすごく大きく、人生の糧となりました。この素晴らしい機会を頂いた方々に最大の敬意を表します。親孝行し、人のために動ける人になっていきます。

・自分の目、耳、そして肌で感じたことは一生忘れず、私の平和への道しるべになることだと思います。勉学にもより一層頑張っていきます。ずっと嫌だなと思っていた英語にも挑戦しようと決意しました。平和を語るには語学が必要不可欠だと痛感したからです。

・平和について、今まで以上に考えさせられました。まず自らが幸福になり、周りの人も幸福にしていく、この平和の理念を忘れず、これからも平和について語れる人になっていきます。

- ・広島で誓ったことを忘れずに、これからも平和について活動していきます。
- ・私は絶対に“無関心”にはならない。傍観者ではなく、勇気を奮い起こし、全ての人の幸福、平和を願う声を上げていきたい。
- ・世界平和のためには、対話が不可欠になってくると思うので、これからはもっと知識をつけて英語力を磨き、世界中の人と今回感じたことを共有していきたいです。
- ・今回の研修を通して活動する中で、自分の力の無さを強く強く感じさせられました。だからこそ今日からまた勉学に徹して励み抜いていきます。人の苦しみや悲しみ、喜びを感じ共に行動する広い心、強い心を持つために、クラブ活動や友との対話など学校生活の一瞬一瞬を価値あるものにするために全力で走り続けていきます。
- ・平和の実現のためには、平和のことをよく学ぶことが大事なので、これから先も平和のことに触れていきます。
- ・平和にしていくためには実際に現地へ足を運び、感じた様々な事を胸に置き、“何のため”を常に考え行動し、それを次世代へと伝えていかなければならない。
- ・人間一人一人の中に、平和に対する思いや信念を持つことが、世界の平和につながることを学びました。もっと深く平和について学習したい。
- ・自分の作品で人に希望を与えられるような、そしてどのような所でも創作という希望を忘れないような人になりたい。
- ・今回の研修で学んだことを胸に置き、学校での授業や活動のみならず、このことを自分の周りにいる人たちなどにどんどん語り継ぎ、戦争や原爆の体験者がいなくなっても、それらの恐怖を感じて、この世界から核がなくなるように、少しでも力になれるように尽力していく決意です。
- ・被爆者の方が願い続けた平和を成し遂げる担い手の一人になっていこうと思いました。その為にまずは「平和」とは何だろうかと考え、探究することが大事だと感じました。
- ・自分にとって平和とは何なのだろうかと考えさせられた。
- ・これからの世界平和を創るのはまさに自分なのだと自覚し、世界の国々の懸け橋となれるよう、勉学第一にさらなる努力を重ねていきます。
- ・いつも通りのみんなの顔、日常、他愛のない会話が一番安心し、幸せで、平和なんだと強く感じました。この気持ちを忘れず、身近な幸せ、平和をたくさん築いていきます。そして、今回学んだことを一人でも多くの人に伝えていきます。
- ・世界中でこんなにもたくさんの人が平和な暮らし、平和な世界を願っているのにまだ戦争が起こっている。絶対に核兵器のない、平和で安全な世界を築いていこうと思います。
- ・被爆体験講話での「平和の敵は平和だ」という言葉が印象に残りました。この経験をたくさんの人に伝えていきます。
- ・平和を語り継ぐことは、私たちの世代から勝負だなと思いました。
- ・少しでも悲惨な歴史を知ろう、学ぼうという気持ちを持ち続け、身近な家族・友人を大切にしていきます。忘れてはいけない過去を語り続けていきます。

・日本も外国も戦争というものから、深い悲しみ苦しみを受けたこと、今の世代、そして次の世代に語り広め、全ての戦争がなくなり、二度と戦争が起こらないよう、力になっていきます。

・現地に行って、捉え方が変わりました。

・平和の尊さや、広島の方の平和に対する強い思いを知ることができた。

・今までの中で一番平和について深く考えることができた。

・この 3 日間の経験を経験のままで終わらせず、しっかり行動していきます。また、戦争があったということをしっかり受け止め、二度と戦争が起きないように平和について考えていきます。

■7 月広島フィールドワークを終えて

広島フィールドワークは、SGH1 年目となる本年、新しいプログラムとして実施した。本校では、SGH の対象生徒が全校生徒であることから、全校生徒を対象に広島フィールドワークの募集を行った。90 名を超える応募の中から抽選で、7 月広島フィールドワークに 30 名、8 月広島フィールドワークに 8 名が決定した。8 月広島フィールドワークは、8 月 6 日（木）～8 月 8 日（土）まで実施する予定であり、広島女学院で行われるピース・フォーラム参加やディベート実施を予定しており、英語と日本語で準備を進めている。

今回の 7 月広島フィールドワークは、広島女学院の教職員・生徒の皆様、様々ご尽力頂き、実現することができた。また、ご支援頂いた皆様、本当にありがとうございました。



平和委員会の方と記念撮影

8月広島フィールドワーク実施報告

■目的 「平和の世紀へ いざ学ばん！」とのテーマのもと、被爆 70 年を迎える広島を訪問し、原爆の歴史を学ぶとともに、広島女学院 Peace Forum に参加し、核兵器廃絶についてハワイ、沖縄、東京、広島から集った高校生と共に考え、平和実現のために自分たちができることを考える研修とする。また、岡山にある、AMDA、ESD 本部を訪問し、平和実現に向けてどのような活動が行われているか学び、自分たちにできることを考える研修とする。

■期間 2015 年 8 月 6 日（木）～8 月 8 日（土）

■参加者 高校 1 年生 1 名、高校 2 年生 5 名、高校 3 年生 2 名 計 8 名

■事前学習・準備

- ・ビキニ環礁の核実験についての DVD を鑑賞。
- ・DVD「ヒロシマナガサキ」を視聴（広島平和記念資料館より貸出して頂く）
- ・全校生徒で、折り鶴の作成と核廃絶の署名を行う。
- ・核廃絶の是非についてリサーチし、ディベートの準備を行う。
- ・ディベートの模擬試合を行う。
- ・AMDA、ESD についてリサーチする。

■行程

<1 日目>

7:45 に通学生組（5 名）が新大阪駅に集合し、8:24 に出発。9:50 に広島駅に到着。10:10 に寮下宿生（3 名）が広島駅に到着し、合流した。広島駅から路面電車に乗り、袋町駅近くのホテルへ向かった。

荷物を預け、徒歩で広島平和記念公園へ。全校生徒で折った千羽鶴を奉納し、献花を行った。原爆投下された日であったので、多くの人が平和記念公園を訪れていた。献花後、2 班に分かれ、フィールドワークを行った。主に、外国人訪問者へのインタビューと、公園内の施設の見学を行い、各班、アメリカ、カナダ、ノルウェー、イタリアなど、様々な国の方に英語でインタビューをし、外国の方の目に映るヒロシマを学んだ。フィールドワーク後は、各班ホテルまで徒歩で戻った。

ホテルに集合後、「まちづくり市民交流プラザ」で弁当を頂き、夜に流す灯籠の飾りにメッセージを書き、午前の活動のまとめる時間をとった。

14:10 に「まちづくり市民交流プラザ」を出発し、路面電車広島女学院へ向かった。15:00 から Peace Forum に参加し、15:15 からヒバクシャ・ストーリーズによるワーク

ショップ（核廃絶教育プログラム）に参加した。ヒバクシャ・ストーリーズの活動内容の説明の後、同団体創設者の一人であるクルーンキスト氏、軍縮教育の第一人者であるサリバン博士より、アメリカの学生がヒバクシャ・ストーリーズを通して受けている軍縮教育を体験。創造力、共感力を使った活動などを通し、核兵器の恐ろしさや、現在地球上に存在する核兵器の威力を実感した。

17：30 に **Peace Forum** が終了した後は徒歩でホテルをめざし、その途中で班ごとに夕食をとった。18：50 にホテルに集合し、19：15 に灯籠流しへ出発。徒歩で広島平和記念公園へ向かった。灯籠流しの参加者が多く、灯籠の飾りを実行委員会に託し、「まちづくり市民プラザ」へ戻り、20：30 から 21：50 まで、2 日目のディベートに向け、各チームで打合せ、リサーチを行い、1 日目に学習した内容のまとめを行った。

【生徒の感想】

・広島にはたくさんの外国人の方が来られていて、多くの人にインタビューをしました。外国の人も、平和に対して、強い思いを持っていることを知り、平和な世界を創るためには、世界中の人と協力していくことが大切なんだと感じました。

・70 年前の今日、一瞬で原爆が広島町の町を吹き飛ばし、たくさんの人が水を求めて川に飛び込み、人かどうかもわからない姿で歩いていたのだと想像をめぐらせ、二度とこのような悲惨な出来事を世界のどこにおいても繰り返してはいけないという思いがこみ上げてきました。



千羽鶴の奉納



平和記念公園でインタビュー



Peace Forum <1 日目>



講師へ質問



灯籠に平和への願いをこめて



灯籠流し

<2 日目>

9:30 から広島女学院にて、Peace Forum に参加した。まず、参加校の点呼があり、ディベートを行うグループに分かれ、皆でアイスブレイクを行った。その後、各教室へ移動し、ディベートを行った。各校から2名がチームとなり、他校のチームと2対2で試合を行った。使用言語は日本語または英語で、日本語でディベートする教室、英語でディベートを行う教室に分かれ、各教室3試合が同時展開された。ディベート終了後、お互いの主張を確認し、教室ごとにファシリテーター役の教員のもと、核廃絶について意見交換が行われた。

12:00 に参加者全員が講堂に戻り、昼食をとりながら、学校紹介を行った。ほとんどの学校が英語で紹介をし、民族衣装を着て歌やダンスを披露する学校もあり、会場全体が一つになり盛り上がった。

学校紹介後、14:00 に各教室に戻り、合意形成を図った。各教室で出た意見をまとめ、アクションプランを採択した。14:40 に講堂に戻り、各教室の代表が合意事項をシェアした。15:30 に全体の講評、閉会の挨拶があり、記念撮影があった。Peace Forum 終了後、各班に分かれ、フィールドワークへ。旧日本銀行と袋町小学校平和資料館を訪れた。その後、班ごとに夕食をとり、19:50 まで自由時間となった。19:50 にホテルフロント前に集合し、20:00 から21:50 まで、「まちづくり市民交流プラザ」で被爆体験記の朗読会、フィールドワークの情報交換が行われた。Peace Forum やフィールドワークで学んだことの内容は、まとめて、写真・動画と共に、Google ドライブ上にあげ、参加者で共有できるようにした。

[生徒の感想]

・被爆された方の話を聞いたり、沖縄の高校生と話し合う中で、私はまだまだ我がことのように捉えられていないことがとても恥ずかしく、歯がゆい思いをしました。なので、身の回りの人や、過去、現在の悲惨な出来事に対して、もっと同苦できる、心の痛みの分

かる自分になっていきます。将来を担う若者たちとのつながりを大切にして、核兵器を廃絶し、信頼と尊敬で成り立つ平和を築くと決意しました。

・私は核兵器を「廃絶できる」という意見を持っていますが、他校の方々の中には「廃絶は難しいからできない」と主張している方も多くいることに驚きました。しかし、私はどんなに困難であっても、『希望』を持って行動を起こしていくことが関西創価の学生の使命だと痛感しました。被爆者の方が高齢化して、いなくなっても、私たちが原爆投下の過去を学び、世界に原爆の悲惨さを訴え、理解を広げれば世界から核兵器はなくしていけると感じました。自分自身がピースビルダーであるとの自覚を持って、尊敬と感謝の心で平和の心を広げていける人になりたい。



アイスブレイク



アイスブレイク 2



ディベート



ディスカッション



学校紹介



ハワイ・プナホウ高校によるフラの披露

<3日目>

7:50にホテルをチェックアウトし、路面電車で広島駅へ。8:57発の「のぞみ10号」で岡山へ向かった。9:32に岡山に到着した。タクシーでAMDA本部へ。10:30にAMDA本部へ到着し、AMDA職員 山崎さん、AMDA 中学高校生会担当の竹谷さんからAMDAの活動内容を伺う。活発な質疑応答のあと、岡山大学阿部副学長、京山ESD推進協議会池田会長、岡山市職員小西さん、岡山高校生会議のメンバーに迎えに来ていただき、京山地区を経由し徒歩で岡山大学へ。大学で昼食をとり、14:00からESDの取り組み、また岡山高校生会議の活動について報告を聞いた。16:00に大学を後にし、岡山駅へ。16:30に寮生・下宿生が解散し、通学生は17:32に岡山駅を出発し、18:30に新大阪駅で解散した。



AMDA 訪問



京山 ESD モデル地区の視察



ESD の取り組みについての紹介

[生徒の感想]

・AMDA本部を訪れ、世界各地で実際に困っている人たちの下に駆けつけて活動している人たちについて学びましたが、国家・民族・宗教・思想を超えて『救える命』という一点で活動される姿に感動しました。敵対する民族の若者たちの交流や、教育を通し未来を作る活動を知りました。それらを実現していくには、さまざまな世界の文化の違いを知り、

理解し、学ばなければ、世界を変えることはできないと痛感しました。

・E S Dでは岡山県で行なわれている、地域的な持続可能な環境への活動を学びました。自分たちと同じ年代の高校生が、大人の方と共に、力を合わせて地域活性化のために行動を起こしているのには、とても良い刺激を受けました。地域に愛着を持つことが、やがて、国や地球に愛着を持つことにつながるのだと知りました。私たちの学ぶ四分野がユネスコ憲章につながる大きな取り組みだと知り、自分たちの学びに誇りがもてました。

■3 日間の生徒の感想

・今まで私は核を廃絶すべきであると、ただ思っているだけでした。しかし、今回のフィールドワークに参加して、思っているだけではいけないこと、もっともっと深く深く考える必要があることを学びました。私は 3 年生で来年は学園にはいませんが、来年も、次の年も、このようなフィールドワークを開催して、後輩に感動的な体験をしてもらいたいです。

・自分はまだまだ知らないことがたくさんあると痛感させられたフィールドワークでした。P E A C E F O R U Mでは、沖縄の生徒が、沖縄にある諸問題について涙を流しながら、その問題自体が世間に知られていないことについて訴えているのを見て、申し訳なく思い、情けない思いになりました。もっともっと身近なことから、関心を持って多くのことを学んで生きたいと思いました。

・日本は唯一の被爆国です。それがどれだけ大切なことか、重要なことか気づくことができました。グローバルといわれる世の中で、国と国の境界線が見えなくなってしまうぬように、日本のことを知り、日本が唯一の被爆国として世界にできることは何か。何を伝えていけるのかを考えて行動していける、本当に世界市民になっていきたい。そのためにも語学に挑戦していきます。

・すべての問題を我がことのように考えて、行動していこうと改めて決意できました。現実だけを見つめていても現実是不変ならない。「希望」を持って理想をもっと具体化して、みんなとシェアしていくことが大切だと思った。そして、これからの未来を担う私たち若者は、何があっても諦めず、真の世界平和を実現していきたい。まずは語学力と英知を磨いていきます。

・憎しみや差別からは真の平和は生まれない。お互いの信頼と尊敬によって成り立つ平和を実現していこうと、他の高校生と語り合うことができました。同世代の平和活動の内容を聞いたり、ディスカッションをするなどの交流から、信頼・尊敬し合える関係が築けるのだという貴重な体験ができました。

・興味・関心を持つ、考える、行動する、継続することの大切さを学んだ。そして、周囲の人・地域に対しても思いやりの心を持って行動し続ける。今の高校生時代に、善悪の判断ができるように、真実や本質を見抜ける自分になるために、クリティカルシンキングを身につけていきたい。

■8月広島フィールドワークを終えて

広島フィールドワークは、SGH1年目となる本年、新しいプログラムとして実施した。本校では、SGHの対象生徒が全校生徒であることから、全校生徒を対象に広島フィールドワークの募集を行った。90名を超える応募の中から抽選で、7月広島フィールドワークに30名、8月広島フィールドワークに8名が決定した。先に実施した7月のフィールドワークに続き、8月広島フィールドワークでは、広島女学院主催のピース・フォーラムに参加し、広島、東京、沖縄、ハワイの学生と核廃絶、平和について英語と日本語でディベート・ディスカッションをし、高校生として何ができるのかを考えた。

また、災害医療支援、環境開発の面から平和構築を目指す、AMDA、ESDの活動を学び、本校で学ぶGRITの「環境」・「開発」・「人権」・「平和」の4分野が、グローバルイシュー（地球的課題）を解決する上で、最も重要なポイントであることを知ることができた。

8月広島フィールドワークは、広島女学院の教職員・生徒の皆様、AMDA、ESDの皆様には様々ご尽力頂き、実現することができた。また、ご支援頂いた皆様、本当にありがとうございました。



Peace Forum 参加者で記念撮影

海外フィールドワーク実施報告

■目的 本校が研究を進める4分野（環境・開発・人権・平和）について、LC(Leaning Cluster)の生徒が中心となり、1年間のリサーチ・ディスカッションを通して、地球的課題への具体的な提案を盛り込んだプレゼンテーションを作成した。

今回のフィールドワークは、チョウドリ元国連事務次長をはじめ、大学教員や学生、高校生などに幅広くプレゼン発表を行い、今後取り組むべき課題を明確にすると共に、課題研究の提携先である大学・研究機関等を直接訪問し、継続的に課題探究に取り組むための方向性を協議することを目的とする。

■期間 2016年1月31日（日）～2月6日（土）

■参加者 高校2年生7名、高校3年生5名 計12名

■事前学習・準備

- ・海外フィールドワーク参加希望者の選抜試験
- ・LC(Leaning Cluster)の生徒による1年間のリサーチ・ディスカッション
- ・1/23（土）校内でプレゼン発表会

■行程

<1日目 1/31（土）（現地時間）>

1/31 午前ロサンゼルス国際空港に到着。その後、UCLAへ。12時半からUCLAの学生と、環境、開発、人権、平和の課題別に、4グループでのディスカッションを実施。その後はキャンパスツアーへ。ホテルでは今回訪問予定の、アメリカ創価大学ハブキ学長が歓迎を。



UCLA キャンパスツアー



UCLA の学生と

<2日目 2/1（日）>

10時にサイモン・ウィーゼンタールセンター（当施設は、本校創立者が以前スピーチを行った場所）に到着。展示見学を約2時間半行った。自分達の課題探求のテーマと密接に結びつく内容を学び、今自分たちが出来ることへの挑戦を決意していた。

午後からは、地元で活動を行う平和団体の方に、生徒が学校紹介や「平和」について、プレゼ

ン発表を行った。その後、多様な人種の方と「平和」についてディスカッションを行った。生徒達にとって、「多様性を尊重するとは何か」を考えるよい機会となった。

生徒の感想：「今日、最も印象に残った場所は、サイモン・ウィゼンタールセンターです。ここで僕が学んだことは、世界市民の一人として「責任」をもつことです。世界の真実に目をそらさず、さらに学んでいきます。」

「核廃絶について探求する中で、本当に核廃絶はできるのかと悩んだこともありました。しかし、平和団体の方が「核廃絶ができると信じられるということは、人間一人一人のもつ力を信じられるということだ」と仰ってくださり、核廃絶を実現することを改めて決意しました。」



サイモン・ウィーゼンタールセンター



「平和」についてディスカッション

<3日目 2/2 (火)>

10時にアメリカ創価大学のキャンパスに到着。学生のガイドで、キャンパスツアーへ。学生が真摯に学ぶ姿を随所で見ることができ、大学での探求の在り方を学ぶ絶好の機会となった。

13時半からは、「環境・開発・人権・平和」の4グループに分かれて、教授とのディスカッションを行った。教授からの講評は、非常に示唆に富んでおり、生徒達は新たな課題を発見することができた。15時からハブキ学長との懇談を実施。

16時から、チョウドリ元国連事務次長に、各グループが1年間の課題研究の集大成ともなる、地球的課題解決に向けた具体案を盛り込んだプレゼンを発表した。生徒達は、国連で地球的課題に長年取り組んでこられたチョウドリ博士に、直接プレゼンを行う機会を目指し、リサーチ・ディスカッションを1年間行ってきた。

冒頭の10分間は、関西創価高校を同時中継で結び、チョウドリ博士から、全校生徒へのメッセージを送って頂いた。その後は、各グループの発表を行い、チョウドリ博士から、本校の研究課題と、現在、世界で起こっている様々な地球的課題とを関連付けた講評を頂いた。

18時半からは4グループに分かれて、アメリカ創価大学の学生とディスカッションを行った。

生徒の感想：「どのプログラムも刺激的で、自分たちが今調べている分野がどんどん改善されていくのが楽しくて仕方ありません。同時に自分がいかに小さいかを知り、この機会を通してもっと交流して視野を広げていこうと決意しました。」

「学びを深め、先輩方のお話を伺う中で、私が今関西創価高校で学んでいることへの誇りと感謝の思い、そしてさらに努力と挑戦を重ねていくとの決意がこみ上げてきました。」

	
チョウドリ元国連事務次長	学校の教室で中継受講

<4日目 2/3（水）>

午前は、アメリカ創価大学のラーニングクラスターフェア（ポスターセッション）に参加した。生徒は各ブースを回り、積極的に学生とディスカッションを行っていた。

午後は、シュタイナー教育のウォードルフスクールを訪問。同世代の高校生と交流を行った。はじめに、本校生徒が日本や学校についてのプレゼンを行い、質疑応答を行った。キャンパスツアーの後、「環境・開発・人権・平和」の4グループに別れ、ディスカッションを行った。ホテルには、南カリフォルニア大学博士研究員で本校卒業生の藤井大輔さんが来られ、懇談会を実施した。

	
ラーニングクラスターフェア	ウォードルフスクール

<5日目 2/4（木）>

午前は南カリフォルニア大学を訪問し、本校生徒のために特別講義を2人の教授に行ってもらった。

最初に宗教学の Varun Soni 博士の講義を受講した。Soni 博士は、平和な世界を築くために宗教が果たすべき役割や、自分が今いるところで行動を起こす重要性を教えてくださいました。最後に、限界は自分の心が作り出すものであるから、大きな夢を持って、今の瞬間を大切に生きていこうと呼びかけてくださいました。

次に、環境経済学の Matthew Kahn 博士の講義を受講した。Kahn 博士は、「環境」グループが行ったプレゼンの内容を通して、人々の意識と行動を変えるために必要なことは何かを、身近な「リサイクル」を例に、ディスカッション形式の授業を。Kahn 博士は、人々が利益とコストのバランスによって行う「選択」が、環境や経済に大きな影響を及ぼしていることを教えてくださいました、次に会う時は、課題研究の進捗状況を教えてくださいたいと、エールを送ってくださいました。



Varun Soni 博士（宗教学）



Matthew Kahn 博士（環境経済学）

<6日目 2/5（金）～6（土）（日本時間）>

午前 9 時ごろ、アメリカ創価大学のハブキ学長がホテルまで見送りに。
その後、ロサンゼルス国際空港へ。2/6(土)夕刻、関西国際空港に到着した。

■事後学習

- ・ 2/27（土） SGH 最終報告会でのプレゼン発表
- ・ 3/10（木） 校内での LC 最終報告会
- ・ 3/27（日） オープンキャンパスにて、ポスター発表

■海外フィールドワークを終えて

今回の海外フィールドワークを通して、一流の知性に触れ、目を見張る成長を遂げた生徒達は、関西創価高校の課題研究をリードしていく一人ひとりとなっていくことは間違いない。

今回の海外フィールドワークは、文部科学省をはじめ、多くの方々にご協力頂き、実現することができた。衷心より御礼を申し上げますと共に、グローバルリーダーの輩出という成果を必ず出していくことが、今回の海外フィールドワークの成功につながるとの思いで、課題研究を継続的に、より一層進めていきたい。

東北フィールドワーク実施報告

■目的 震災から5年目を迎える被災地を訪問し復興の現状と課題を学ぶとともに、東北大学大学院での学びを通して、災害復興や環境問題の解決にあたり自分たちに何ができるかを考える研修とする。

■期間 2016年3月21日（月）～3月23日（水）

■参加者 高校1年生8名、高校2年生12名 計20名

■事前学習・準備

- ・被災体験、復興における課題などを取り上げた新聞・雑誌の記事についてリサーチする。
- ・ディベート課題「日本は地熱発電をより積極的に進めるべきである」「ゴミ収集を有料化すべき」についての資料収集と模擬ディベートを行う。
- ・「学校紹介」「核兵器」「教育を受けられない子どもたち」「災害からの復興」の各プレゼンテーションの準備を行う。

■行程

<1日目>

8:00に新大阪駅に集合し、8:30に出発。東京駅で新幹線乗り換え12:52に仙台駅に到着。仙台駅からバスで移動、14:30に石巻市に到着し、NPO『みらいサポート石巻』の皆さんの協力を得て「震災の語り部プログラム（黒澤健一氏）」と「津波遺物収集ボランティア（南浜地区）」を行った。

【生徒の感想】

- ・黒澤さんが被災された時の悲惨な状況を生の声で聞くことができ、震災がどれだけ大変だったか、今生かされているからこそ、なすべきことがあるのだということを学びました。津波遺物収集では、5年たった今でもこんなに遺物が残っていることにとても驚きました。



震災語り部プログラム



津波遺物収集ボランティア

< 2 日 目 >

8 : 5 0 から東北大学大学院環境科学研究科のエコラボにて、環境科学演習を行った。

まず同研究科のコマロフ教授より「なぜ地球環境問題についてディベートを通して学ぶのか？」についてレクチャーを受けた後、『日本は地熱発電を積極的に導入すべきである』『ゴミ収集を有料化すべきである』の2つの論題について、事前学習期間に集めてきた資料をもとに、5人ずつ4つのグループを肯定側・否定側に分け、ディベートを行った。

昼食後、13 : 00 から東北大学大学院医工学研究科の研究室訪問を行った。

今回の訪問先は、『バイオセンシング医工学研究室』『神経電子医工学研究室』『生体超音波医工学研究室』『医療福祉医工学研究室』の4つ。5人ずつ4つのグループに分かれ、それぞれが2つずつ研究室を訪れ、研究内容に関する質疑を行った。参加者に医学部を含む理系分野の進学希望者が多く含まれていたこともあり、いずれの研究室でも活発な質問が出されていた。

14 : 45 からは東北大学大学院災害科学国際研究所に移動し、桜井愛子准教授の指導のもと、『持続可能な開発と防災』のテーマでワークショップを行った。

冒頭、参加した生徒の代表が『災害からの復興』と題するプレゼンテーションを行った後、『ビルド・バック・ベター』『国連SDGsと防災のつながり』について学びを深めた。

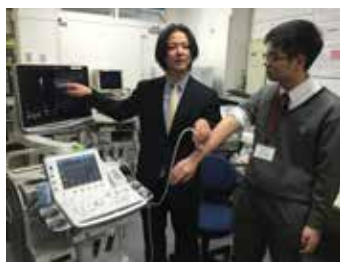
夕食後の19 : 30 ~ 21 : 30 「仙台市戦災復興記念館」で Research&Discussion の時間を取り、班ごとに1日目、2日目に学習した内容のまとめと、3日目に訪問する仙台白百合学園のSGHプログラムについて調べた。班ごとに別のテーマについて調べた後、ジグソー法で情報を共有した。なお Research&Discussion の時間にまとめた内容や写真・動画は、Google ドライブ上にあげ、参加者で共有できるようにした。

【生徒の感想】

- ・医工学研究科の研究室訪問はとてもエキサイティングな体験でした。私は医学部を志望していますが、医療における機器開発の重要性を知ることができたことは、今後の進路を考える上でとても参考になりました。
- ・特に印象に残っているのは桜井先生のワークショップです。私は将来、防災関連の都市計画に携わる仕事に就きたいと考えていますが、その夢にも通じるお話を伺うことができ、大きな影響を与えてくれたと思います。



環境科学演習



医工学研究室訪問



災害科学ワークショップ

< 3日目 >

10:00から仙台白百合高等学校にてSGH交流会を行った。

交流会では双方の生徒が昼食もともにしながら、自己紹介・学校紹介・SGHプログラムの概要・探求事例の報告および質疑応答などを行い、互いの更なる成長を約しあった。

14:30に仙台駅を出発し、19:00に新大阪駅で解散した。

[生徒の感想]

- ・私達の発表に対し、仙台白百合の皆さんが積極的に質問してくださり、自分の内容をもっと深めていかなければ相手に伝えていけないと痛感しました。互いにSGH校の生徒として、地球的課題の探求を続けていきたいと思います。



プレゼン発表



交流の様子

■東北フィールドワークを終えて

東北フィールドワークは、SGH1年目となる本年、新しいプログラムとして実施した。

本校では、SGHの対象生徒が全校生徒であることから、卒業する3年生を除く1・2年の全生徒を対象に東北フィールドワークの募集を行った。85名の応募者の中から抽選により、20名の参加者が決定した。

東北フィールドワークは、仙台白百合学園の教職員・生徒の皆様をはじめ、多くの方々のご尽力により実現することができた。この場をお借りして感謝申し上げたい。



仙台白百合高校の皆さんとともに



Kansai Soka High School



Learning Cluster

2015-2016

Overview

【Learning Cluster】

Learning cluster is a special extra-curricular SGH program comprising 16 selected students from grade 11 and 12. In the course of one year, students learned and researched about global issues related to development, environment, peace and human rights (DEPH) in English. The foundation of this program is created upon Founder Dr. Daisaku Ikeda's Annual Peace Proposal, which called out for global education based on these four fields.

The aim of this program is to provide students with the opportunity to deepen their understanding about current global issues that humanity faces and to nourish a sense of responsibility and hope through their research and autonomous learning. Through this program we hope that students will discover passion in their learning which will be carried out through their university studies, future career and lifework, which will lead to fostering the next generation of global leaders who will live contribute lives for the betterment of humanity.

During first semester (April-July), students began learning about global issues related to DEPH by reading newspapers and studying the 2015 Peace Proposal through discussions, presentations, and workshops in English.

Students have also received the following special workshops during their first semester:

- *The Role of the United Nations and Conditions in Africa*
Ms. Natsuko Imai
Program Assistant for Institute for the Advanced Study of Sustainability,
United Nations University, Tokyo Japan
- *Globalization in Economics*
Dr. Edward M. Feasel
Dean of Faculty / Professor of Economics
Soka University of America, CA USA
- *Globalization and Glocalization*
Dr. Michael Weiner
Assistant Dean of Faculty/ Professor of East Asian History & International Studies
Soka University of America, CA USA



Picture: Workshop with
Dr. Edward M. Feasel

【Domestic Fieldwork, July 21-23, 2015】

In July, students visited Tsukuba and Tokyo for fieldwork to further their understanding about global issues by receiving lectures from professionals in each of the four fields. The following are a list of activities which took place during the fieldwork:

- National Environmental Institute: lecture and tour from Mr. Toshinobu Machida, Head of Center for Global Environmental Research. Shared his research on global warming and CO2 observations through his CONTRAIL (Comprehensive Observation Network for TRace gases by AirLiner) project.
- Tsukuba Space Center (JAXA): Mr. Chu Ishida, Senior Chief Officer of Satellite Systems Development, gave us a lecture on environmental issues in Asia seen from Space by data analyzed from satellites such as ALOS-2.
- UN University in Tokyo: Mrs. Natsuko Imai and Mr. Tetsuo Kondo, UNDP Japan Director, lectured on the topics of human security and Millennium Development Goals.
- Soka University: Dean Mariko Honma gave us a lecture on global economics, and, Mr. Hisao Yamaguchi, Former Iraq, Norway Ambassador to Japan, gave us a lecture on politics and peace in Japan.

After the fieldwork, students were divided into four groups based on the four fields of DEPH and choose the following specific global issue to research throughout the year: Bullying (Development), Environmental Education (Environment), Nuclear Disarmament (Peace), Refugees in Europe (Human Rights).

Students were taught the necessary research skills for creating a research paper which includes hypothesis, literature review, methodology, discussion, etc. (adjusting to high school capability). In the end, we are hoping to produce a High School Peace Proposal, for each of the four fields.



L: LC Students in front of UN University

R: Lecture from UNDP Japan Director, Mr. Tetsuo Kondo

【Overseas Fieldwork, January 31 – February 6, 2016】

Eight students had the opportunity of participating in the overseas fieldwork to California during February, 2016. The main purpose of this fieldwork was for students to share their research with overseas experts and gain critique and further information, as well as learning from experts about their current research. Students who remained in Japan collected data for the methodology section. The following are a list of activities which took place during the fieldwork:

- University of California, Los Angeles (UCLA): Each research group shared and gained critique about their research from UCLA students.
- Simon Wiesenthal Center, Museum of Tolerance: Students learned about the importance of human rights through the Holocaust museum.
- Soka University of America (SUA): Each research group shared and gained critique about their research from SUA professors specializing in each of the four fields. After that each group presented their research to Former United Nations Secretary General, Ambassador, Anwarul Karim Chowdhury and gained feedback.
- Orange County Waldorf School: Each research group shared and discussed about their school and research to grade 11 and 12 high school students.
- University of Southern California (USC): Peace group shared their research and gained feedback from Dr. Varun Soni, USC Dean of Religious Studies. Later students received a lecture about the importance of dialogue in relation to global issues. Environment group shared their research and gained feedback from Dr. Mathew Khan, Professor at UCLA Institute of Environment. Later students received a lecture about environmental economics.

After the fieldwork, students shared their experience with peers and began finalizing their final research project (High School Peace Proposal) with the ideas and information collected.

【High School Peace Proposal】

As the final research project of Kansai Soka High School's Super Global High School (SGH) Learning Cluster Program, each group of four students compiled their research into a *High School Peace Proposal*. This project includes detailed analysis of one global issue from each group provided with a concrete action for solution based on student's research, discussion, presentations and fieldwork throughout the year.



L: Students sharing their research on Peace to Dr. Varun Soni.

R: Students sharing their research on Environment to Dr. Mathew Khan



Kansai Soka High School



**Learning Cluster
2015-2016**

1st Annual High School Peace Proposal

Learning Cluster
Super Global High School Program
Kansai Soka High School
March 16, 2016

Kansai Soka High School's Super Global High School (SGH) Learning Cluster Program is an extra-curricular class comprising 16 selected students from grade 11 and 12. In the course of one year, students learned and researched about global issues related to peace, environment, human rights and human development in English. The foundation of this program is created upon Founder Dr. Daisaku Ikeda's Annual Peace Proposal, which called out for global education based on these four fields.

The aim of this program was to provide students with the opportunity to deepen their understanding about current global issues that humanity faces and to nourish a sense of responsibility and hope through their research and autonomous learning. Through this program we hope that students will discover passion in their learning which will be carried out through their university studies, future career and lifework, which will lead to fostering the next generation of global leaders who will live contribute lives for the betterment of humanity.

As the final research project of Kansai Soka High School's Super Global High School (SGH) Learning Cluster Program, each group of four students created a *High School Peace Proposal*. This project includes detailed analysis of one global issue from each group provided with a concrete action for solution based on student's research, discussion, presentations and fieldwork throughout the year.

Table of Contents

- I. **Peace:** Actions for High School Students Towards the Abolition of Nuclear Weapons
- II. **Environment:** Peace Proposal for Environment Education for the Future
- III. **Human Rights:** Suggesting Concrete Actions to Provide Basic Human Rights to Syrian Refugees
- IV. **Human Development:** Bullying in an Education for Society

Actions for High School Students Towards the Abolition of Nuclear Weapons
核兵器廃絶へ向けての高校生に対する提言

平和グループ

4 2 期 大田雛乃、古賀晴美、辻岡美和、吉田まほ子

要旨

核兵器を持つということは関西創価学園の平和教育原点の指針である「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」という信条に大きく反するものである、という考えから私たちの提言作成は始まりました。本論文ではインターネットや書籍などを用いながら、核廃絶に向けた歴史や現状を調べました。また様々な情報を調べるうちに、核兵器廃絶へ向けた様々な活動を行っている個人や団体が多く存在するということを知りました。その一方で、核兵器廃絶をしていくためには経済的な問題、健康面への影響、核抑止論の存在等、多くの問題を解決していかなければならないということを知りました。そこで、私たちはその解決方法を探るため次の3つの設問を考えました。

1. 日本とアメリカの高校生は、核兵器について何を知っているのか？
2. 第二次世界大戦終戦以降、日本とアメリカの高校生の核兵器に対する関心を高めるため国際的な機関によって行われた活動は何か？
3. 日本とアメリカの高校生が核廃絶に向けたより具体的な行動を起こすことを促進するための活動はどのように進歩させていくことができるか？

私たちは関西創価高校2年生の全生徒に核兵器に関するアンケートを行いました。また、1月31日から2月6日にかけてアメリカのカリフォルニア州で海外フィールドワークを行い、アメリカの高校生や大学生、大学の教授等にインタビューを行いました。日本の高校生に対するアンケートとアメリカの学生に対するアンケートを通して、日本の高校生は原爆投下の歴史についての知識は多く持っているが、はっきりとした自分の意見を持っておらず、反対にアメリカの高校生は自分の意見は持っているが原爆投下の歴史についての知識はあまり持っていないということが分かりました。また、両国の高校生が核兵器廃絶に関する現状をあまり知らないということも分かりました。また、核廃絶に向けた教育において、歴史を知ることと話し合いの機会を持つこと、現状を知ることの3つが重要な要素となると考えました。このことから、私たちは次の5つのことを提案します。①日本人以外の学生は広島平和記念資料館のバーチャルツアーを見ること、②学校で核兵器廃絶を議題とした模擬国連会議を行うこと、③GRITの授業でより深い話し合いができる機会をもつことを提案します。そして④学校間の垣根を越えての会議を催すこと、⑤核兵器廃絶に関するアンケートを日本とアメリカの高校生を対象に毎年行うことを提案します。この提言の作成にあたり、私たちは日本とアメリカの高校生に的を絞っているため、それ以外の国の高校生の状況とは異なることが考えられます。また、日本で行ったものと同じアンケートを海外フィールドワークで行うことができなかったため、決して正しい比較であるとは言えません。この提言をただ作るだけでは意味が無く、私たちには核廃絶を実現させていく責任があると考えます。私たち自身が核廃絶を実現させる努力を続けていくと共に、この提言を読むことによって少しでも核廃絶を実現したいと思う人が増えていくことを願います。

Peace Proposal for Environmental Education for the Future

未来のための環境教育の平和提言

環境グループ

4 1 期 北野翔大、松下由紀

4 2 期 奥谷直希、竹内大輔

要旨

環境問題の現状を調査する中で私たちは、環境に興味をもつ人材を育てること、またそのために人々の環境への意識を高めることの重要性を感じました。

まず初めに、よりよい環境問題の解決の方途を知るため、ワンガリ・マータイ博士とライオンズクラブの活動について調べました。環境保全活動の成功例を分析し、「行動の連鎖」、「草の根運動」と「人々の意識を高めるための情報の共有」という共通点があることを発見しました。

これら3つの中で、私たちは特に「人々の意識を高めるための情報の共有」に着目し、それを実現するためには、環境教育が効果的であると感じました。また環境教育について調べる中で、環境先進国のドイツと日本に焦点をあて調べてみると、日本においては岡山市が持続可能な社会のための教育（ESD）に力を入れていることを知りました。

そして、私たちは次の三つの問題意識を軸に、調査を行いました。

- 一、環境教育ではどのような活動が行われているのか。
- 二、環境教育の結果はどのような結果を及ぼすのか。
- 三、どのようにして環境教育を推進するのか。

調査は、カリフォルニアフィールドワークとインターネット上の資料分析を通して行いました。フィールドワークでは、大学教授やアメリカの高校生へのインタビュー、環境保護活動の観察を行いました。調査を経て、校内の木を使ってイスを作るといった活動や岡山市のESDの活動が、人々の環境に対する意識を高める効果があることを発見しました。また、環境教育を推進していくためにはポスターや映像製作が有効だということを教授からのアドバイスで知りました。これらの発見を通して、日本で環境教育を推進していく上で重要なことを3点見つけました。一つ目は、自然の中での経験や活動が重要であること。二つ目は、人間と自然は深くつながっていることを知ることで、自然に対する感謝の心を育むことが重要であること。三つ目は、自分が置かれている場所で、行動を開始することが重要であることです。

この調査結果をもとに、私たちは三つの具体的行動を提案します。一つ目は、政府がNGOやNPOが学校と連携をとり、環境についての授業をするための資金を用意すること。二つ目は、生徒が環境に関する研究するためのフィールドワークの実施。三つ目は、未来の世代に自然の大切さを伝えるため、高校生が地元の人々と農業などの経験することの三点です。

本調査では、環境教育の活動、効果、推進方法について調べましたが、三点の制限事項がありました。一点目は、時間不足により、環境教育の専門家から直接見解を聞けなかったこと。環境教育の活動が十分に調べられなかったこと。環境教育の結果を正確に調べるには、調査の期間が十分でなかったことです。今後、さらなる調査が必要ですが、本調査が提案した三つのアクションプランが環境に興味を持つ人材の育成、人々の環境に対する意識向上に寄与することを期待します。

Suggesting Concrete Actions to Provide Basic Human Rights to Syrian Refugees

シリア難民に基本的人権を保障するための具体的行動案

人権グループ

4 2 期 大崎華奈、松山美華

4 1 期 戸田栄二、中谷和菜

要旨

本研究の目的は、シリア難民に基本的人権を保障するための、明確な行動を提案することです。今日、シリア難民危機は宗教的、政治的、そして人道的問題として世界に影響を及ぼしています。この危機は 2011 年、アラブの春と呼ばれる大規模反政府デモの影響によって起こりました。2015 年には、100 万人もの移民や難民がヨーロッパ付近にいました。たくさんのヨーロッパ諸国の中でも、ドイツは特に多くの難民を受け入れています。それに対して、日本は難民の受け入れに積極的ではありません。本研究の研究課題は、次の 3 つです。

1. どうすれば、日本がより多くの難民を受け入れるように推奨できるのか。
2. どうすれば、国連難民高等弁務官事務所をはじめとする国際連合の諸機関が、3 分野(保健、雇用、教育)における計画を実施するために、継続的に資金を集められるのか。
3. どうすれば、シリア難民により多くの教育の機会を創出することができるのか。

私たちは、高校生の難民問題への意識について関西創価高校の生徒にアンケート調査を実施しました。そして、様々な助言や新しい視点を得るため、アメリカのカリフォルニア州でのフィールドワークを行い、チョウドリ元国連事務次長やマイケル・ウィーナー教授(アメリカ創価大学)、マシュー・カーン教授(南カリフォルニア大学)などの教授や大学生、高校生と難民問題について議論しました。チョウドリ大使は、国連が一年間に平均 20 億ドル拠出するのに対し、世界では軍事的に年間一兆ドルもの資金が使用されていることを教えてくださいました。また、ウィーナー教授は、難民の受け入れを行うことが、日本国内の労働力不足等の問題の解消に繋がり得ると教えてくださいました。また、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の生徒や、ウィーナー教授は、意見交換の中で、シリアやシリア人に対する無知が、難民に対する恐怖を生み、受け入れの妨げになると仰っていました。本研究における私たちの提言は、次の 4 つです。1 つ目に、シリアへの爆撃に予算を使っている政府は、紛争への軍事的介入を止めるべきです。2 つ目に、日本政府は難民をさらに受け入れ、雇用するべきです。そうすれば、国内で雇用不足が懸念されている職業の、人的資源の不足などの問題が解決されるでしょう。3 つ目に、NGO や国際連合の諸機関は、高校生が難民支援に貢献しやすい方法を創るべきです。なぜなら、アンケートの回答者の多くが難民を支援したいと思っているものの、実際に募金などの支援を行ったことがないからです。4 つ目に、関西創価高校は、GRIT(Global Research and Inquire Time)を改善すべきです。無知は難民の受け入れの妨げとなるので、難民のことをよく知る必要があります。そして、その知識を周囲に広げていくことが大切です。なお、本研究ではアンケートを 1 つの学校に対してのみ行ったため、標本の大きさは小規模です。また、完全にシリアへの爆撃をやめることによる紛争の激化などの危険性や、なぜ多くの生徒が難民支援をしていないのか、日本にきた難民がどのように生活するのか、明らかにできませんでした。私たちのこの提言が、難民となった人々の、人間の尊厳を保障するための一助となることを願います。

Bullying in an Education for Society

社会のための教育における場のいじめ

開発グループ

41期 岸 菜々海 辻川 太一

42期 松本 沙也香 好井 杏梨

要旨

私たちは、創立者池田先生が2001年の教育提言において提唱されていた「教育のための社会構築」という考えを軸に、いじめの原因と現在の教育に対する政策や取り組みについて調べる中で、いじめは戦後日本の教育の変化や子どもの行動の傾向、教育環境の変化など様々な原因によって起こっていることが分かりました。また、SNSの普及などによりいじめの形態が複雑化しています。そして、政府や地域はホームスクール制度やスクールカウンセラーの導入により、いじめの被害者が学ぶ権利を奪われないような対策を講じています。そして、以上の研究を通して、私たちは提言を完成させるために以下の探求問題を考えました。

1. いじめの被害者だけではなく、いじめの加害者や傍観者をも救う方法とは何か。
2. 子どもが学ぶ喜びを自覚できる環境を作るためには、どのように地域や政府、学校との協力関係を築いていくべきか

私たちは二月にカリフォルニア大学ロサンゼルス校、南カリフォルニア大学の学生、デポール大学のジェイソン・グウラ教授、元国連事務次長のチョウドリ博士など計20人にインタビューを行いました。海外フィールドワークで様々な分野の教授にいじめ問題の根本的な原因を聞く中で、見えてきたのは、いじめは人間が本来持っている傾向によるものであるということです。子どもに限らず人間は、苦しんでいる人を見て自分と比べることで優越感を得るという傾向があり、その傾向がいじめの一つの原因となっています。また、海外フィールドワークにおいていじめのない学校であるウォードルフ高校とアメリカ創価大学の学生たちと交流していく中で、いじめを起こさない風潮を作っている要因が見えてきました。一つ目は少人数制のクラスです。どちらも平均より人数が少なく、学生間の交流を増やし、お互いの事を正しく深く知ることはいじめのない学校づくりができていました。二つ目は教師と生徒の関係の強さです。お互いが教育の質向上に真剣で、密接な連携が取れていました。

事前リサーチとカリフォルニアでの研修で学んだことを踏まえ、私たちは三つのことを提案したいと思います。一つ目は「教育のための社会の日」を設けるというものです。地域の人々、政府、両親等が一つの学校に集まって、いじめについて深く考え、子どもたちが置かれている状況を知ること、学校以外の団体や組織も教育環境づくりに参加できます。二つ目は「ヒーリング活動」です。被害者だけでなく、加害者や傍観者も含めて、三つの立場の人が模擬的にいろいろな立場を経験するロールプレイにより、相手の立場になって物事を考えるという解決策です。この活動を通して、クラスの中にいじめを許さないという風潮をつくることができます。三つ目は「個性の日」を設けることです。特に日本では個性がいじめの原因となる場合があるので、どんなに小さな個性でも話し合い、価値づけることで個性を持つことは当たり前のことだという印象を生徒に与える機会を作ります。

なお、私達のこの調査はカリフォルニアで行ったので、国の教育のシステムや背景が違う日本には全て同様に導入できる訳ではありません。さらに直接的に日本の生徒や親、先生などにインタビューを行っていないので、統計的な考慮は行っていません。

「教育のための社会構築」を目指すにあたって、今、いじめ問題をはじめとするさまざまな教育に関する問題が深刻化している中、私たち一人一人が社会の一員として責任感を持ち、協力して子どもたちが本当の学ぶ喜びを自覚できるような教育環境づくりをしていくことが急務だと思います。

UP (University Partnership) クラス

UP クラスは、高大連携を中心としたプログラムで、大学の先生や企業でお勤めの方をお招きし、本校がテーマに掲げる「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野をさらに深められるよう授業をしていただくクラスである。

毎週火曜日の放課後を軸に、1～3年生の希望者を対象に実施し、2015年度は計31回の授業を行った。その一覧が下の表である。

回	日付	講師		内容
1	4/14	ガイダンス		
2	4/21	事前学習		
3	5/11	京都大学	山敷教授	環境
4	5/26	関西大学	中澤教授	ロジカル・シンキング
5	5/27	オタゴ大学	ケビン・クレメンツ博士 ※サテライト	平和
6	6/9	京都大学	山敷教授	環境
7	6/16	京都大学	山敷教授	環境
8	6/20	アメリカ創価大学	ハブキ学長	平和
9	6/23	創価大学	玉井教授	平和
10	7/7	事前学習		平和
11	7/9	アメリカ創価大学	マイケル・ウィーナー教授	人権
12	7/10	アメリカ創価大学	マイケル・ウィーナー教授	人権
13	7/11	アメリカ創価大学	マイケル・ウィーナー教授	人権
14	7/14	創価大学	玉井教授	平和
15	9/8	創価大学	西浦教授	開発
16	9/15	創価大学	西浦教授 ※サテライト	開発
17	9/29	創価大学	西浦教授	開発
18	10/6	事前学習		開発
19	10/10	(株)GOODEARTH	藤原宏宣氏	開発
20	10/20	戸田国際平和研究所	オリビエ・ウルバン所長 ※サテライト	平和
21	10/27	戸田国際平和研究所	オリビエ・ウルバン所長	平和
22	11/10	京都大学	学びコーディネーター	環境
23	12/15	南カリフォルニア大学	藤井大輔博士	統計学
24	12/16	南カリフォルニア大学	藤井大輔博士	統計学
25	12/17	南カリフォルニア大学	藤井大輔博士	統計学
26	1/8	UNDP	富永文彦氏	開発
27	1/12	創価大学	石井秀明教授 ※サテライト	平和
28	1/19	創価大学	石井秀明教授 ※サテライト	平和
29	1/26	創価大学	石井秀明教授	平和
30	2/3	(株)タナカバナナ	登和麻氏	開発
31	2/23	AMDA	竹谷和子氏	人権

【環境：奇跡の星・地球 ～他の惑星との比較から～】

2015 年 5 月 11 日(月)、6 月 9 日(火)、16 日(火)

講師：京都大学大学院総合生存学館(思修館) 山敷庸亮 教授

第 1 回目となった 5 月 11 日は、太陽系の惑星を構成要素で地球型惑星と木星型惑星のグループに分け、対比しながらソーラーシステムについて教えていただいた。地球と他の惑星の相違を説明しながら、この地球の「水」の存在の偉大さを教えていただいた。奇跡中の奇跡と言えるこの地球環境。そこで争い、生命を傷つけ、環境を破壊する行為の愚かさを、様々な観点から学んだ。



第 2 回目の 6 月 9 日。金星と地球の類似点や相違点を通して、地球に液体の水があることがいかにすごいことか、を熱く語ってくださった。液体の水が循環しているおかげで、地球上には多様な生命が奇跡的に誕生していることを教えてくださった。

講義が終わった後も、山敷教授を囲んだ質問の輪は遅くまで解けることはなかった。

16 日の最終日の講義は、地球に生命が存在し続けられるかどうかの分かれ目は、海が干上がるかどうか、という点を指摘され、今後、温暖化等で氷床が溶けると海の塩分濃度が下がり、海流が深く潜り込まなくなるので海流が止まり、そのことで熱循環が悪くなるため人が住めなくなってしまう、と警鐘を鳴らされた。

3 日間、最先端の研究をうかがうことができて、大いに視野を広げることができた。



＜生徒の感想＞

- 1 回 1 回の講義が新しい知識との出会いの連続で、自分の世界が広がっていくことを感じ、とても楽しかったです。私は環境分野への関心を強め、グローバルリーダーとして世界に貢献していきたいと決意を新たにできました。
- まさか海の水や地殻の炭素こそが温室効果ガスだとは思いませんでした。逆に気体でなく個体でも安定してしまうと、そのままになると聞いたとき少し怖かったです。
- 金星と同じ二酸化炭素が地球にもあって、もしかしたら地球も熱くて生命が生きられなかったかもしれないと考え、今の地球をもっと大切にしていかなければならないと思いました。

【ロジカルシンキング入門】

2015 年 5 月 26 日(火)

講師：関西大学文学部 中澤務 教授

関西大学が高校生向けの出張講義型プログラムとして開催している Kan-Dai 1 セミナーから、文学部の中澤教授をお招きし、「ロジカルシンキング入門」のテーマで開催した。



ものごとを論理的に筋道立てて考えるそのスキルに生徒は興味津々。「社会で必要な力とは？」という問いから話が始まり、文部科学省が定めている「学士力」、経済産業省が定めている「社会人基礎力」を紹介され、昔と違って大学では能動的な学びが不可欠であることを教えてくださった。

続いて、「論理」の「論」は言葉を使って自分の考えを伝えること、「理」は筋道のこと、と漢字の意味から説明が始まり、「論理的思考力」とは、言葉を正しく使い、問題を筋道だてて考える力であると教えてくださった。

さらに、ウェイソンの 4 枚カードの例を使って、感覚的には間違いやすい具体例から、分かりやすく論理的思考を鍛えるお話となった。日常的に言葉を使う中ではその間違いに気づきにくいことから、「接続詞」のもつ重要性を訴えられた。

他人の意見を的確に把握し、自分の意見をどう相手に伝えやすくできるか。またそれがいかに大切か。穏やかな口調ながら、まさに筋道だてていて説得力あふれるお話であった。

＜生徒の感想＞

- これから人に何か伝えたいときは、意見と理由を明確にしていこうと思いました。中澤先生の「なんとなくではなく、意識しながら話を聞いたり本を読んだりすることが大切」という言葉が心に残りました。
- 進路に役立つというより、今後の日常生活の中で活用していきたいと思いました。国語力もアップしそうです。
- 大学の在り方が変化したことがとても興味深かったです。大学で論理学を学ぶのが楽しみになりました。
- 論理的にものを考える大切さ、面白さが知れました。国語の授業でも、これを意識的に考えていけるようにしよう！と思いました。“ロジカルシンキング”をもっと知りたいと思いました。また、本屋で見えます！論理的に考えることがすべてにつながる、というのがとても興味深いです。

【平和 : Building a Peaceful World :Piece by peace】

2015 年 5 月 27 日 (水)

講師 : ニュージーランド・オタゴ大学 ケビン・クレメンツ 博士

クレメンツ博士は東京での国際会議のため来日されており、東京と中継をつないでのサテライト講義となった。英語が苦手な生徒のために、井口教諭が通訳を務めた。



まず、「平和」の2つの定義について、戦争などの直接的な暴力やその恐れがない状態としての「消極的平和 (Negative Peace)」と、貧困などの構造的な暴力も含めたものがない状態としての「積極的平和 (Positive Peace)」を示し、戦争状態が平和ではないのはもちろんのこと、私たちが生活するうえで最低限必要なものすらない状態も平和と言えない、と教えてくださった。

そして、博士が毎年つくられている Peace Map (世界地図を色分けしたもの) を見せてくださり、世界中で平和と言えない国が多くあることを視覚的に感じる事ができた。また、平和でない国ワースト 10 を紹介してくださり、その国々が政治的に不安定であり、内戦等の緊迫した状況にあることを教えてくださった。

さらに、戦争で浪費されているお金が世界の GDP の 11.3% にあたり、アフリカ全土の GDP の 2 倍にもなることを紹介され、戦争がいかに無駄にお金を使っているかを糾弾された。そして、もし世界の戦争の 25% が減れば、MDGs や EU の取り組みに十分な費用を当ててもまだ残るほどである、と主張された。

また、日本のお隣・中国との友好の大切さにも言及された。そのために「中国人の友人を増やすこと」「中国の正しい情報を得ること」「中国語を学ぶこと」を挙げて、アジアにおいて良好な関係を築くことを期待された。



最後に、核兵器廃絶と国連の機能強化、尊重し合える心を育んでいくことを訴えられた。

＜生徒の感想＞

- まずは自分の周りの人から大切にしていこうと思いました。そして、他国のことを詳しく学び、正しい知識を身につけて、今あるかもしれない偏見を取り除いていきます。
- クレメンツ博士のように、どんな世界にあっても平和は必ず実現できるという希望を持ち続けていきます！また、たくさん資料が出ていたので家に帰って調べます！！
- 博士の話が英語で聞き取れなかったことがめちゃくちゃ悔しいです！たくさん英語を勉強して世界中の人々と意見を共有して、平和に役立つ人材に成長していきます！

【平和：Weaving the Fabric of Peace】

2015 年 6 月 20 日 (土)

講師：アメリカ創価大学 ダニエル・ハブキ 学長

冒頭、同行しているアメリカ創価大学 (SUA) のアーチ・アサワ事務局長を紹介。

アサワ事務局長から SUA についての説明を英語で行っていただき、随時ハブキ学長が話を止めてその内容を生徒たちに日本語で問いかけながら確認するという形式で進められた。

英語が得意な生徒も苦手な生徒も、一生懸命英語を聞き取ろうと真剣に耳を傾けていた。

また、英語を学ぶ意義について「英語ができれば、たくさんの人を笑顔にできる」とご自身の体験を通して教えてくださった。



続いて、5 月 22 日に行われたばかりの SUA の卒業式の模様をまとめたビデオを鑑賞。ハブキ学長は卒業する学生たちのエピソードや、卒業式で記念講演をされたノーベル平和賞受賞者のジョディ・ウィリアムズ女史のお話を聞かせていただいた。ノーベル賞を受賞されるような方々が求める精神が、この創価教育にはすでにある、と教えていただいた。

最後の 15 分は生徒からの質問を受けてくださった。

「もしハブキ学長が、関西創価高校の生徒だったとしたら、何をしたいですか？」

「異なる文化背景を持つ人たちとディスカッションする際に、気をつけるべきことは？」

「現在、アメリカ創価大学が目指している目標は？」

どの質問にも示唆的で感動的な回答をいただき、皆大満足であった。

＜生徒の感想＞

- ・とても面白かったです。最後におっしゃった「自分で限界を決めず、基準を高く持つこと」を今後の私のテーマにして頑張っていきます。
- ・何のために勉強するのかについても考え直すことができ、私も他の人を笑顔にするために学んでいきたいと思いました。
- ・SUA の卒業生のスピーチで「106 人が“卒業する”のではなく、“世界中で 106 の変革の波が起こっていく”そのスタートの日が今日なのだ」という言葉が印象に残りました。
- ・もっと勉強し、絶対に世界平和を実現できる人材になると決意できました。今、この学園時代を勉学とクラブと親孝行で充実させていこうと思いました。
- ・すごく感動しました。自分の勉強に対する考え方が 180° 変わりました。今までは出来ない自分に何度も落ち込んだり、レベルを落とそうとか何度も考えていたけれども、それではダメだと思いました。どこまでも目標を高く持って「何の為に」を忘れず努力をしていきたいと思いました。

【平和：核兵器の問題を考える】

2015 年 6 月 23 日(火)、7 月 7 日(火)、14 日(火)

講師：創価大学平和問題研究所 玉井秀樹 所長



第 1 回目となった 6 月 23 日は奇しくも沖縄県慰霊の日。かりゆし姿で登場された玉井教授は、はじめに原子爆弾が投下された広島と長崎のことに触れられ、核兵器の恐ろしさを語ってくださった。そして、世界には原爆投下を正しいと考える人たちがいることを紹介され、平和を実現していくことの困難さや尊さを教えてくださった。

7 日の第 2 回目は、生徒たちだけの調べ学習を行った。23 日の講義の最後に玉井教授から示されたテーマは 3 つ。

「今年の NPT 再検討会議で十分な合意が形成されなかった理由」
「なぜ核兵器をなくさないといけないのか(核を必要とする人が納得できるような論拠も踏まえて)」
「どうすることが核兵器をなくす行動になるのか」

この難解な 3 つのテーマに、生徒たちは 5～6 人でグループをつくり、iPad 等を用いて初めて会ったメンバーとも意見交換しながら回答を作成した。



14 日の最終日。調べてきたことを発表しながら、玉井教授との活発な質疑応答が交わされた。

教授は、核兵器をなくすためには強い意志が必要であることや、核兵器廃絶の方途を探るために日々学んでいることを語られ、生徒たちは平和への誓いを新たにした。そして、「智慧の人」「勇気の人」「慈悲の人」が地球市民であると紹介され、学園生に期待を寄せられた。

＜生徒の感想＞

- ・なぜ核が地球上からなくならないのか、すごく疑問に思っていましたが、地球上に核がないと困る人たちがいるからだを知って、一度人々にとって便利になってしまったものはなかなか無くせないのだと思いました。
- ・高校 3 年間でできることは限られていますが、智慧・勇気・慈悲の人を目指して私にできることをよく考えていきたいと思います。
- ・同じ出来事が他国では解釈が違うのは教育の違いであることが分かりました。教育が本当に大切なものだと思いますし、教育者は自分の言動に注意すべきだと思いました。また、教わる側も鵜呑みにせず、考えたり深めたりすべきだと感じました。

【人権：Globalization】

2015年7月9日(木)、10日(金)、11日(土)

講師：アメリカ創価大学 マイケル・ウィーナー 教授

3日間連続で開催される講義。ウィーナー教授からは、事前学習の課題としてTED動画を2本を見ることが与えられ、生徒は各自で事前学習を行って講義を迎えた。

9日の第1日目の講義は、参加生徒たちに絶えず意見を求めながら進められた。はじめにGlobalizationは最近になって初めて起こったものではない、と述べられ、古い昔から中国やヨーロッパを中心に「もの」「人」「金」「文化」が全世界にわたって交流していることに触れられた。また、Nationalism（国家主義）やImperialism（帝国主義）の広がりによって、人の集合が変化していったことを強調された。



10日の第2回目は、異文化と触れあっていく中で差別が発生してしまうことに触れて平等性というGlobalizationの課題を教えてくださいました。さらに、「科学」「情報」「歴史」「思想」「病」「もの」などのグローバル化について、それぞれの善い面・悪い面について話をしてくださいました。



11日の最終日は、Globalizationによってさまざまなものが取り入れられていく中で、その国に合うように変化していっている点（Glocalizationと紹介）に言及。合法的な移民から非合法の移民まで人の移動・交流によって生じる人権の問題を解決するためにも、学園生に期待を寄せられた。

そして最後に、1つの問いを投げかけられた。

「皆が学ぶ歴史には女性がほとんど出てきません。

彼女たちは何をしていたのでしょうか？どこへ行ったのでしょうか？」

終始、ウィーナー教授の問いかけに新たな視点を発見できた3日間となった。

＜生徒の感想＞

- ・グローバル化について深く考えることができたし、世界のいろいろなことを知ることができました。世界に関心をもって、いろいろ調べて知識を増やしていきたいです。
- ・歴史の中で正しいものを見つけるために、人は批判的思考を持つべきだという話は本当に大切だと思いました。また、グローバル化によってナショナリズムが広まったなら、逆にグローバル化によって共通点を見つけて地球市民の自覚を広げていけると感じました。

【開発：持続可能な開発を目指して】

2015 年 9 月 8 日(火)、15 日(火)、29 日(火)

講師：創価大学経済学部 西浦昭雄 教授（本校 11 期卒業生）

8 日の第 1 回目。この連続講義の目標を「開発と環境のジレンマについて説明することができる」「世界市民の一人として、自らの意見を紹介することができる」と掲げてスタート。自己紹介をかねてアフリカ留学時のエピソードを写真を交えて具体的な様子を話してくださった。

その後、「開発と環境のどちらを優先するかと聞かれたら何と答えますか？」との問いを發して、まずは個人で考えをまとめたあと、前後左右の生徒と内容を話し合うことで、お互いの考えを深める時間もつくってくださった。



15 日の第 2 回目は、創価大学と回線をつないでの遠隔授業。初めにビデオ「静かなる革命」を皆で視聴し、「今見たビデオについて、周りと話し合ってごらん」など、意見をシェアするアクティブラーニングを展開。また、世界と自分の日常生活がどうつながっているかという往還作業の重要性を通して、一人一人が何をできるかを考えていこうと呼びかけられた。

29 日の最終日は、本校が SGH でテーマとして掲げている「環境」「開発」「平和」「人権」の 4 分野についての関連性や起きている問題を具体的にあげ、その問題に対して「自分ができること」をグループでディスカッションし、考える 1 時間となった。

1～3 年生が混ざるようにとの指示にその場でさっとグループを作成。他学年の生徒の意見に新たな発見や共感が生まれ、考えが深まった。

西浦教授の「今いる環境の中でベストを尽くせば、必ず道が拓ける」との言葉に勇気をもらい、これからも頑張っていこうと生徒は決意を新たにしていた。



＜生徒の感想＞

- ・ごみの中で生活していたり、教育や医療を十分に受けられない子どもがたくさんいる中、私たちにできることは何か考えたいと思います
- ・ビデオでマータイ博士が「形に気を取られ、どこでも貢献できることを忘れていたのが心に残りました。小さな行動で実感が得られないと嘆くより、実感が得られるまでそのアクションを続け、仲間を増やすことが大切だとわかりました。
- ・「グローバルな行動なんて私にできるわけがない」と思っていたのですが、小さくても行動して、周りに連帯をつくっていくことが重要だとわかりました。

【開発：貧困を克服するために！行動が世界を変える！】

2015 年 10 月 6 日(火)、10 日(土)

講師：(株) GOODEARTH 藤原宏亘 代表（本校 24 期卒業生）

藤原さんは本校の卒業生で、主にアフリカで氷を販売する仕事や、学校を開校し、女性に教育を行う活動をされている方である。昨年度も来校し生徒たちに講演をしてくださった。



6 日は事前学習として、藤原さんがどんな事業を展開されているのかをグループ体制で調べ学習を行った。そして、10 日に来校されたときにぶつけたい質問を皆で考えた。

「なぜ女性だけの学校をつくったのですか？」「製氷以外に、アフリカの環境をよりよくする事業は何が考えられますか？」など、皆真剣に取り組んだ。

10 日は、午前中に講堂でグローバルシチズンシップセミナーと題して 1 年生全員を対象に講演を行っていただき、午後には UP として改めて講義をしてくださった。午前中に話を聞いた数多くの 1 年生が午後にも参加するなど、向学心に燃える生徒たちが集まった。



スライドや動画を使って分かりやすく活動内容を紹介していただき、後半は生徒たちの質問を聞く時間を確保してくださった。

ある生徒からの「これから挑戦したいと思っていることは？」との質問に対して、「『したい』というより『する』と決めていることなんです」と前置きをされて、「今後 10 年間で西アフリカすべての国に学校をつくります」と宣言されていた。また、「社会問題を解決するビジネスとは？」との質問には、「本来、ビジネスとは社会問題を解決するためにある。今の社会がおかしい」と現代社会の矛盾を突く回答でした。世界平和のためにひた走る先輩の決意に皆が、大感動の時間となった。

＜生徒の感想＞

- ・アフリカが抱えている問題の原因は自分たちにあるとのお話にびっくりし、自分たちの豊かさに気づきました。
- ・今、まず自分の心、知識を広げ、視野を広げていきたいです。

【平和：Peacebuilding and Global Citizenship】

2015 年 10 月 20 日(火)、27 日(火)

講師：戸田国際平和研究所 オリビエ・ウルバン 所長

20 日の第 1 回目は、インターネットを使ったサテライト講座。前日に北アイルランドから来日されたばかりのウルバン博士でしたが、とてもお元気でユーモアを交えながらお話をしてくださった。



本校の創立者でもある池田 S G I 会長が毎年発表している平和提言のうち、1983 年～2009 年の 27 回を通して多く出てくる大きなテーマとして「内なる変革」「対話」「地球市民」の 3 つを示して、これから地球市民となっていくために大切なことを教えてくださった。また、具体的提言として「核廃絶」「国連改革」「環境問題」が最も多く触れられていることを通して、地球的問題群へのアプローチについて語ってくださった。



27 日の第 2 回目は、ラーニングクラスターの生徒とのパネルディスカッション形式で、大変熱のこもった授業を展開してくださった。

冒頭、「人生において人に影響を与えるのは『講義』か、『人間性』か？」との問いかけに、ラーニングクラスターの生徒や、聴衆の生徒からも様々な意見が飛び出すなど、終始活発なディスカッションとなりました。また、クリティカルシンキングと行動主義を同時に

進めていくことが大事だと、教えていただいた。

＜生徒の感想＞

- 平和な世界を築くには「一人一人を大切にする」ということが一番大切だと感じました。ウルバン先生もお話のときにしっかり目を見て話されたり、意見を出した人に対しての声かけをされていたり、先生が実際に実行されているのを見て、その大切さを実感しました。
- 私は人に暴力をふるったりはしないけど、その反対に一人一人を本当に大切にできているのか？と疑問に思いました。目の前の相手を本当に大切にできる人になろうと思いました。
- グローバル課題というと、どうしても世界で起こっている遠いイメージがありました。しかし、ウルバン先生が言われていたように国連だけが平和を進めていくのではなくて、一人一人が問題意識をもって解決していかなければならないということを、常に心がけていこうと決意しました。

【環境：熱帯林の植林地は地球温暖化を守れる？】

2015 年 11 月 10 日(火)

講師：京都大学大学院農学研究科 森大喜 研究員

京都大学主催の「学びコーディネーター事業」の一環で、高校に講師を派遣していただく「出前授業」として開催し、大学院農学研究科地域環境科学専攻の森博士が来てくださった。



地球温暖化への対策として、まず思いつく植林についての話から始まった。実際に、ご自身が研究しておられるインドネシアの熱帯林ではマメ科の植物を植林するが、実は逆に温室効果ガスが増加した、との衝撃的な事実を紹介され、生徒たちも皆驚きの表情であった。

その原因として、「窒素固定」と「リン」の話を通して、メカニズムを分かりやすく説明してくださった。

また、ご自身の研究の方法、内容についてうまくいったこと、うまくいかなかったことを具体的なエピソードを通して話してくださるなど、理系の研究職を目指す生徒にとって、とても触発に富む講義となった。



＜生徒の感想＞

- ・植林についてあまり知識はなく、「良いものだ」と思い込んでいたので、今回の「地球温暖化を促進してしまうこともあり得る」という問題点はすごく興味深かったです。それを防ぐための調査やプロセスなど、とても分かりやすく説明してくださったので楽しかったです。植林について、もっと知りたいと思うことができました。
- ・普段学校で受けている授業よりハイレベルな内容の授業を受けることができ、とても楽しかったです。農学部のイメージが農業のことしかやらないイメージだったので、環境についても学べるということに驚きました。
- ・私は文系志望なのですが、理系にしようかと考えたほどの講義でした。
- ・1 つの実験がダメでも、次から次へと可能性を信じて実験をし、真実を求めていくって、苦しいけどワクワクするなって感じました。

【統計学：数字を武器に世界で戦う！】

2015 年 12 月 15 日(火)、16 日(水)、17 日(木)

講師：南カリフォルニア大学 藤井大輔 博士（本校 28 期卒業生）

年度末の特別UPとして、3 日連続講座として開講した。

15 日の第 1 回目、冒頭、統計学が「データ(数字)から何らかの関係性や法則を見つける技術」であり、あらゆる分野で使われるととても有用な道具であることを教えてくださった。さらに、モンティホール問題をクイズ形式で紹介してくださるなど、確率の有名問題を紹介しつつ、統計の土台となる確率を身近に感じるお話となった。



16 日の第 2 回目は、高校数学で学習するレベルの統計学の確認から始まり、具体例を通しながら、分布の読み方を教えてくださった。難解な計算等を使わずにエピソードを交えながらの講義に数学が苦手な生徒も楽しく理解することができた。

17 日の最終日は藤井博士の専門である「経済学」をテーマに講義。経済学とは、お金儲けのための学問ではなく、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する」学問であるとの説明から始まった。

「相撲に八百長はあるか？」を研究しているアメリカの統計学者の話を紹介されるなど、生徒たちの興味を引く話題も交えながらの分かりやすい講義であった。

また、ノーベル賞を受賞した経済学者の研究内容も分かりやすく教えてくださり、世界の発展、開発のためには経済が必ず必要になるということも学ぶことができた。

また、ご自身の経歴でもあるハーバード大学やシカゴ大学の違いなども教えてくださり、海外の大学への興味を深めた生徒の多くいた。

＜生徒の感想＞

- ・世界をよりよくしていくにはまず経済なのだと思います。
- ・経済学を学ぶ事で、視野が広がることをわかりました。問題が起きた時に両者の立場で考えることが大切だけど、そうなると対策が難しくなるなど、非常に興味深く考えることができました。

【開発：コソボと国連開発計画+α】

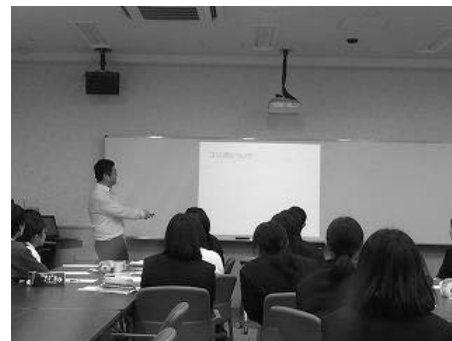
2016 年 1 月 8 日(金)

講師：国連開発計画 富永文彦 氏（本校 29 期卒業生）

新春特別 UP として始業式の放課後に開催しました。

冒頭、「日本 172 コソボ 38」という 2 つの数字を紹介し、これが何の数字かを生徒たちに呼びかけられた。さまざまな声が出る中、これが「ビザなしで行ける国の数」であることを紹介。これが国際的な信用度と関連があることに触れ、さらにコソボがどういう国なのかを教えていただいた。

また、ご自身の経歴と経験を通して、国連職員として働くためのキャリアについて具体的にお話くださった。生徒からも多くの質問があり、大変活発な講義になった。



＜生徒の感想＞

- ・進路で悩んでいたけど、自分の考えが広がった。
- ・お話であった“今できること”を実践していきたい。
- ・『自分の横にいる友人・家族を穏やかにしていくことが平和につながる』との言葉を頑張ってみたい

また、授業を受けての質問をすぐにコピーしてお渡しすると、帰りの新幹線の中から返事のメールを送ってくださり、受け取った生徒たちは大感動であった。その 1 つを掲載する。

Q. 国連で働くためには法律的なことは必要か？

A. 国連では様々な仕事があるため、法律の勉強が必要になる仕事もあります。国連の一部である、国際司法裁判所（International Court of Justice）は国連の常設の司法機関で、国家間の法律的紛争を裁判・意見を通じて解決を図る機関です。ここで働いている人は、裁判官をはじめ、多くの人が法律的なバックグラウンドを持った人が多いと思います。また、知的財産権に関する事柄を扱う、世界知的所有権機関（World Intellectual Property Organisation: WIPO）という国連機関がありますが、ここも仕事が知的財産権についてなので、弁護士などのバックグラウンドを持った人を積極的に採用します。これ以外でも、国連の組織には大抵法務部（Legal Affairs Department）のような部署があり、こういう部署で働くには法律の知識があったほうが有利になると思います。

【平和：「軍縮・開発・平和」を考える】

2016年1月12日(火)、19日(火)、26日(火)

講師：創価大学平和問題研究所 石井秀明 教授

第1回目、2回目は創価大学と中継を結んで実施。26日は来校していただき直接講義をしていた。

12日の第1回目は、さまざまなデータを使って、世界の現状を具体的に確認し、グラフから読み取れることなどを確認した。また、アマルティア・セン博士の考え方を通して、「貧困は所得の低さというよりも、潜在能力が奪われた状態」であり、潜在能力の拡大こそが開発の目的であり、それは自由の拡大を意味する、と教えてくださった。



19日の第2回目は、軍縮についての講義を行ってくださった。「世界の軍事費の1%を毎年減らしていけば、すべての子どもに初等教育を受けさせることができる」とのデータに一様に生徒は驚いていた。



26日の最終回は、「軍縮」「開発」「平和」をリンクさせ、良い循環をさせる社会が必要であり、「皆が勝者の世界」を創るためにはどうすればよいかを考えていってほしい、と念願。世界の問題を看過することなく、自分の問題とし、学園の信条である「他人の不幸の上に自らの幸福を築くことはしない」をどのように社会で生かしていくかお互い考えていってほしい、そして、「どこかで不幸があるかぎり、私は幸せではない」と考え、世界中すべてにこの信条を浸透させるために、どう行動

すればよいかを考えていってほしい、と期待を寄せてくださった。また、「他者が喜ぶことは自分が輝くこと」だから、「親孝行が大切」ということも教えてくださった。

＜生徒の感想＞

- ・『難民』が『難民』である責任は私たちにあると聞いたとき、本当に他人事ではないと思いました。「数字で見ると、ざっくりしているデータも、そこに1人1人の命があると考えると何とかしないといけないと思いました。
- ・自分だけの世界から、ちょっと周りを見て上を向くとまだまだ知らない世界が広がっていると感じました。
- ・「もっと学びに学んで、人間としての実力をつけていく決意をしました。「何のために学ぶのか」の目的を自分の中ではっきりと持つことができました。

【開発：バナナを通して見える世界】

2016 年 2 月 2 日 (火)

講師：(株)タナカバナナ 登和麻 相談役

持参してくださったバナナの種類は 12 種類。それも、日本に届く前の青い状態のものと、日本の店頭にならぶ黄色く熟したものを両方持ってきてくださり、実物を見せながらの講義となった。初めて見るバナナも多く、生徒たちも興味津々であった。

バナナの栽培から収穫までを紹介してくださり、バナナの有機栽培への挑戦について説明してくださった。



また、同行されたご息女の登幸代さん（本校 26 期卒業生）から、フェアトレードの仕組みについて詳しい説明を聞くこともできた。

終了後は、バナナを試食させていただき、生徒たちも大喜び。生食用でない、調理用のバナナの味を体験する人もいて、さらに多くの質問が出るなど、とても有意義なひとときとなった。



＜生徒の感想＞

- ・『バナナ』という一つの果物を見るだけで、世界の様々な問題を知ることができて面白かったです。バナナからこんなに世界や歴史を学ぶことができるなんて驚きました。
- ・バナナにもフェアトレードが関係していることを今日知りました。私たちは消費する側ですが、生産して下さっている農家の方々のこともこれから考えていきたいと思いました。

【人権：現代社会における国際協力・貢献 ～AMD Aの活動を通して～】

2016年2月23日(火)

講師：認定特定非営利活動法人アムダ 竹谷和子 氏

ネパール、バングラデシュなどでのボランティア活動の経験を通して医療と教育の大切さを痛感したことから現在の活動をされた、というご自身のお話から始まり、AMD Aの活動の紹介をしてくださった。



バングラデシュの貧困については「援助を受ける側にもプライドがある」ことを確認した上で、平和のプロセスは「相手のことを知る→相手のことをみとめる→思いやる」こと、海外支援・ボランティアに大切なことは「興味・関心をもつ→考える→行動する→続ける」ということだと教えていただいた。



すぐできる行動として、「あなたに関心をもっているということをしめすためのあいさつ、忘れていないということを伝えるために名前を呼ぼう、必要としていることを伝えるありがたい言葉」があるということを示してくださった。

終了後に生徒代表が御礼のあいさつを行い、講師の竹谷さんも感動しておられた。

＜生徒の感想＞

- ・国際協力というものについて、よく考えるきっかけになりました。相手を知る、つまり世界を知ることから、ニュースを見えます。
- ・平和ってなんだと思う？と聞かれ、考える機会がありましたが、今日教えていただいた「今日の家族の生活と、明日の家族の生活が実現できる状況」が平和であるという定義に感動しました。

◆年度末アンケートより◆

3月、全校生徒を対象にアンケートを実施。859名から回答を得ました。

<1年間の参加状況>

10回以上参加した生徒は40名で全体の5%弱。逆に一度も参加したことがない生徒は全体の7割を超えました。1年生の参加率が高く、10回以上が21名、1回以上参加したことがあるという生徒も全体の4割いました。

<好評なプログラム>

どの講座も大好評でしたが、その中でもとくに印象に残ったものを回答してもらいました。

一番人気はアメリカ創価大学のハブキ学長、続いてオタゴ大学のケビン・クレメンツ博士、その次がアメリカ創価大学のマイケル・ウィーナー教授、と海外大学の講師が特に好評でした。

さらに、(株)GOODEARTHの藤原代表や南カリフォルニア大学の藤井博士のように、本校卒業生の講座も親近感が高いためか好評でした。

<寄せられた要望・意見> () 内の※は不参加生徒からの要望

◎分野、講師について◎

- ・4分野だけでなく、教育や他の分野の話も聞いてみたいです。(1年女子、他多数)
- ・4分野以外の要望は他にも、芸術系、インタビュアー、生物学、音楽系、有名人、スポーツ関係、宇宙飛行士、クリエイター、医療関係、等
- ・環境の分野をもう少し増やしてほしい(1年男子、他)
- ・もっとすごい人が来てほしい。ゴルバチョフさんとか(1年男子)
- ・ボランティア活動などの方、また紛争解決の方の話を聞きたいです。あと経済学(1年女子)
- ・いろんな卒業生のお話を聞きたいです(2年女子)
- ・理系を増やしてほしい(2年男子)
- ・WPIの大学・研究機関の先生に来てほしいです!(2年女子)
- ・NGO、NPOなど実際にアクションを起こし、現場に出向いている人の話をもっと聞きたい(3年女子)
- ・いろんな分野に幅を広げ過ぎだから、もっと行きやすい話題に焦点を置いてほしいと思います(3年女子)
- ・来年もハブキ学長に来ていただきたいです。話が上手な方を呼んでください。話が上手でないと、内容が良くても眠くなってしまいます(2年女子)

◎時間帯について◎

- ・時間を固定してほしい(1年男子)
- ・もっと多くの人が気軽に参加できるように時間帯などの工夫をしてほしい(1年女子、他)

- ・もっと参加者を増やすべき。土曜日にやるとか。放課後にするとクラブとか活動があって少なくなるので、来ていただいた先生に申し訳ないです（１年女子）
- ・部活が忙しくても行けるようにしてほしいです（１年女子※、他多数）
- ・いろんなほかの行事やリーダー育成講座とかぶってるときがあったから、それを調整してほしい。あと、テスト前はやめてほしい（１年女子、他）
- ・部活の中で行けないときがあったから対策をお願いします（２年男子）
- ・テスト期間にはテスト勉強に集中したいので、違う日程で開催していただきたいです。毎回、集合時刻ギリギリにメンバーがそろって慌ただしく講義がスタートしている気がします。したがって、生徒の集合時刻を１５：４５などに設定し、各担任にも協力していただくとＵＰに行きやすい環境になると思います。ＬＣのメンバーも参加できるように、ＬＣとの時間も調整してほしいです（２年女子）
- ・テスト１０日前に入ってから、せっかくＵＰをしてくださっても、行きたいけど勉強しないといけないという子もいると思いました（２年女子）
- ・放課後に希望制の参加じゃなくて、全校集会でこういうことをやってほしい。参加したくてもできない人のことも考えてほしい（２年女子※、他）
- ・放課後じゃなくてみんながいける時間（ＧＲＩＴとか）にやってほしい（２年女子、他）
- ・いろんな行事と時間がかぶって、行きたいＡＭＤＡのやつにいけなかった（３年女子）

◎事前、事後の取り組みについて◎

- ・行きたかったけど、どうしても行けない講座があったのですが、そういうときにどんなお話だったか少し教えてもらえるシステムがあったらうれしいです。（１年女子、他）
- ・ＨＲのときの紹介が分かりにくい。もう少し内容をイメージしやすく教えてほしい（１年男子）
- ・ＵＰの通信紙をつくってもいいと思う（１年男子※）
- ・来年は５回くらい受講しようと思います。内容・教える項目を先に教えていただけると嬉しいです（１年男子※）
- ・ＵＰクラスに通う人たちで研究発表をつくるべき（２年男子）
- ・どんなことを話されたのか、行くことができなかった人へ何らかの形で伝えてほしいです（３年女子※）
- ・興味のある内容に参加したいから、大々的に詳細を宣伝してほしいです（３年女子）
- ・録画を誰でもＩＤとパスワードを入力したら見られるようなシステムをオンラインでつくって、忙しくても家などで学べる機会を提供すべきだと思います（３年男子）
- ・すばらしいプログラムだと思います。もっともっと伝えるように宣伝をしてほしい（３年女子）
- ・連絡を強化したら、もっと人数が集まると思います（３年男子※）
- ・来る人についての資料を前もって配ってほしい（２年男子）

◎参加対象について◎

- ・ 学園生全員に対してのUPを数回設けたらよいかと思います。
- ・ UPを全員参加型にしてほしいです（2年女子※）
- ・ なぜだか行くのに抵抗がある。軽く選択めいた強制参加もあっていいと思う（2年女子）
- ・ 途中参加もOKですね？（2年男子※）
- ・ UP絶対優先じゃなくしてください。クラブで大会前だったり役職がある人でもいけるときに行きたいです（3年男子）
- ・ 自由参加制がいい気がします。行きやすいので（3年女子）
- ・ UPは絶対参加という感じだったのに、結局行かんで良かったの？しかも他の人も参加できたの？と思いました（3年女子）

◎その他◎

- ・ フィールドワークがあっても楽しく学べると思います。（1年女子）
- ・ 眠くならないようにしてほしい（1年男子）
- ・ 会場が暑すぎる（1年男子）
- ・ 話を一方的に聞いただけなのが、ちょっと辛かった（1年男子）
- ・ もう少し私たちの興味を引くような授業を聞きたいなと思いました（1年女子、他）
- ・ このまま続けてください（1年男子、他多数）
- ・ まだ1回も行ったことがないのですが、興味があるので来年度のUPは行ってみたいと思います（1年女子※）
- ・ 席を増やしてほしい（1年女子※）
- ・ ディスカッションの機会を増やしてほしい（2年男子、他）
- ・ 人が多すぎて参加しにくかった（2年男子※）
- ・ かたい内容はイヤ！！（2年男子※）
- ・ これからも後輩たちのために、たくさんの学ぶ機会を創ってあげてください（3年男子）

貴重な要望・意見を数多く頂いたので、参考にしながら来年度以降、よりよいものにしていきたいと思います！

Active Learning（アクティブ ラーニング）実践報告

「平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書」〈3 研究開発の概要〉には、「Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む取り組みを高大連携して行う。」と謳っている。具体的には、〈高大連携で授業改善 — 友と協力し自ら学ぶ Active Learning〉を強力に展開することを目指し、本年度は取り組んだ。

以下、Active Learning 導入に関わる本年度の取り組みを記す。

1. Active Learning 研修

本校のSGHアドバイザーでもある創価大学教育学部 関田一彦教授より、Active Learning に関わる情報提供やアドバイスをいただいた。

実施日 2015年7月24日（金）

会場 本校 展開教室A

参加者 本校 全教員

内容 第1部 Active Learning が求められる背景

第2部 ワークショップ 協同学習の基礎技法と Active Learning 志向の授業設計

2. SGH委員会集中討議における「評価」に関するアドバイス

SGH委員会の夏の集中討議に、関田教授をお迎えし、SGH委員と懇談をしていただいた。その際、本校が実施している「授業評価」の項目にふれ、教師主導の授業形態から生徒主体の授業への転換が急務であるとの指摘とともに、評価方法も「ループリック」等の新たな評価方法を導入すべきであると貴重なアドバイスをいただいた。

実施日 2015年8月18日（火）

会場 本校 会議室A

参加者 SGH委員会

内容 一斉授業あるいは教師主導の授業が中心なのがよくわかる。伝統的な「教えてやろう」から「学んでもらおう」という授業観の転換が必要。

授業評価で改善項目が明らかになった際、その対処方法を用意しておかないと、授業改善は進まない。結果を共有し、改善に向けた話し合いの機会を設けること。授業評価をいかに活用するのか、教員集団としての合意形成が大切との指摘を受ける。

3. 関田教授の授業参観

平常の授業に関田教授をお迎えし、授業参観をしていただいた。特に Active Learning を実践している授業を見ていただき、アドバイスをいただいた。

実施日 2016年2月5日（金）

会場 本校 各教室

内容 2年生 世界史の授業（担当 大井宣弘教諭）に対するアドバイス

とてもセンスの良い授業づくりをしている。

Active Learning によって、通常の授業では見えにくい生徒たちの様々な能力や才能が見えてきているようだ。評価の難しさに悩まれることは、次のステージへ授業者が進みつつあるということ。生徒の成長を励ます評価について考えてみることだ。

質疑応答の時間では、深い学びを促す問いかけをしている。次の段階は生徒たちが自分たちで（相互に）問い合えるようになるだろう。よい問いが立てば、良い学びが進む。まずは良い問いの見本を示すところから。

調べ学習の目的は何か。どのような学習成果を期待しているか。生徒たちが自覚して目指す目標（ゴール）を明確にすることが大事だ。

4. 各教員による Active Learning 実践報告

【授業者】大井 宣弘 【対象学年】2年文系 【科目】世界史

◇実践内容

まず、「調べ学習」を行う。生徒に指示を出し、iPad等のICT機器を使って授業に関する情報を収集させる。「調べ学習」をすることで、生徒が主体者として授業に取り組めるようになり、その結果、教師はサポート役に回ることができるようになった。

次に「ディスカッション」を行う。生徒が説明側にまわることで理解が深まる。説明ができないところや、疑問点が出てくることで、「質疑応答・解説」が充実する。また、生徒が説明側に回することで、さらに真剣に「調べ学習」に取り組む姿勢になる。「ディスカッション」ではジグソー法を導入。先に説明を「聞いていた」生徒が、次に「説明する」側にまわることで、さらに学びが深まる。

最後は、「質疑応答・解説」「プリント」の穴埋めに移る。

教科書に載っていることを暗記するだけの世界史から、「何故そうなったのか?」と考える世界史へ、さらに世界史を学ぶことで、自分の人生やこれからの世界のことを考えるきっかけにして欲しいと思い、実践している。

◇Active Learning 導入の効果

よく世界史に食いついてくれるようになった。試験前の勉強も世界史に力をいれてくれ、定期テストの点数も大幅にアップした。

◇その他（課題）

生徒の頑張りを、定期考査でしか評価できていない。

「ディスカッション」「調べ学習」などでの活動で、それぞれの分野でがんばっている生徒を評価してあげたい。今後は、評価方法をさらに研究し、ルーブリック評価などを導入していきたい。

【授業者】池田 勝利 【対象学年】2年文・理・受文・受理 【科目】物理基礎・物理

◇実践内容

初見の課題に対し、「Think Pair Share」法や「Buzz Groups」法を用いて議論を促した。

◇Active Learning 導入の効果

授業内で質問がよく出るようになった。

【授業者】森田 尚子 【対象学年】2年 【科目】家庭基礎

◇実践内容

家庭科授業の内容が「地球と共に生きる」というテーマ。

地球家族として生きる私たちであるとの観点から、常に「持続可能な社会の実現」を目指すことを目標にして、身のまわりの出来事に対し、よりよい方向にいくように探求していく学習に取り組んだ。

- ・毎時間、ペア読み（3分以内の音読、速読などペアを替える）
- ・3分以内の資料速読読み、感想意見交換（関連新聞記事など、できるだけ最新で話題になっているもの。新聞を中心に活用して行った。）

<1 学期>

【開発・環境・平和】

- ・「地球と共に生きる」グループ（4～6人）活動

- ①深刻化する環境問題と地球のよいところの現状分析→付箋によるグルーピング
- ②一人一人が地球大使として、地球の紹介1分間スピーチ

【人権】

- ・「自立して生きる」

- ①少子高齢化の現状を学習し、自分の人生設計を考える。
 - ②平均初婚年齢が30歳前後である現実を学習し、「結婚」に関する意見交換を通して、ライフコースの意志決定の判断をディベートする。
グループ活動（3人×3グループ活動）
- ・論題「30歳までに結婚すべきである。是か。非か。」

- ・「楽しく安全に食べる」実習 グループ（5～6人）活動

四條畷保健所の栄養士さんの特別授業

- ①「野菜たっぷりみそ汁セミナー実習」
グループ討議して献立作成→代表アピールスピーチ
8班体制の実習→野菜たっぷり具たくさんのみそ汁コンテスト（試食・投票）
- ②「No ベジ・No ライフ！セミナー」
 - ・野菜の大切な働きを学び、野菜をできるだけ取り入れる食生活改善計画
ペア確認、3ヶ月実践→体脂肪変化トーク

<2 学期>

【環境・開発】

- ・「楽しく安全に食べる」実習 グループ（5～6人）活動

- ③「どれだけの栄養が必要？」おやつの調理実習
栄養計算の仕方を学び、グループでエネルギー計算など確認
- ④「日本の食の課題とは？」グループ（4～6人）活動

- ・持続可能な食生活を創るために、グループトーク
食糧自給率の低下にも関わらず、食品ロスのあまりにも多い現状を通し、日常生活の食のあり方を見直す。
- ・「全飲食店でのドギーバック設置。是か。非か。」
「食の安全性」やTPPについては、ペアトーク

【人権】

- ・「多様化した社会を生きる」グループ（3人×3グループ）活動
人々の生き方が変化してきている現状で、多様な生き方を考える。
家族をめぐる法律について学び、婚姻届の国会で話題になっている「選択的夫婦別姓」についてディベートをする。
ディベート形式での討議は1学期に実施し、またグループ活動もスムーズになってきたので、今回は全体運営（司会、タイマー、掲示など）を審判グループに任せて実施。
討議がより深まるように、1試合でのタイムスケジュールを1学期より長くした。

論題「日本は、選択的夫婦別姓を合法化すべきである。是か。非か。」

ちょうど国会でも話題になっており、裁判継続中で最高裁判決が12月という最中での各クラスでの討議は白熱した。各クラス判定は、肯定・否定同数。ディベート甲子園の判定基準は、メリットがデメリットを上回らないということで現状維持の否定側勝利となる。→12月最高裁判所判決は、「選択的夫婦別姓」否決だった。

<3 学期>

【環境・人権】

- ・「私たちをとりまく消費社会はどうなっている？」グループ（5人×2グループ）活動
「私が持ちたい携帯電話」「私が大学で住みたい住まい」についてリサーチ。比較して、なぜ選んだのかを重要度3点にしばり、掲示物を使っての伝える3分間スピーチ。
- ・環境に配慮した住まい方や家族だけでなくいろいろな人と暮らす生き方などペアトーク。
- ・「防災」「防犯」を意識した暮らしや生き方について学ぶ。ペアトーク。
- ・災害用非常食の試食体験グループ活動
- ・「支え合って生きる」
生命保険文化センターからの講師による実学講座（2学期と3学期で計2回実施）
ライフステージにおける経済計画やリスク管理について学ぶ。ペアトーク

◇Active Learning 導入の効果

家庭科は、実習・実技を含む教科であり、グループ活動は以前より実施している。

話し合いや発表などは、生徒達は積極的に取り組む。1クラス48人の指導面やまとめの分析など教員一人では細かくは掌握できにくいところがあるので、評価をいかにするかは今後の課題になる。

実習・実技に関しては、生徒達は大変喜んでいる。しかし、安全・衛生面や個人的生活能力の差が

あるので、教員一人で担当するのは難しいところがある。その分、準備や後片付けなど時間を要している。

◇その他（課題）

Active Learning の更なる充実のためにも、安全第一に進むためにも、ティームティーチングなど複数で授業を見る体制が必要。

【授業者】小西弘子 【対象学年】3年文系 【科目】化学

◇実践内容

有機化学の分野で「油脂の文理と液体石けんの生成」の実験を行った。

スナック菓子（うまい棒）から油脂を抽出し、その油脂を使って液体石けんを作り、泡立ちを観察する実験

◇実験の結果より

普段、食べているスナック菓子には意外と油脂が多く含まれている（菓子の質量の1/3）ことに、皆、驚いていた。

【授業者】落合 聡 【対象学年】3年 文系 【科目】日本史

◇実践内容

夏休み中に各自が原稿用紙4枚分の社会科（地理・歴史・政経・倫理）に関するテーマの弁論主張文を書いてきて、担当教員が原稿審査で7～8本を選考し、クラス弁論大会を1時間で行った。発表者以外は、全員審査員となって、クラスの優勝者等を決めた。

◇Active Learning 導入の効果

日頃、身近に接している友人が、実に多彩な深い思索をしていることに気づき、様々な啓発がなされた。

【授業者】大月 昇

◇実践内容

【対象学年】2年 文系 【科目】現代文演習

グローバル化によって外国の人に接する機会が多くなる。その際に、外国の人が初めて接する日本の文化をどのように説明、また紹介するかをテーマにグループ討議を行った。

授業の導入として、生徒各人が考えている「グローバル化」とはどのような現象か、思いついたものから白板に書いてゆき、解説を加えながらテーマを共有した。

次に二人組になり、外国の人が初めて見る日本の道具をいかに解説するかという場面設定をして、互いに話をさせた。

最後に5～6人のグループになって、外国の人に紹介したい日本の文化を考えさせ、全体で互いに発表し合った。

【対象学年】2年 理系 【科目】現代文B

現代の科学をめぐる社会問題を論じた評論を扱う中で、原子力発電所の問題やその是非等をグループで討議させ、話し合った内容を白板に記させた。

◇Active Learning 導入の効果

受け身の授業から、積極的に参加する授業への転換が見られ、手応えを感じた。

【授業者】貴志 福太 【対象学年】3年 文・理系 【科目】古典B

◇実践内容

鎌倉時代の作品からひとまとまりを抜粋し、自力で現代語訳・解釈。レジメプリントを作成し、10分程度でプレゼンテーションをする。質疑応答の後、生徒間で評価をする。

【授業者】小山 弘 【対象学年】3年 文・理系 【科目】古典B

◇実践内容

【対象学年】1年 【科目】体育

ラグビーの授業で戦術をいくつか教えた後、チームを決めてリーダー中心に作戦を立てさせ、ゲームを行った。

【対象学年】1年 【科目】保健

班を作り、「薬物」の勧誘の場面という設定で、生徒同士で役割を決めて疑似体験した。

◇Active Learning 導入の効果

受け身でなく自発的な行動や発言が増えた。次の授業や今回の授業に関するサイトなどを教えると自主的に興味を持って学習する生徒が現れた。

【授業者】堀 光則 【対象学年】1年・3年 文系 【科目】数学

◇実践内容

授業の冒頭で、前回の授業内容を隣同士で説明するペアワークを行った。

授業後半では、20分～30分程度、問題演習の時間を作り、そこで学び合いを行うようにした。

◇Active Learning 導入の効果

授業冒頭のペアワークを行うことで、前回の内容の復習が短時間で効果的にできるようになった。そのため、スムーズに授業に入れるようになった。

問題演習の時間では、時間内に問題が解けるようになり、達成感が得られた。

【授業者】加藤 健 【対象学年】2年 文系 【科目】数学Ⅱ

◇実践内容

授業の前半でその時間の目標や必須事項を説明。後半はグループ学習に移行。

◇Active Learning 導入の効果

進度が速まった。一人ひとりの個性がよく見えるようになった。生徒間、生徒教師間で親しい会話ができるようになった。学力もアップした。

【授業者】上田 幸太 【対象学年】1年 【科目】生物基礎

◇実践内容

①環境問題に関するディスカッション：iPadで調べながら取り組みについて説明（発表）。

②校内フィールドワーク：校内に生育する樹木から課題で指定されたものを探して来る（iPadで写真を撮る）。

③授業内容を説明する動画の作成：劇や紙芝居などを通して説明する。動画を作成する上で、全員が理解する必要があるため、自然と教え合いが生まれる。

④各種実験

◇Active Learning 導入の効果

何より生徒が生き活きと活動していることが大きな効果である。

楽しみながら、活用しながら学習することで頭に入りやすかったというアンケート結果もあった。

他者との協同作業を通しての交流や一つの作品を作り上げる達成感、スキルも同時に学べた。

◇その他（課題）

講義型の授業よりも負担が多くなる分、活動的でない生徒や効率を求める生徒には不評だった。

I C Tを併用しての授業だが、iPad の管理・使用に関する教員の負担が大きい。

【授業者】中井 加代子 【対象学年】1年 【科目】Communication English I A

◇実践内容

グループで英文を作ったり、問題を解く。

ペアで音読。

一つのテーマに関して、ペアで英会話。教室内を回ってペアを見つける。

自分の興味のある国について調べ、ポスターを作る。

ペアで自由にテーマを決め、与えられた時間で会話をする。

クラス全員の前で発言する。（インタビューテスト）

◇Active Learning 導入の効果

英語が苦手な生徒もグループやペアで助け合って課題に取り組めるようになった。

【授業者】岡村 恵子 【対象学年】2年文系・理系 【科目】保健

◇実践内容

調べ学習（グループ学習）

世界の健康問題、保健活動の現状、課題について。

（大陸ごとにグループを分け、地域や国を絞って調べる。）

◇Active Learning 導入の効果

各地での問題に目を向けることができ、生徒からはよい感想が多く寄せられた。

関西創価SGHにおけるNIEの取り組み

■NIEの必要性

本校は、「他人の不幸の上に自身の幸福を築くことはしない」との教育哲学に則り、生命尊厳の教育を実践している。学校行事や各クラスでの道德教育を通して生徒にも生命尊厳の哲学は浸透していると感じる一方で、学んだ思想哲学を現実世界で起きている諸問題にどのように結び付けられるかが大きな課題の一つであると感じていた。2015年度からは文部科学省認定「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」として、世界平和に寄与するグローバル人材の育成を目指して新たな挑戦も開始している。これを契機に、世界で起きている物事に問題意識を持ち、生命尊厳の哲学に基づいて解決の方途を探るグローバルリーダーを育成する教育活動を確立していきたいと考えた。

■取り組みの概要

（１） 常時活動としてのNIE

SGHが目指すグローバルリーダー育成のためには、日常的な活動を通して土台を形成することが重要である。こうした観点から、毎日取り組めるNIE活動を検討し、全クラスにおける「NIEノート」の取り組みを実施してきた。

（２） 旅行・集団宿泊的行事におけるNIE

本校では2学年の6月に、創価大学への研修旅行が行われている。従来は、大学側が準備した授業を受講する形であったが、今年度はSGHとして重点テーマに掲げている「環境・開発・人権・平和」の4分野について、事前に調べ学習を行い、教授・大学院生らに研究発表を行う形態とした。一人ひとりが主体的に取り組めるよう、少人数グループをつくり、すべてのグループが新聞記事や文献をもとにして研究発表を行った。

（３） 文化的行事におけるNIE

本校では創立記念日である11月18日を「英知の日」とし、英知の日に向けてさまざまな学習会や英語暗唱・弁論大会、群読コンテストなどのコンクールを開催している。今年度は終戦70周年の節目であることから、平和をテーマに新聞記事を用いて学習会を進めることとした。

■実践内容

（１） 全クラスにおけるNIEノートの取り組み

今年度4月からは全クラスで毎日のNIE活動に取り組んできた。各クラスのNIE当番の生徒は、「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野の中から1つ選び、その日の新聞から関連する記事を1つ切り抜き、クラスで1冊用意した「NIEノート」に貼る。そして

選んだ記事について①記事の概要説明②出来事が起こった背景③出来事の本質④提言という4つの観点でスピーチを行う。これにより今日的課題である「環境」「開発」「人権」「平和」の4つの分野に関する最新的话题をいち早く学ぶことが可能となった。そして1週間ごとにクラスの代表作品を選出し、校内のNIE掲示板に掲示。学級・学年を越えて触発し合うことで、より深い読み込みに挑戦している。

こうした取り組みが教科指導にも波及。現在では数学、化学、物理、家庭科などの授業でも新聞を用いた実践がなされるようになった。

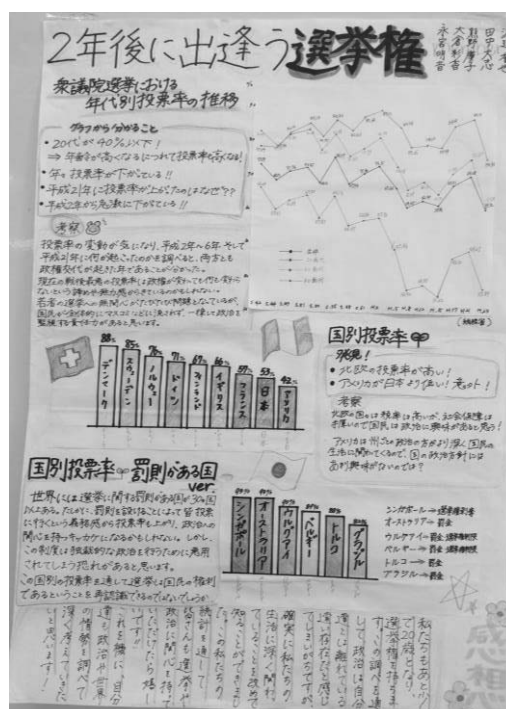
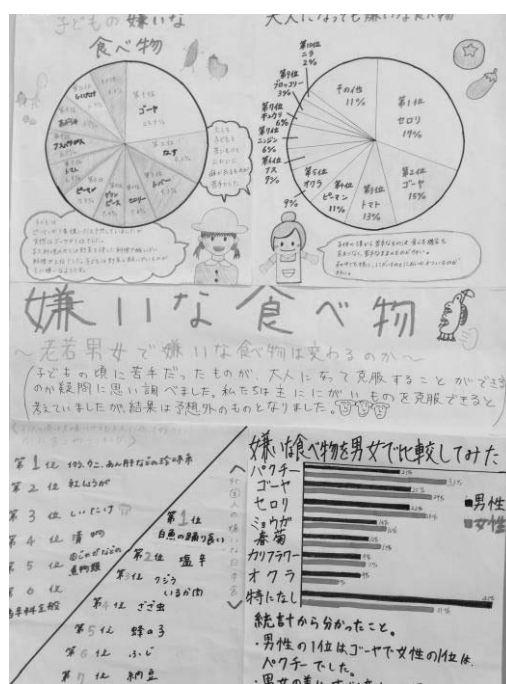
(資料1) NIE掲示板



(資料3) 化学の授業でのNIE



(資料2) 数学の授業で作成した作品



(2) N I Eを取り入れた研究発表

生徒が設定したテーマの一例は表（資料4）にある通りである。生徒は自分たちで研究発表を行なったことで、世界で起きている諸問題に主体的に向き合うことができた。また、大学側には予め生徒が掲げたテーマ一覧を確認して頂き、それぞれの分野について研究をされている先生方を担当教授に割り当てて頂いた。教授らの専門的見地からの指摘や助言は、生徒の学びを

（資料4）研究発表テーマ例

環境	「中国の環境」「発展途上国の水不足」
開発	「地球のエネルギー」「災害からの復興」
人権	「医療差別・障がい者差別」「イスラム国と人権」
平和	「世界の貧困問題について」「継続している戦争・紛争」

一層深いものとする
ることができた。
ここで行った発表
をもとに、さらに
詳しく調査をし、

現役大学院生にも複数回指導にきてもらい、内容を深化させてきた。ここまで作り上げてきた研究は、3学期に保護者向けにも発表を行った。

（資料5）研究発表のようす



(3) N I Eを取り入れた平和学習

創立記念日である11月18日「英知の日」に向けた学習会は、世界で平和のために行われている活動を知るとともに、自分には何ができるかを考える時間とした。そして世界中の平和を願うエネルギーを自分たちがつないでいくとの決意を込めた活動にしようと考えた。具体的な平和学習の流れは以下の通りである。

- ① 「英知とは何か」をクラスごとに考え、2文字以内の言葉で表現する。
- ② 平和のための活動」や「平和な生活をつくろうとしている人」についての新聞記事を1人1つずつ持ち寄る。
- ③ クラスで記事の発表をし合い、自分たちには何ができるかを議論する。
- ④ 新聞記事を必要なサイズにちぎり、①でクラスごとに考えた言葉に貼っていく。
- ⑤ 完成した全クラスの作品を式典で発表する。

新聞記事を1人1つずつ持ち寄るという課題を与えることで、学習会までに全員が新聞に目を通す時間をつくることができた。さらに各クラスで発表を行ったことで、新聞記事を読み深めることもできた。

中には、家庭で新聞を購読していない生徒も当然いた。そうした生徒も参加できるよう、学習会に向けて予め新聞を蓄えておき、行事の時期に全クラスに新聞を配布した。ここでは実践指定校として新聞各社より提供して頂いている新聞が大変役に立った。

他クラスが「英知」をどのような言葉で表現したかについて、どの生徒も関心を高めていた。行事当日はこの関心も手伝って、並べられた作品をまじまじと眺める生徒の姿が多く見受けられた。また、文字を形作っている新聞がどのような記事かを注意深く見ることで、ここでも新聞記事の内容に目を向けることができ、幾重にも学びを生むことができた取り組みとなった。

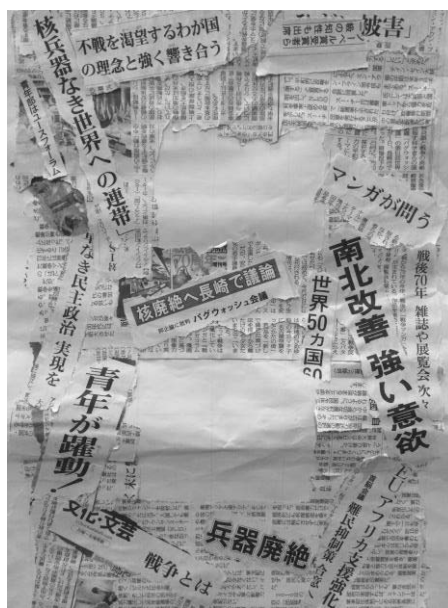
(資料6) 発表会のようす



(資料7) 作品



(資料8) 作品の一部を拡大したもの



■考察

生徒の関心は1人1人違うため、どのような題材に生徒が興味を示すかをすべて把握することは困難である。こうした問題を解決するように、新聞はすそ野を広げた学びを提供してくれた。今回紹介した(2)(3)の2つの実践では、いずれも大まかなテーマを提示しただけである。そのテーマのもとで、「小テーマ」を自分たちで設定して学びを開始するため、生徒は高いモチベーションで取り組むことができたように感じる。

(3)の実践では、①新聞記事を探す②グループ発表③クラス発表④作品展示の4段階で新聞記事を読む機会を生み出すことができた。この4段階での学びは別の場面でも応用ができると考える。取り組みにかかる時間、費用、授業者にかかる負担など、あらゆるコストが低く抑えられていることが大きな要因である。その上、4度にわたる学びが実現するので還元率は極めて高い。

■成果と今後の課題

NIEの教育効果は、実践したことのない先生方でも容易に想像できるだろう。それでもなかなか着手できないのは、「新しいことを始める」というハードルが高く感じられるからである。このハードルを解消するため、今年度はすでに存在している教育活動にNIEを無理なく取り入れることを目標に進めてきた。実践を終えてみると、難しいことは何もなくあったという実感と、新しいことを始められたという達成感が、多くの先生方に感じて頂けたようである。

何より、世界で起きている諸問題についての生徒の関心が高まったことが嬉しかった。ニュース検定に関心を示す生徒も誕生している。こうした大きな潮流の中で、生命尊厳の哲学と、世界で起きている諸問題とを結びつける姿勢が養っていければと、念願してやまない。

また、常時活動として取り組んできた「NIEノート」の取り組みは、日本新聞協会主催の「いっしょに読もう！新聞コンクール」にも直結した。2015年度は日本新聞協会から1名が「優秀賞」を、2名が「奨励賞」を受賞。さらに、大阪NIE推進協議会からも5名が「優秀賞」を受賞した。日常的に取り組むことで、着実に問題意識や本質を捉えようとする姿勢、また解決の方途を探る力が高まってきていると実感することができた。

今後の課題は、これまで学校として実践してきたさまざまな教育活動に、NIEを無理なく取り入れることができるのではないかと期待を、同僚の先生方にも持って頂くこと。そして教科指導の中でも日常的にNIEを実践していくことができれば、さらに充実した学校教育へと発展させていけることは間違いない。これからも、持続可能なNIEの取り組みを模索しながら、世界平和に寄与するグローバルリーダーの育成へ、責任を果たしていく決意である。

成果と分析

1. 2015 年度卒業の海外大学進学者数

アメリカ創価大学 13名（ブリッジプログラム含む）

2. 2015 年度主な外部コンクール（全国大会）での活躍

第62回国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール 文部科学大臣賞
(3月 副賞として国連本部訪問)

第9回全日本高校模擬国連大会 模擬国連部優秀賞（2016年5月 国連本部での国際大会の日本代表）

3. 英語外部検定成績

英語能力検定試験合格者数（単位：人）

2016年度	1級	準1級	2級	2級以上
1069名中	2 (0.2%)	16 (1.5%)	263 (24.6%)	281 (26.3%)

GTEC（高校1年生1月実施 Basicタイプ受験 受験者327名）

トータル 452.7（グレード4）（スコア上限 660）

リーディング 173.3（グレード4）（スコア上限 250）

リスニング 144.2（グレード3）（スコア上限 250）

ライティング 105.0（グレード4）（スコア上限 160）

高校1年生1月現在で高校卒業時の推奨グレードとされているグレード5が76名、海外進学を視野にいれることができるグレード6が17名との結果となった。

TOEIC（高校3年生12月実施）：268名受験 平均 445点

4. 生徒アンケート

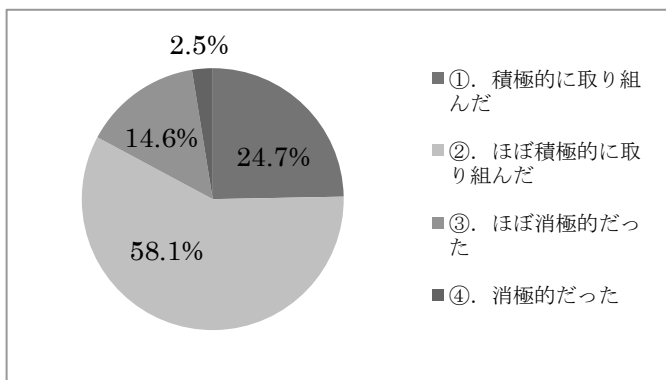
4.1. アンケートについて

3月に1年間を通してのSGH活動に対するアンケートを全校生徒対象に行った。3年生の受験生などの回答はなかったが、全校1069名に対し、906名の回答があった。各設問とその割合は別紙参照。

1年目であり、詳細な分析は次年度に行うが、主に目立つ項目について言及する。

4.2. アンケート結果

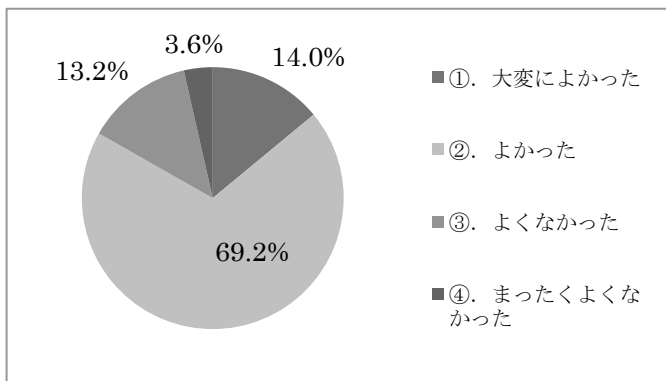
問 1 あなたは GRIT に積極的に取り組みましたか。



「積極的」と「ほぼ積極的」を加えると、82%になった。

生徒は積極的に GRIT に取り組んでいたようだ。

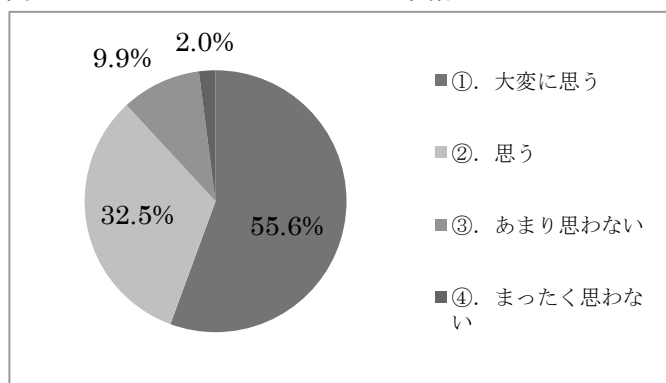
問 3 GRIT の授業全体を評価してください。



GRIT の授業の生徒の評価は「大変よかった」「よかった」を合わせると 83% になった。相関はわからないが、ほぼ積極的に取り組んだ人数と比例していた。

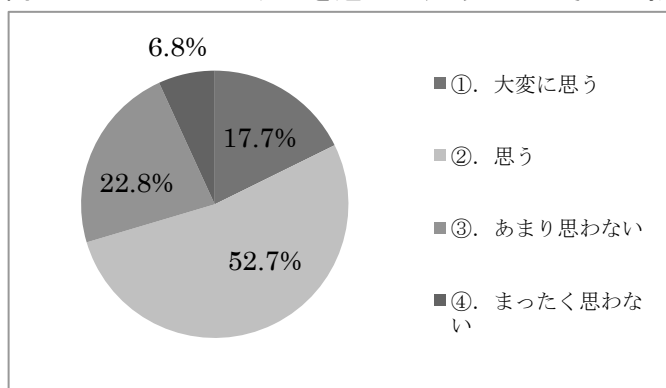
しかし、1 で「積極的」な人数ほど、「大変よかった」が多くはないので、さらに満足度を高めたい。

問 1 1. プレゼンテーションの準備のための iPad やパソコンは必要だと思いますか



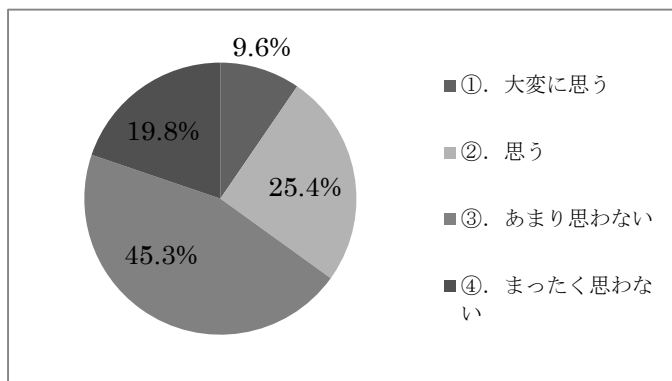
「大変に思う」「思う」を合わせると 90% を超えた。これは、ICT が準備に欠かせないことを意味している。1 年生は PC を使わないプレゼンをさせたので、1 年生はなくてもかまわないという意見もあった。

問 1 5. SGH プログラムを通して、あなたの考えに影響を与えたと思いますか



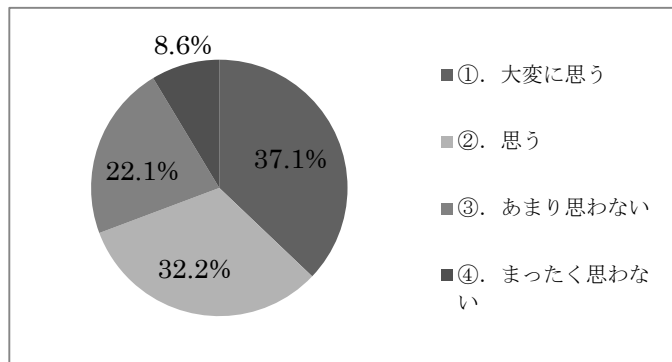
SGH のプログラムが影響を与えた割合が 70% になった。何かしら生徒の思考に影響があったことはうれしく思う。しかし、あまり思わないが 23% いるので、この生徒たちにも影響を与える授業を考案していきたい。

問 1 6 SGH プログラムを通して、あなたの進路に影響を与えたと思いますか



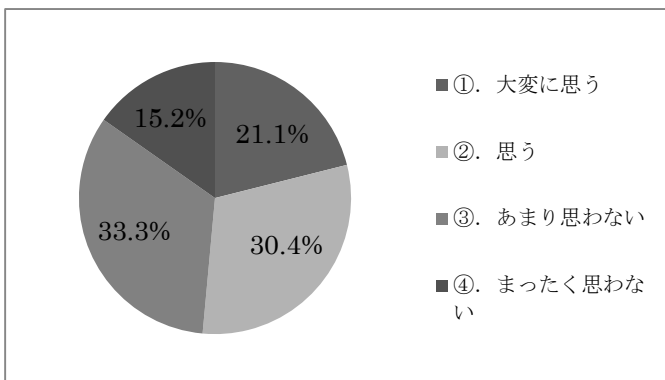
SGH のプログラムは進路には 35 % の生徒に影響を与えている。これは高い数字だと考えている。個別にみると 2 年生は 40 % 近くの生徒に影響を与えているというデータがある。進路学習としても SGH のプログラムを活用していきたい。

問 1 7 将来、海外の大学へ留学、進学をしたいと思いますか



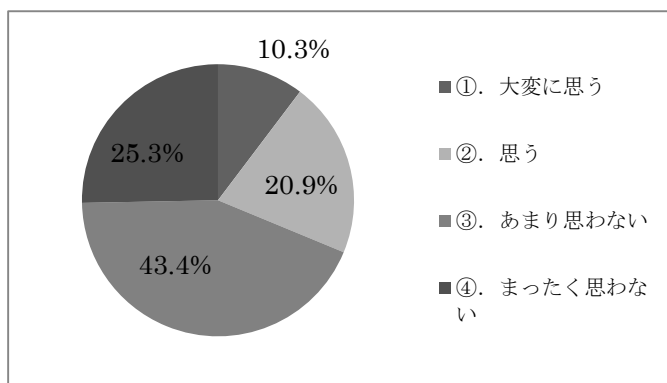
69 % の生徒が留学を視野にいられていることがわかる。また、詳細を見ると、3 年生でまったく思わないとした生徒が 5 % と平均より少ない。卒業にあたり、将来は留学したいと思う生徒が増えたと期待している。

問 1 8 将来、海外で働きたいと思いますか



将来海外で働きたいとの生徒が 50 % を超えた。この意欲をさらにもち、世界で活躍する卒業生が増えるよう、また、そういう企業と連携した授業を今後も展開したい。

問 1 9 将来、国際機関にかかわる仕事がしたいと思いますか



思うと答えた生徒が 31 %。

高い人数で推移している。実際には海外に出なくても、身近なところで行えるグローバル化に携わる生徒が増えるようにしていきたい。

2015 年度 SGH アンケート回答 全校 結果 (N=906)

(GRIT (青春対話の時間はのぞく) について)

1. あなたは GRIT (青春対話の時間はのぞく。以下同様) に積極的に取り組みましたか。

①. 積極的に取り組んだ ②. ほぼ積極的に取り組んだ ③. ほぼ消極的だった ④. 消極的だった

24.7%	58.1%	14.6%	2.5%
-------	-------	-------	------

2. GRIT に取り組んだあなたのクラスを評価してください

①. 積極的に取り組んだ ②. ほぼ積極的に取り組んだ ③. ほぼ消極的だった ④. 消極的だった

26.6%	61.6%	9.9%	2.0%
-------	-------	------	------

3. GRIT の授業の全体を評価してください

①. 大変によかった ②. よかった ③. よくなかった ④. まったくよくなかった

14.0%	69.2%	13.2%	3.6%
-------	-------	-------	------

4. GRIT の内容に触発されることがありましたか

①. 大変にあった ②. あった ③. あまりなかった ④. まったくなかった

18.1%	54.8%	23.4%	3.8%
-------	-------	-------	------

5. GRIT で配布される資料は適切だと思いますか。

①. 多い ②. 適切 ③. 少ない

29.8%	62.4%	7.8%
-------	-------	------

6. GRIT にかかる時間数は適切だと思いますか。

①. 多い ②. 適切 ③. 少ない

40.7%	48.3%	11.0%
-------	-------	-------

(3 学期の GRIT 発表 (1 年生青春対話、2・3 年生 GRIT) について)

7. 自分のチームの発表準備への取り組みはうまくいきましたか。

①. 大変によかった ②. よかった ③. よくなかった ④. まったくよくなかった

28.9%	56.3%	12.5%	2.4%
-------	-------	-------	------

8. 自分のチームの発表内容について評価をしてください。

①. 大変によかった ②. よかった ③. よくなかった ④. まったくよくなかった

28.7%	60.1%	9.2%	2.0%
-------	-------	------	------

9. クラスの他のチームの発表内容について評価をしてください。

①. 大変によかった ②. よかった ③. よくなかった ④. まったくよくなかった

43.1%	51.2%	4.3%	1.4%
-------	-------	------	------

10. プレゼンテーションの準備時間は適切だと思いますか。

①. 多い ②. 適切 ③. 少ない

15.9%	59.6%	24.5%
-------	-------	-------

1 1. プレゼンテーションの準備のための iPad やパソコンは必要だと思いますか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

55.6%	32.5%	9.9%	2.0%
-------	-------	------	------

1 2. GRIT の授業のバランス（1・2 学期授業、3 学期発表）はよかったですか。

①. 適度 ②. もっと授業を多く ③. もっと発表（準備含む）を多く

70.0%	15.5%	13.0%
-------	-------	-------

1 3. グローバルシチズンシップセミナーの回数は適切だと思いますか

①. 多い ②. 適切 ③. 少ない

13.6%	64.0%	22.4%
-------	-------	-------

1 4. グローバルシチズンシップセミナーの内容はよかったですか

①. 大変によかった ②. よかった ③. よくなかった ④. まったくよくなかった

34.5%	57.7%	5.6%	2.1%
-------	-------	------	------

（あなた自身について）

1 5. SGH プログラムを通して、あなたの考えに影響を与えたと思いますか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

17.7%	52.7%	22.8%	6.8%
-------	-------	-------	------

1 6. SGH プログラムを通して、あなたの進路に影響を与えたと思いますか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

9.6%	25.4%	45.3%	19.8%
------	-------	-------	-------

1 7. 将来、海外の大学へ留学、進学をしたいと思いますか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

37.1%	32.2%	22.1%	8.6%
-------	-------	-------	------

1 8. 将来、海外で働きたいと思いますか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

21.1%	30.4%	33.3%	15.2%
-------	-------	-------	-------

1 9. 将来、国際機関（国連など）に関わる仕事がしたいですか

①. 大変に思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. まったく思わない

10.3%	20.9%	43.4%	25.3%
-------	-------	-------	-------

2 0. 今年の創立者の平和提言は読みましたか

①. 読んだ ②. 少し読んだ ③. これから読む ④. 読まない

22.3%	38.0%	30.3%	9.4%
-------	-------	-------	------

2015 年度 関西創価高等学校

スーパースーパーグローバルハイスクール中間研究発表会

【日 時】 2015 年 11 月 21 日（土）10 時 30 分～14 時 30 分

【会 場】 関西創価高等学校

〒576—0063 大阪府交野市寺 3-20-1

TEL 072-891-0011

FAX 072-891-0015

【研究開発構想名】

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦する

グローバルリーダー育成プログラム」

【発表会の内容】

10:00	10:30	11:05	12:25	12:30	13:10
受付	挨拶	SGH プログラム GRIT 公開		昼食	
(同窓会館 3 階)		(各 HR 教室)		(食堂・同窓会館 3 階)	

13:15	13:40	14:20	14:30
生徒プレゼン	記念講演	挨拶	
(同 窓 会 館 3 階)			

【配布資料一覧】

1. 研究発表会内容（本資料）
2. GRIT 報告 3. UP 報告 4. 広島フィールドワーク報告
5. Learning Cluster 報告
6. 本日の GRIT 資料（1～3 年）（1～6 までクリアファイル内）
7. SGH パンフレット 8. キャンパスガイド
9. アンケート

【挨拶】(10:30～10:50 同窓会館 3 階 IKEDAHALL)

中西校長より、本校の SGH の取り組みについて説明させていただきます。全ての課題研究推進の土台としての Active Learning を全教科の授業に導入し、①GRIT（全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラム）、②SP（希望者による放課後の特別授業プログラム）、③LC（2・3年生の希望者から選抜されたメンバーが取り組むプログラム）という3つの SGH プログラムを実施しています。

【GRIT 公開】(11:05～12:25 各 HR 教室)

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムのことで、毎月2回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time（地球的課題の調査と探究の時間）」の略称で、「根性・負けじ魂」という意味もあります。「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。常に自分の意見を持ち、ディスカッションを通して解決方法を探ることで、知識の習得だけではなく、積極性、主体性を育み、生徒同士の意識を向上させ、グローバルリーダーとしての使命感を高めていきます。

今回は、この GRIT の授業を公開させていただき、生徒が取り組んでいる様子を自由にご覧いただきたいと思いますと考えています。

【昼食】(12:30～13:10 食堂または同窓会館 3 階・会議室)

申込フォームにて、学校食堂の昼食(360円)をご注文いただけます。当日、受付にて360円をお支払いの上、食券をお受け取りください。(当日食堂にて定食またはカレーセットからお選びいただけます。)なお、同窓会館3階にて、ご持参された昼食を食べていただいても結構です。

【生徒プレゼン】(13:15～13:40 同窓会館 3 階 IKEDAHALL)

今夏実施した東京フィールドワークと広島フィールドワークの報告を行います。生徒のプレゼンテーションとDVDをご覧ください。

【記念講演】(13:40～14:20 同窓会館 3 階 IKEDAHALL)

テーマ 『日本社会のグローバル化と教育の課題』

講 師 奈良学園大学学長 梶田叡一 先生

講師紹介

島根県松江市生まれ。京都大学文学部哲学科（心理学専攻）卒。文学博士。京都ノートルダム女子大学学長、兵庫教育大学学長、環太平洋大学学長、第4期・第5期中央教育審議会副会長（初等中等教育分科会長・教育課程部会長）などを歴任。現在、奈良学園大学学長、聖ウルスラ学院英智理事長、松徳学院理事長、人間教育研究協議会代表、大阪府私学審議会会長などを務める。

GRIT 公開 授業内容 (11:05～12:25 各 HR 教室)

1 年: テーマ 開発 「フェアトレード」 貿易ゲーム

1 年生は「貿易ゲーム」を通して、国際社会での貿易に関する疑似体験を行い、また、ウルグアイ大統領のスピーチの動画を見て、現在の世界における諸問題を考えます。ルーブリック評価を用いて、自分が学んだことを客観的に評価します。

(内容)

1. 説明 (10分)
 2. 貿易ゲーム (30分)
 3. 結果発表 (10分)
 4. ビデオ (10分)
 5. ディスカッション (20分)
-

2 年 テーマ 開発 SDGs (持続可能な開発目標) 達成のために

2 年生は本年 9 月に国連で採択された SDGs について、その内容を学び、国連が目標とする 2030 年までに解決する方法などをグループで考えます。それをポスターにまとめ、グループを変更しながら、発表しあうポスターツアーを行います。

(内容)

1. 説明 (PowerPoint) (5分)
 2. ポスター作成 (20分)
 3. 新グループ作成 (5分)
 4. ポスターツアー (35分)
 5. ディスカッション (10分)
 6. 発表 (5分)
-

3 年 テーマ 人権 「いじめ」と「いじり」を見直す

3 年生は身近な人権問題である「いじめ」について、考える 1 時間です。友達へのいじりがいじめにつながるのか、「あだ名は禁止すべきである」という論題のもと、ディベート風ディスカッションを行います。

(内容)

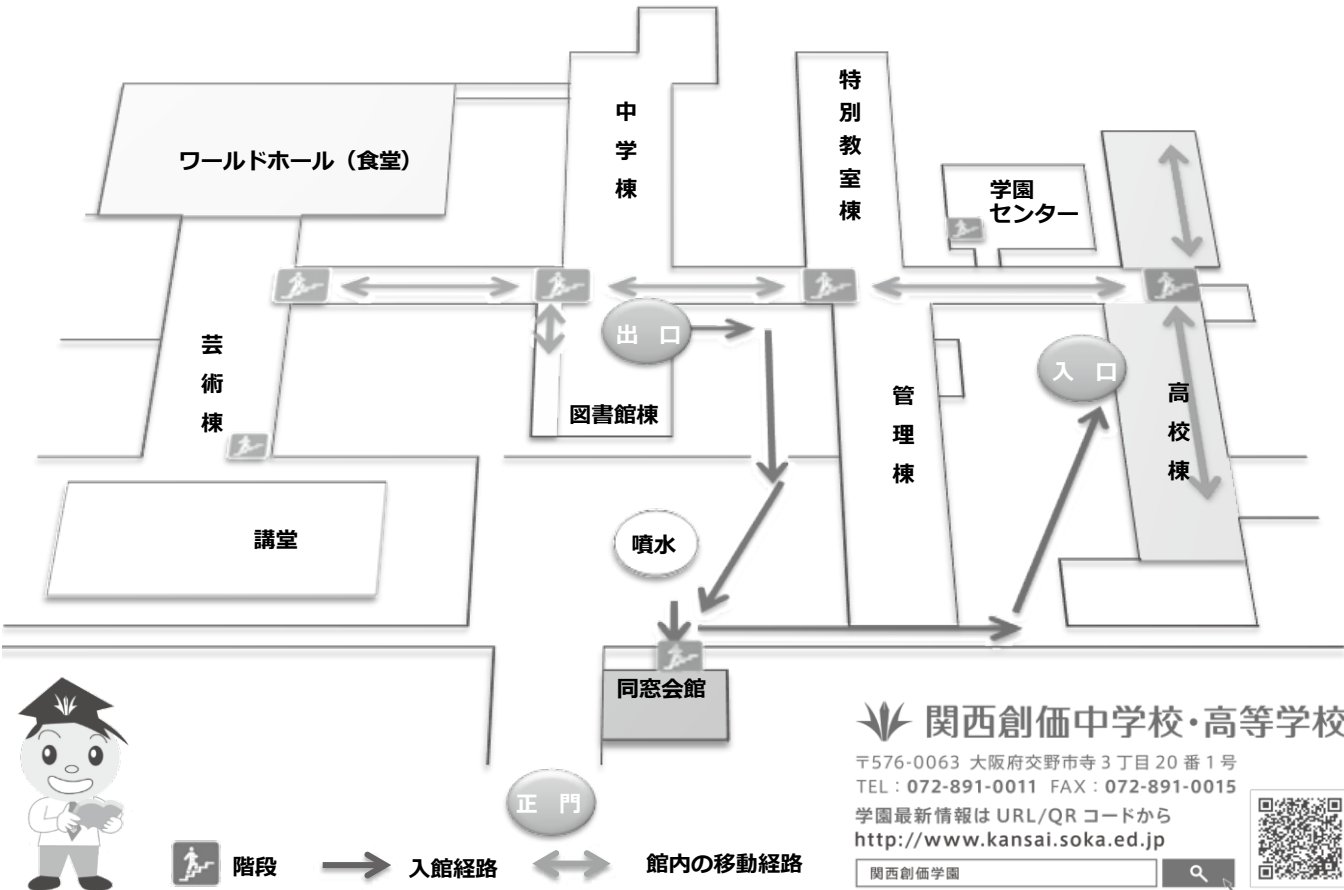
1. グループ内打合せ (10分)
2. グループ内ディベート (10分)
3. グループ内反省会 (10分)
4. グループ移動 (3分)
5. ディベート風ディスカッション (22分)
6. ディスカッション (15分)
7. 提案発表 (10分)

キャンパス Map

【高校棟】

4F	高3-8	高3-7		高3-6	高3-5		高3-4	高3-3	高3-2	高3-1	4F
3F	高2-8	高2-7		高2-6	高2-5		高2-4	高2-3	高2-2	高2-1	3F
2F	高1-8	高1-7		高1-6	高1-5		高1-4	高1-3	高1-2	高1-1	2F
				生徒会室	(受付) 入口		保健室			入口	1F

館内簡易マップ



SGH 中間研究発表会 参加者の感想

<運営指導委員>

○本日の発表会、掛け値なしに大成功だったと思います。おめでとうございます。教職員の努力の賜物だと思います。

生徒たちがいきいきと取り組んでいることが見学していた我々によく伝わってきました。今の時代、なかなかあのような若者たちの姿は見るできないと思います。

○SGHの取り組み、順調に進行のご様子・・・中西先生をはじめ教職員、関係者の皆様のご努力に心からの敬意を表します。とりわけ私が深く感じましたのは、SGHに全教員の足並みが揃っていること、先生と生徒の関係が素晴らしい。

<参加された皆様の感想>

○2年生の授業を拝見しました。生徒リーダーの作り方がすばらしい。教師が口を出さないのがよい。全学年の心が揃った展開でした。今まで十数校見てきて、一番よかった。

○生徒のプレゼンは意図が明確で、生徒の質の良さを感じるものでした。3組のプレゼンを見ましたが、ぶれていなのは素晴らしい。今日は参加して本当によかったです。

○徹底的に「平和」を課題研究の基底に据えた姿勢に感動しました。御校のファンになりました！

○今後、私どもの学校でも、生徒が研究した課題についてポスターを作成します。短時間でも生徒がポスターを作り、共有する方法など、参考にさせていただきます。それにしても、生徒が前向きな姿勢で活動に参加しており感動しました。また英語での発表も素晴らしいかったです。

○これだけの年間スケジュール、企画、立案、委員の先生方の苦労がうかがえます。GRITの授業では、担任とともに生徒のGRITリーダー等、皆様の前向きな取り組みが、学校一丸となっているのを感じました。

＜第一回運営指導委員会の議事録＞

【日 時】 2015年11月21日（土） 15時～15時30分

【会 場】 関西創価学園・同窓会館2階会議室

【参加者】

○運営指導委員

梶田叡一（奈良学園大学学長）、米田伸次（宝塚大学教授）、
朝野富三（日本ユネスコ協会連盟理事、エリーニ・ユネスコ協会理事）

○関西創価高校

武田豊（学園長）、中西均（校長）、梶田尚之（副校長・書記）、千葉一夫（総合寮長）、

○管理機関

狩野俊一（創価教育センター長）、太田総二郎（創価教育副センター長）、
杉本規彦（創価教育副センター長）

以上10名

【運営指導委員】

<感想>

- 一番良いと思ったのは、一方通行ではないこと。それが生き生きとしている源泉であると思う。
- 各教室を見て教室の雰囲気がそれぞれ違う。掲示物を見てもそうでしたが、普通は一律のものになってしまうことが多いのですが、関西創価高校の各教室にはそれぞれのカラーがあるという点が大切なことであり、とても感心した。
- 皆一生懸命なのだが、異質なところで雑草のように生き残っていくためには、どういう力をつけたらよいか。素直な子達が雑草のように、全く異質なものとも対話しながら、上手に生き抜いていく力をどのようにつけていけばよいか課題。
- 今日の1年生の内容は、時間が短かったように感じた。7時間～8時間かけてもよいのでは。ゆっくり時間をかけて実施し、最後に1時間かけて、どんでん返しをやった方がよいと思う。
- 生徒は上手によく乗っていた。先生方がしんどそうだった。GRIT リーダーは立派だった。形としては全部できていた。実感・納得・本音のレベルで考えると、少し何倍かに伸ばした方がよいと思う。
- チョウドリ元国連事務次長の「平和の文化」のキーワードは、いのちの尊厳である。創立者池田先生との対談は、とても素晴らしいものである。

<課題>

- 新聞記者の新規採用の応募者は、最近では半分位が大学院（修士）出身であるが、新聞記者には研究者的な人は向いていないと感じている。むしろ雑草的な人の方が向いていると思う。大手の新聞社の新入社員の学歴を見ると、昔は東大・京大・早稲田・慶応であったが、今は昔と違ってものすごいばらつきが出てきている。これは、いわゆるそういう偏差値的に優秀なところの学生が、イコール優秀とはならない時代になってきたと感ずる。
- 学園が理想的な教育環境に近づけば近づくほど、素晴らしい生徒達が育っていくが、外の世界は違っている。自分たちとは違った価値観で生きている人が沢山いる。異なった価値観・人生観（その中には悪も入る）に触れたときに、耐えられる強さをどのように育てるかが課題であると思う。
- SGH の学び（ESD の学びもそうだが）は、全校的に取り組むということである。指定を受けた5年間以降も持続可能な展望の中で、カリキュラムづくりをどのようにするかが課題であると思う。教科・教科外活動も含めて、トータルした総合的な構造的な組み立てをどうするか。
- 学校の中での学びと21世紀は地域での学びが重要になる。その点で、交野の蛍を取り上げているが、この学園は全国から集まっているから地域性というものが無いわけですが、地域のつながりをどうしていくかが課題であると思う。地域の人々・社会・自然との学びの出会いを通して、学校では教えられないものを手にしていく。これが特に大事

で、優れたユネスコスクールや優れた SGH の実践の共通点であると思う。

- グローバル人材の育成に欠かせないものは多様性。あるいは、異質なもののとの触れ合い。多様性、異質なもののとの触れ合いをどうコーディネートしていくかが課題であると思う。

<提案>

- SOKA のネットワークをもっと活用したら良いと思う。近場、韓国やインドネシアの高校生を1年間来させてみてはどうだろうか。

【2/27（土）SGH 最終研究発表会の件】（中西校長より）

- ・プレゼンテーション大会と考えている
- ・海外 FW の報告も実施する予定

<質問>

- 文科省への報告ありますか？←報告書の作成で。3年で見直しがある。（中西校長より）
- 到達度目標はありますか？←こちらで30項目くらい設定して報告している。（中西校長より）

2015 年度 関西創価高等学校

スーパーグローバルハイスクール最終研究発表会

【日 時】 2016年2月27日（土）13時～16時

【会 場】 関西創価高等学校 同窓会館3階（IKEDAHALL）

【研究開発構想名】

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦する
グローバルリーダー育成プログラム」

【発表会の内容】

12:30 13:00 13:15 14:15 14:30

受付	挨拶	生徒による課題探求プログラム GRITプレゼンテーション	休憩
----	----	---------------------------------	----

14:30 15:15 15:30 15:50 16

海外フィールドワーク報告・ ラーニングクラスター報告	教員による 研究まとめ報告	講 評	挨拶
-------------------------------	------------------	--------	----

【配布資料一覧】

1. 研究発表会内容（本資料）
2. GRIT 報告
3. UP 報告
4. 海外フィールドワーク報告
5. Learning Cluster 報告
6. 本日の教員プレゼンテーション資料（1～6までクリアファイル内）
7. SGH パンフレット
8. アンケート

【内容詳細】

○挨拶（13:00～13:15）

中西校長より、本校のSGHの取り組みについて説明させていただきます。

○生徒による GRIT プレゼンテーション（13:15～14:15）

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムのことで、毎月2回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time

（地球的課題の調査と探究の時間）」の略称で、「根性・負けじ魂」という意味もあります。「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。

4つのテーマのそれぞれに関して、1・2学期に GRIT で学んだことを生かし、今年1月から、全クラスがグループを作り、調査し提案を作成しました。本日は、3年生の代表生徒による4つのグループがプレゼンテーションを行います。

※1グループ15分（発表10分・質疑応答5分）×4グループ

1. 【人権】：人権って何？
2. 【開発】：開発支援について
3. 【環境】：エコを考える
4. 【平和】：集団的自衛権から平和を探る

○海外フィールドワーク・ラーニングクラスター報告（14:30～15:15）

はじめに、1月末から2月初旬にかけて実施したアメリカ・ロサンゼルスでの海外フィールドワークの報告を行います。

次に、ラーニングクラスターのメンバーが、課題研究のまとめとして、高校生の視点から考えた平和提言を発表します(英語)。ラーニングクラスターは、2・3年生の希望者から選抜された16名で実施している特設プログラムです。活動の全てを英語で行い、「環境」「開発」「人権」「平和」の中からテーマを設定して今年1年間課題研究を行いました。

1. 海外フィールドワーク報告
2. 【平和】：「核兵器廃絶」
3. 【開発】：「いじめ」
4. 【環境】：「環境教育」
5. 【人権】：「シリア難民」

○教員による研究まとめ報告（15:15～13:30）

本校 SGH 委員会委員長の小山より、GRIT・UP・LC・フィールドワーク・グローバルシチズンシップセミナーなどの本校 SGH での活動や研究について、生徒の感想などをまとめて報告します。

関西創価高校 2015 年度 SGH 最終研究発表会

参加者アンケートのまとめ

2016.2.27 (土)

1. 12 枚回収

- (1) 府内から：1 枚 府外から：11 枚
- (2) 国立学校 1 枚、公立学校 2 枚、私立学校 8 枚、卒業生 1 枚

2. GRIT プレゼンテーションについての感想・意見

- ◇GRIT の取り組みは素晴らしいと思いました。生徒さん達のプレゼンテーションも皆さんが
はきはき自分の意見を述べておられていて今後の活動が楽しみです。
- ◇プレゼン後に、3 年生がかけた準備期間についてうかがいました。限られた時間の中でここま
で仕上げられた先生方の日頃の指導の御尽力に敬意を表します。高校生にとっては、非常に緊
張した場面であり、発表をするだけでも大きなストレスがかかることは承知しておりますが、
質疑応答のところがもう少しあると、彼らの考えが更に深まっていくのではないかと感しまし
た。
- ◇ここまでのプレゼンを行うためには、生徒も先生も本当に頑張ったのだと思います。生徒に（高
校生）ここまでの能力があるのだ、それを引き出すのが（共に学ぶのが）教師の使命であると
痛感しました。
- ◇生徒のプレゼンテーションスキルにただただ感激しました。ここまでご指導なされた先生方の
熱意に敬服致します。「組織力」の大切さを痛感しました。
- ◇生き生きとまた堂々と発表する生徒の姿に感動いたしました。
- ◇大変素晴らしいものでした。知るだけではなく、問題解決に向かって提案をしていること、こ
の構え素晴らしいです。これが真のグローバル教育の 1 つの特色ですね。
- ◇しっかり学習したことを発表できていたと思います。それぞれの生徒の智恵としてつながって
いくことと思います。
- ◇生徒さんの熱意、それに加えてご指導に当たられた先生方のご努力に感心いたしました。
- ◇様々なテーマを高校生の視点からしっかりと発表されている点に大変驚きました。1000 人
以上の生徒がしっかりと SGH プログラムに取り組んでいる環境をつくられた学校の熱意にも
驚きました。
- ◇全て素晴らしい発表でした。生徒一人ひとりに力を感じます。
- ◇調べ学習がよくなされていた。スライドも工夫されていた。特に、「開発」のグループは原稿
を読むことなく自身の言葉で話されていたことが良かった。
- ◇4 つの部門に分け、表現力、発表力、皆、素晴らしい研究成果にびっくり致しました。土曜日
に全校生徒が学んでいることも伺い、地球的規模で問題意識をもち研究し学び合える空間が今
の関西創価の校風を作っているんだと感動で一杯です。

3. 海外フィールドワーク報告・ラーニングクラスター研究発表についての感想・意見

- ◇英語による発表、それに向けた準備は大変だったと思います。しかし、こういう活動を通じて、英語を教科ではなく、ツールとして見ている生徒さん達がいることを実感させていただきました。
- ◇発表一つ一つに、フィールドワークで学んだことを取り入れ、それが自分のことばになっているのは、普段から先生方が丁寧に指導され、生徒に多く気づきを与える場面を提供してきたその成果なのだと思います。限られた時間の中で全てを伝えることはできないとは思いますが、調べてわかったこと、そして自分がどう思い、どのように意見交換して、どう考えが変わったのかについての話も聞いてみたいと思いました。
- ◇とにかく素晴らしい。すべてのプレゼンを我が校の生徒に見せたい気分でした。
- ◇最後の生徒さんの言葉に感動しました。ここに辿り着くまでの「変化」の大きさを実感しました。そのまま本校の生徒に見せたい素晴らしいプレゼンテーションでした。
- ◇All English での素晴らしい発表でこれからの成長がますます楽しみです。
- ◇知識でとどまらず、問題解決に向かって提案していることがすごい。部分観ではなく、全体観に立って部分を深くみている、この視点も素晴らしいです。部分観で全体を見通せるという錯覚は慢心ですね。大変目を開かされました。素晴らしい英語でした。
- ◇いろいろな体験が生徒一人一人を育てていると思います。
- ◇英語の発音の素晴らしさはどこから来るのでしょうか？
- ◇大変内容の濃いプログラムと感じました。自分たちで考え、それを海外フィールドワークでぶつけるという機会は子どもたちにとって大きな経験になったと思います。参考にさせていただきます。
- ◇こちらも素晴らしい。英語力の高さにも感動しました。
- ◇高校生による英語でのプレゼンは、なかなか理解できないものが多いですが、非常にわかりやすいものでした。やはり女子が多いですね。
- ◇見事な語学力に頭が下がりました。10代で世界を見ること、世界の一流の人とふれ合うこと、本当に素晴らしいと思います。SGHのお陰でより多くのメンバーが海外と交流できるようになったことが創価教育の証明を早めていると感謝にたえません。“人材育成”これ以外に創価教育の証しはないことを思いますと、学園生の成長に未来がかかっていることを実感しました。

4. 教員によるまとめ報告、本校 SGH の取り組みについての感想・意見

- ◇全クラス、全員が同じ進捗で進めることのできる GRIT は、理想的だと思います。本校でも全教員が SGH プログラムに関わっています。統計が専門の教員は、統計処理の方法について、週をまたいで全クラスに指導を入れ、全生徒が同じ教員から同じ講義を受ける形となり、御校の取り組みにも近いかなというところもあります。教員間の同僚制も整っているのですね。
- ◇大変、参考になりました。自分自身ももっと研修をつまなくてはならないなと感じました。
- ◇素晴らしい日常の教育活動と歴史に裏打ちされた SGH であることを実感しました。自らの意志で25名集まったことが御校の素晴らしさだとわかりました。
- ◇教員の熱、生徒の熱がぶつかりあって情熱ある関西創価の熱が発生しているのだと感じました。
- ◇どのように取り組まれているか本当に熱く伝わってきました。先生たちのやろうとする力の源が生徒さんたちの姿であったことに納得しました。ここがブレない点と思いました。

◇熱く良いプレゼンでした。

◇貴学にもともとあった地球市民への意識がこのような質の高い実践のベースであることに気がされました。やはり信念は大切ですね。

◇皆さんの熱意が先生方からも生徒の皆さんからもたくさん感じることができました。今回の発表を参考にして本校の発表も考えていきたいと思います。

◇全教員の方向性が一つになる取り組みを感じさせていただき、学ぶ事多く感謝です。

◇先生方が楽しく活動されていることがよくわかりました。(大変だとは思いますが)

◇“熱い”小山先生を委員長とする諸先生方のお陰で1年足らずでここまでの成果を収められたことに感無量です。あと4年、これからが更なる挑戦になりますが、日本の教育界を大きくけん引されることを心より期待し願っております。

5. 研究発表会全体についての感想・意見

◇2017年、2018年の発表も楽しみになりました。

◇片道6時間かけて来たかがありました。(これから日帰りで帰ります!) 本当に素晴らしい発表会をありがとうございました。

◇素晴らしいプレゼンばかりで遠く札幌から来た甲斐があっただけでなく、自分たちの取り組みを見直す刺激になりました。パフォーマンスの作り方だけでなく、生徒の人柄がにじみ出る発表に感動しました。貴重な機会、本当にありがとうございました。これからもご指導の程、何卒よろしくお願いします。

◇たくさんのことを学ばせていただきました。今日は参加させていただき、本当によかったです。心より御礼を申し上げます。

◇大学の教員はもっと知るべき、学ぶべきです。この生徒さんたちの期待に応える大学の学びになっているか、謙虚にカリキュラムを、構えを考えなおすべきだと思いました。ありがとうございました。

◇SGHを進めていく上で、生徒の姿を見ていると先生方との良い環境の中で進められていると強く実感しました。参考になりました。ありがとうございました。

◇大変参考になることばかりでした。ありがとうございました。

◇これからも研究発表観させていただき、学ばせていただきます。ありがとうございました。

◇非常に楽しかったです。次回は是非、授業の公開もしていただければと思います。

◇第1回入学式での創立者のスピーチに『「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との信条に生き抜いた時に、この学園は、やがて地球を平和でおおうに足る力を持つ』との言葉がありました。今、まさに関西創価の皆さんがその力を発揮する時代を作ってくくださったと大感動しています。ありがとうございました。

<第二回運営指導委員会の議事録>

【日 時】 2016年2月27日（土） 16時15分～16時55分

【会 場】 関西創価学園・同窓会館2階会議室

【参加者】

○運営指導委員

梶田叡一（奈良学園大学学長）、

朝野富三（日本ユネスコ協会連盟理事、エリーニ・ユネスコ協会理事）

○関西創価高校

大原良満（常任理事）、武田豊（学園長）、中西均（校長）、梶田尚之（副校長・書記）、
千葉一夫（総合寮長）、

○管理機関

狩野俊一（創価教育センター長）、太田総二郎（創価教育副センター長）、

杉本規彦（創価教育副センター長）

以上10名

【運営指導員】

《意見・提案》

○今日のGRITプレゼンテーション（人権G）の中で、SGH高校生会議という提案がありました。この横の連携・動きを進めていけばよいのではないかと。創価教育の素晴らしさを少しでも広げていくという意味もあると思います。

○東西連携は今、何かできていますか。

<（狩野）特段ありません。東西の発表会には、それぞれの教員が参加していますが、関西高の発表会で東京が勉強させていただいているという感じです。今回初めて、モントレーの会議に東西の生徒代表が参加するということで、生徒同士のTV会議を行い、連携をしたところです。>

大学とはサテライトで結んで授業をされていますね。今日の発表の中でも、授業公開WEEKとして先生方で授業を自由に見学するという取り組みがありましたが、特に面白い授業については東西をTVで結んで行ってみてはどうでしょうか。十分に成り立つと思います。それによって透明性が高まるとともに、先生方の授業力UPにつながると思います。そろそろ関西創価の素晴らしい取り組みを横に広げていくことに取り組まれてはいかがでしょうか。

○小山先生（SGH委員会委員長）のあの語り口、熱気で生徒を巻き込んでいく。関西のよさ。巻き込み型。関西特有のもの。東京にはないものです。高校生には有効だと思います。TVで結んで授業をしてみるのはいいと思います。関西から東京にTVで授業をし、関西の良さを発信し、また、東京からも関西にTVで授業してみてもよいと思いま

す。東京には理系の素晴らしい先生がいますね。その方がやってみてはどうだろうか。理系女を育てるには、女性の理系の先生が物理とか数学を説くのがいいのです。東西両校の人的財産の共有をしていけば、1+1が4にも5にもなると思います。教師のレベルがいっぺんに上がります。ガラス張りで東西で授業をするというのは、相当な準備が必要であるし、生徒を引っ張っていかなければならないので。

○教員の一人一人の持ち時間が実質的に否応なしに増えていくと思います。特に、数年後の新指導要領ではそうなると思います。さきほど話題になったTV（サテライト）での授業などを行うと、一人一人の時間数を集約できる一つの工夫になると思います。先生方が疲れ切らないようにしてあげる工夫が必要です。したがって、カリキュラムの検討も今からやっておかれるとよいと思います。

○今日の内容を見て、率直に言って、中間発表の時よりもかなり大きく進展していると思います。うまくいっていると思います。

○GRITを教科の中に組み込めればいいですね。そうすると先生方の負担も軽減することができますね。

＜（千葉）評価という問題があると思います。教科には、評価が入ると思います。GRITは、教科の評価とは別ものとするとしておいた方がよいと思います。東西で推薦基準がありますので。今後の研究課題であると思います。＞

○習得・活用・探究は指導の目標でもあり、評価の目標でもあります。東京高ともすりあわせてしていければと思います。

＜（中西）創価大学の関田教授にもご指導いただいて、ルーブリック評価も含めて、評価方法についていろいろと検討しているところです。＞

○アクティブ・ラーニングは、習得・活用・探究のすべてに渡るものです。GRITを教科の中に位置づけるとよいと言ったのは、探究、高校でおろそかになりがちな高次の問題解決能力、すなわちPISA型の学力をつけることができるという関西創価の新カリ、売りになると思うからです。

＜（杉本）昨日、合田先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課長）のお話を聞きました。そこでは、学びをアクティブにするためには、何のために学ぶのかという視点が大切であると言われていました。＞

＜（狩野）合田先生のお話の中でも教科横断型を強く言われていましたので、GRITの内容を各教科にうまく振り分けることができれば、GRITは成立すると思います。推薦の問題で言うと、東京高では学校設定科目は評定計算からはずして、必修のところで計算しています。学校設定科目には、個人の自由選択がありますので。＞

＜（太田）いろいろとご指導を頂きながら、GRITを教科の中に位置づけた時の評価について、その内容の説明が高校以外の先生方にも納得していただけるものになっていけば、保護者の皆さんにも納得していただけるようになると思います。＞

○保護者の方に理解してもらうことは大切ですね。高校の先生方は堅い。大学もそうであるけれど。それをほぐしていくことが必要ですね。GRIT の意義を皆でよく考えて、これは評価にも生かしましょうと、いくつかほぐし方があると思います。東西で相互に刺激し合うというのは、とってもいいと思います。

○別な角度でもう一つ言っておきたい。グローバルに取り組む時に文科省が必ず言うのは、和文化・伝統文化のこと。今の指導要領の中には、意図的に小学校から高校まで和文化的な内容を盛り込んだのです。逆説的に見えるかもしれないが、グローバルな時代だからこそ、それぞれのところで育ってきた大事なものをもって国際的なところに持っていかなければ、平板になってしまう。多様性の中での共生が大切なのです。

《質問》

○2年目ですね。次の4月以降のプログラムはできているのですか。

＜（中西）SGHA の時も含めると2年目です。今まさに作っているところです。先日もSGH 委員会を実施しました。GRIT に関しては、今年度の反省点を生かして、考えているところです。UP クラスについては、京都大学の山敷先生、創価大学の先生に1学期に3回ずつ授業をしていただく予定になっています。LC については来年度は24名に増やす予定。3月4日にメンバー発表します。嬉しいことに、LC を目指している人が、1年生で80人～90人いて、1年間アドバンスト・イングリッシュを履修した人にLC の試験の受験資格があるとしたおかげで、最後までしっかりと英語力を身につけさせることができました。希望者は全員LC に入れてほしいという保護者のご意見もあります。そのようなご意見もできるだけ生かす形で、海外FW も全校生徒にライブ中継しました。さらにカリキュラムの検討も始めています。教員の負担を軽減できるようにしたい。GRIT を教科の中に入れることができないか、また、平日に実施できないか等、新カリキュラムの前に、自分たちのSGH カリキュラムを作成しようと考えています。学園全体として東西のバランスも見ながら、創価教育からはずれないようにするためにも、様々に検討中です。＞

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第1年次

研究開発実施報告書

平成28年3月31日

発行 学校法人 創価学園 関西創価高等学校

〒576-0063 大阪府交野市寺3丁目20番1号

電 話 : 072-891-0011(代表)

FAX : 072-891-0015

印刷 萩原株式会社

〒540-0005 大阪市中央区上町1-4-15

電 話 : 06-6761-8555(代表)

FAX : 06-6761-8553